乙女たちの戦車道ライフをサポートする専門誌

月刊 戦車道

High School SENSYADO Tournament 63Round
SPECIAL EDITION Vol.1

[完全保存版]全15試合の熱狂と興奮を完全収録!

第63回戦車道全国高校生大会 総決算特別号

1



前代未聞の番狂わせ

大洗女子学園 初優勝への軌跡!


買って安心！
売って満足!!
レストアからメンテまですべておまかせ！
今日からあなたもパンツァー・フォー！
その他在庫多数アリ!!
すべてが驚きの激安特価!!
ドドドドドド
試乗OK!!
ぜひ75ミリ砲の威力をお試しください！
写真提供：大塚正諭
Ⅳ号戦車
（D型改 H型仕様）
大特価
セール中！
地の果てまでも探します！
国内最大級のネットワーク!!
※当社調べ
今なら次回オイル交換無料サービス実施中！
顧客満足度業界No.1!!
★戦車からバイクまで何でもお取り扱い★
BLACK DUKE
ブラック デューク
まずはお電話！大洗買取センター
ゴフヨー センシャ コイコイ
528-1048-XXXX
戦車道履修生（中・高・大学生）には特別学割アリ!!
※この広告は、冗談です。写真の人物・戦車・団体とは一切関係ありません
★軽戦車や移動車輌もお買い得!!★
信頼のドイツ製
フィールドは無限大！
海に山に、アクティブな相棒
シュビムワーゲン
貴重な日本製
キュートで軽量・
ワタシにぴったりサイズ！
九五式軽戦車
写真提供：大塚正諭


Ⅳ号戦車D型がなんと急須になった！
2015年11月15日発売〈数量限定販売〉
戦車道＆名言集の湯呑み2種類とセットになって、桐箱入りの豪華茶器セットが登場!!
ガールズ＆パンツァー茶器揃【Ⅳ号戦車砲塔急須セット】
TU-0592 価格：11,111円（税抜）
※数量限定販売のため、品切れの際はご容赦ください。
※画像はイメージです。
※あんこう焼きはセットに含まれません。
©GIRLS und PANZER Film Projekt
ガールズ＆パンツァー茶器揃
Ⅳ号戦車砲塔急須セット
戦車
私の戦車道、やっと見つけたよ。
触れて、眺めて、注いで……
味わい深い茶器できました。
ときには茶道もいいものですね
県立大洗女子学園 五十鈴 華：監修
※こちらの広告は本当です。ぜひ、この急須でおいしいお茶を楽しんでください
バンダイビジュアルクラブにて予約受付中！ https://bvc.bandaivisual.co.jp/feature/119/

月刊戦車道

第63回 戦車道全国高校生大会 総決算 特別号1



執筆者 INDEX

イラスト
表紙／原画：吉田亘良　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
背景：岩瀬栄治（スタジオ・ちゅーりっぷ）　監修：杉本 功
2～3P／原画：杉本 功　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
背景：下元智子（スタジオ WHO）
10～11P／原画：杉本 功　特効：古市裕一
仕上：原田幸子　CG：大島渓太郎（グラフィニカ）
背景：岩瀬栄治（スタジオ・ちゅーりっぷ）
26～27P／原画：杉本 功　仕上：吉田小百合　特効：古市裕一
CG：大島渓太郎（グラフィニカ）
背景：岩瀬栄治（スタジオ・ちゅーりっぷ）　色彩監修：原田幸子
28～29P／原画：杉本 功　仕上：吉田小百合
特効：古市裕一　CG：大島渓太郎（グラフィニカ）
背景：岩瀬栄治（スタジオ・ちゅーりっぷ）　色彩監修：原田幸子
32～33P／原画：杉本 功　仕上：中間秀美（ビーメディア）
特効：古市裕一　CG：大島渓太郎（グラフィニカ）
背景：岩瀬栄治（スタジオ・ちゅーりっぷ）　色彩監修：原田幸子
36～37P／原画：杉本 功　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
背景：下元智子（スタジオ WHO）
41P／モリナガ・ヨウ
42～43P／松田未来

文章
4～8P・10～14P・16～20P・23～30P
プロット：鈴木貴昭　文：千手創壱（スタジオ小牧）
34～35P　文：鈴木貴昭
9p・15P・21～22P・31P　文：岡田邦彦
38～40P　文：糟谷富美夫
50～53P　文：塩田昌之

カバー・本文デザイン
原田美穂（OverDriveDesign）
浜岡弘臣（OverDriveDesign）
中村浩樹（OverDriveDesign）
新保真澄（OverDriveDesign）



第63回 戦車道全国高校生大会
全試合レポート
―大洗女子学園 栄光への軌跡―

この結果を、誰が予想したであろうか……。何と 20 年ぶりに戦車道を復活させた大洗女子学園が、高校最強と名高い黒森峰女学園を、決勝で破り優勝を果たしたのだ。これは、全国大会の長い歴史のなかでも異例のことであった。だが大洗女子は持てる力をすべて発揮して、ジャイアントキリング――大番狂わせをやってのけたのだ。

そこで本号では大洗女子の活躍とともに、全国大会を彩った全試合を完全レポート。さまざまな角度から、手に汗にぎった名勝負や、勝敗を分けたキーポイントを解説してみよう。



一回戦

大洗女子学園 VS サンダース大学附属高校

Oarai girls' high school

Saunders University High School

サンダース大附属の中心である、隊長のケイ(中央)や副隊長であるアリサ(左)とナオミ(右)。戦車は、おもにシャーマンを使用













独断で通信傍受用の気球を使用したアリサは、大洗女子の正確な情報をケイに報告。ただし卑怯な手段だったため、のちにケイから怒られたようだ











試合前、各報道機関や高校関係者の間では、サンダース大学附属高校の勝利を予想していた。それも無理のないことである。なぜならサンダース大附属は、潤沢な予算と全国の高校で一番の戦車保有数を誇り、黒森峰、プラウダ、聖グロリアーナとともに四強の一角を占めていたからだ。だが大洗女子学園は、誰もが思わなかった大番狂わせを見せてくれた。

　試合序盤で動いたのは、サンダース大附属。彼女たちは、大洗女子の倍にあたる10輌の各種シャーマンで、大洗女子が布陣する森林地帯へと前進する。一方、全5輌しかない大洗女子は、M3と八九式を偵察に出して迎撃態勢を整えようとした。ところがサンダース大附属は通信傍受用の気球を使い、大洗女子の動きをすべて把握。6輌のシャーマンで、M3を追撃して集中砲火を浴びせる。さらに救援に向かったⅣ号や八九式もシャーマンに包囲され、大洗女子は最初のピンチを迎えた。

　この状況を、前方から迫るシャーマン2輌と至近距離ですれ違うことにより対処した大洗女子の隊長・西住みほは、あまりにも手際が良いサンダース大附属の行動に疑問を持つ。そして、上空に浮かぶ通信傍受用の気球を発見。そこでみほは無線傍受を逆手に取り、サンダース大附属を大洗女子に有利な場所へと誘導する作戦を展開した。そう……ここから大洗女子の逆転劇が始まったのだ。

　みほが交差点へ向かうと無線で伝える一方、味方への正しい指示は、Ⅳ号の通信手・武部沙織が携帯メールで送信。茂みに隠れるⅢ突やM3の前にシャーマン2輌をおびき出し、そ

両校の戦力分析

大洗女子

20年ぶりに戦車道を復活させた大洗女子の戦車は、質・量ともにサンダース大附属に比べて見劣りがした。ただしⅣ号とⅢ突の75ミリ砲は強力な攻撃力を備えており、チームの貴重な戦力として重宝されていた





サンダース大附属

基本的には正々堂々とした戦いを好むサンダース大附属だが、各種シャーマンによる圧倒的な物量戦が大きな特徴。前衛が相手の攻撃を受け止めて後退し、後衛の主力部隊が包囲・殲滅する積極的機動防御を得意とする

両校の参加車輌

大洗女子 5輌



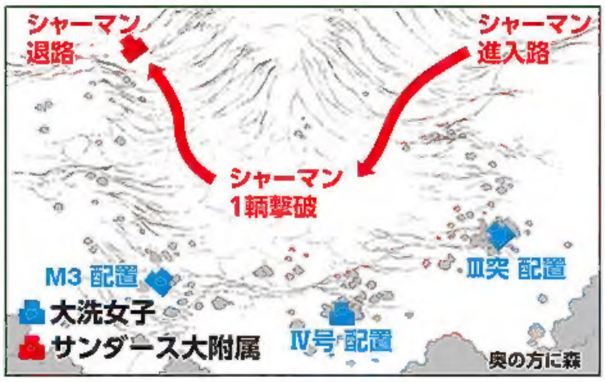
Ⅳ号戦車 D型×1　Ⅲ号突撃砲 F型×1　八九式 中戦車×1　38(t)戦車 B/C×1　M3中戦車 リー×1

サンダース大附属　10輌



M4中戦車 75ミリ砲搭載型×8　M4A1中戦車 76ミリ砲搭載型×1　シャーマン・ファイアフライ×1

ターニングポイント



サンダース大附属の敗因は、みほに無線傍受を看破されたことにある。大洗女子は偽通信で、サンダース大附属の主力とフラッグ車を分断。窪地で待ち伏せ攻撃を仕掛けたのち、相手フラッグ車を全力で追撃した。高校の全国大会はフラッグ車を先に倒した方が勝利するため、戦力が劣る大洗女子にとっては唯一勝利へとつながる戦術であった







偶発的な接敵は、お互いのフラッグ車を狙い合う追撃戦へと発展。大洗女子は後方より迫る各種シャーマンに絶望感を漂わせるが、みほがあきらめてはダメだと仲間に呼びかける













華道の家元に生まれた華は、この試合で砲撃手としての才能を開花。ファイアフライに撃破される直前に、丘の上から相手フラッグ車を一発で仕留めた。まさに起死回生の一撃と言えるだろう

のうち1輌を撃破する。さらに高地へと全車輌を集結させると偽の無線連絡で、相手の主力からアリサが搭乗するフラッグ車を孤立させることにも成功。竹林で偶発的に相手フラッグ車と遭遇した八九式が、猛烈な追撃を受けながらも、Ⅳ号ほか大洗女子の主力が展開する地点までおびき出した。

一転して不利な状況に陥ったサンダース大附属だが、隊長のケイは射撃の名手であるナオミが搭乗するファイアフライを含めた5輌で、大洗女子の後方を脅かす。しかもファイアフライの17ポンド砲は、ナオミの高い射撃精度もあり、強力な攻撃力を発揮。大洗女子のフラッグ車の後方を防御する、八九式やM3が撃破されてしまうのだった。

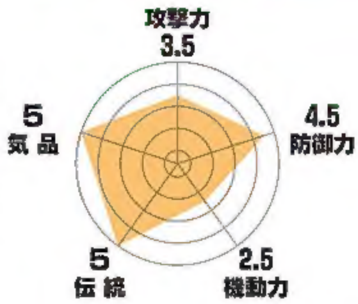
ただし大洗女子は二度目のピンチを迎えたにも関わらず、あきらめずに相手フラッグ車の追尾を続行。みほはⅣ号の砲手・五十鈴華から提案された、丘の上からの稜線射撃を決意する。だがそれは、ファイアフライにⅣ号の車体を晒す危険があった。それでもみほは、最後のチャンスであった稜線射撃を決行。ファイアフライがⅣ号へと照準を定めるなか、華が驚異的な集中力を発揮して、相手フラッグ車を撃ち抜いた。

こうして、勝利を手にした大洗女子は一回戦を突破。敗れたとはいえサンダース大附属も、途中から大洗女子の車輌数に合わせるなど、賞賛すべきフェアプレイ精神を示した。

この試合は、大洗女子が奇跡への道のりを歩み始めたのと同時に、戦車道とは何かと考えさせる試合でもあった。

両校の戦力分析

聖グロリアーナ
厚い装甲を持つチャーチルやマチルダⅡで編成された聖グロリアーナは、統制の取れた浸透突破作戦を得意とする。唯一の弱点は走行速度の遅さであったが、行進間射撃も正確に行う技量と連携の良さで克服している



BC 自由学園
オチキスH-39を主力とするBC自由は、聖グロリアーナに比べて、総合力で劣っていた。その穴を埋めるべく、今大会ではM4A1に3インチ砲を搭載した改造戦車を投入。だが、聖グロリアーナにはかなわなかった



両校の参加車輌

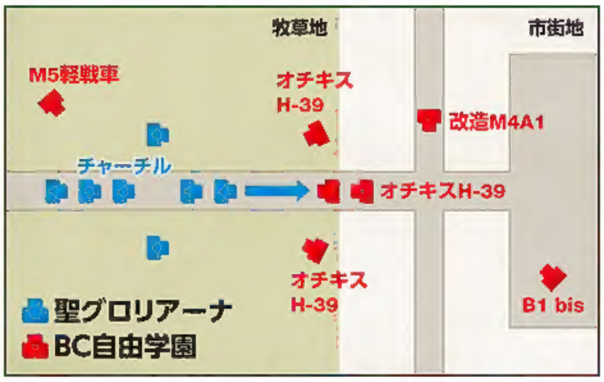
聖グロリアーナ 10輌

チャーチル ×1
マチルダⅡ ×9

BC 自由学園 10輌

オチキスH-39 ×5
M5 軽戦車 ×3
B1 bis ×1
改造 M4A1 中戦車（3インチ砲搭載）×1

ターニングポイント



聖グロリアーナを市街地内へ誘導して、フラッグ車のチャーチルをM4A1(3インチ砲搭載)で撃破する、BC自由の作戦自体は間違っていなかった。また中央広場にB1bisを配置して、主力が集結していると聖グロリアーナに思わせる戦術も悪くはない。しかしダージリンの大胆な行動と高い状況判断力により、その目論見は粉砕された



※この車輌はアメリカのものです　　写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

M5 スチュアート軽戦車

アメリカで大量生産された、M3 軽戦車の発展型である。第二次世界大戦初期、エンジンの供給不足に陥ったM3に、GM社キャデラック部門が自社のエンジン使用を提案。試作車輌の高い信頼性により、1942年に制式化された。エンジンを2基搭載した関係から、車内スペースが増加。燃料や弾薬の積載数が、M3に比べ増大した。

一回戦

聖グロリアーナ女学院 VS BC自由学園

St. Gloriana Girls' High School
BC Freedom High School

聖グロリアーナ女学院とBC自由学園の試合会場は、西ヨーロッパを模した市街戦ステージ。美しい隊列で進撃する聖グロリアーナにとり、不利な地形と言える。

だが聖グロリアーナの隊長・ダージリンは、大胆な作戦を考案。それは、BC自由の待ち伏せが予想される市街地への突入であった。

偵察のため先行するマチルダⅡ3輌の後から、縦一列で進む聖グロリアーナの本隊。市街地の入り口で、先行部隊がBC自由の囮と思われる部隊を撃破すると、次々と本隊が突入を図る。そのとき、本隊後方よりBC自由が攻撃を仕掛けた。そこでダージリンは、自らが搭乗するチャーチルを反転させ、相手戦車を吹き飛ばす。BC自由が使用するM5やオチキスH-39などは、聖グロリアーナの敵ではなかった。

実際に先行するマチルダⅡ3輌で、BC自由に勝利することは可能であった。だが「ノブレス・オブリージュ（高貴なる義務）」の精神を高く掲げるダージリンは、聖グロリアーナの伝統を後輩に示すかのように、本隊の先頭に立って指揮を執る。単に勝利を掴むだけでなく、隊長はつねに先陣を切って、皆の模範になる。それがダージリンの戦車道であった。

市街地に入ってから、さらに警戒を強める聖グロリアーナ。そこに先行部隊から、B1bisを発見したという報告が入った。場所は、市街地の中央広場。ダージリンは、そこにBC自由の主力が集結していると読んで、中央広場を包囲するよう味方に指示を出す。

ところが、チャーチルが全速でひとつ目の通りを過ぎたあと、初めて公式試合に参加するニルギリが搭乗した後続の車輌が、突然吹き飛ばされる。なんとBC自由は、路地に虎の子のM4A1を配置して、ダージリンたち本隊が通るのを待ち構えていたのだ。さらにBC自由は、周囲に隠れていたM5でチャーチルを包囲。ダージリンは、危機的状況を迎えたかに見えた。

ただしM5の37ミリ砲では、チャーチルの装甲を貫通するのは不可能。状況を見極めたダージリンは、動揺するチャーチルの装填手・オレンジペコに集中するよう指示を出す。さらに操縦手のルフナがチャーチルを反転させて、M4A1を狙える位置まで移動させる。そして、M4A1がいる路地の真横についた瞬間、チャーチルの75ミリ砲が火を噴いた。

その結果、チャーチルの2発目がM4A1に命中。白旗が上がると同時に、会場内のアナウンスから聖グロリアーナの勝利が宣言された。実は、BC自由のM4A1がフラッグ車であったのだ。

こうして、一回戦を突破したダージリンは、全国大会前の親善試合で戦った、大洗女子の試合会場へと急ぐのだった。

一回戦

アンツィオ高校 VS マジノ女学院

Anzio Girls' High School

Lycée privé de Jeunes Filles maginot

MAGINOT

近年、隊長であるアンチョビの尽力により、再び戦車道が活発化したアンツィオ高校。彼女たちは、機動力が高いCV33と、優れた対戦車能力を持つセモヴェンテの組み合わせで、全国大会に参加した。対するマジノ女学院は、横隊による戦線で相手の突破を許さない、固い防御が特徴である。

勝敗の行方は、アンツィオがいかにしてマジノの防衛線を崩すか、それともマジノがアンツィオの攻撃を、どのように受け止めるかにかかっていた。そこでアンツィオは試合開始直後、一回戦に参加した全7輌のCV33部隊をもって、マジノ陣営に突撃を敢行。その意図は、マジノの主力をかく乱して、相手の戦力を分断することにあった。

アンツィオの副隊長・ペパロニが率いるCV33部隊は、装甲や武装がともに貧弱ながらも、充分な機動力でマジノ主力を混乱状態に陥れ、そのまま一気に逃走。マジノの主力は、まんまとCV33部隊におびき出された。しかも、マジノのフラッグ車であるB1bisは追撃が遅れてしまい、スタート地点付近で孤立する。このチャンスを、アンチョビが見逃すはずがなかった。

まずアンチョビは、残るセモヴェンテ3輌で、マジノのB1bisを左右から挟み撃ちにする形で接近。B1bisの左側ラジエーターグリルに攻撃を集中させる。

だがここで、マジノ主力の一部車輌がフラッグ車の危機に気づいて引き返してきた。もちろん、逆襲するマジノ車輌の狙いは、フラッグ車であるアンチョビのセモヴェンテ。これを撃破すれば、一気に勝利が転がり込む場面であった。

一方、アンチョビのピンチを察知した副隊長・カルパッチョのセモヴェンテは、盾となるべくマジノ車輌の前へと移動。決死の機動防御を展開した。複数のマジノ車輌を相手に、冷静な判断と日頃の訓練で培ったすばやい装填で対抗するカルパッチョ。その獅子奮迅の活躍は、アンチョビに相手フラッグ車を倒す、貴重な時間を与えたのだった。

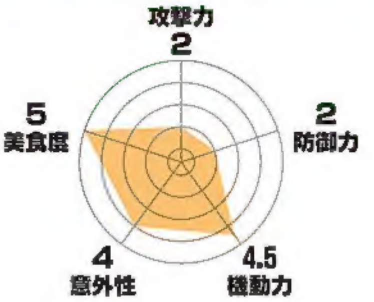
そして後顧の憂いがなくなったアンチョビは、B1bisに肉薄。対戦車榴弾砲を使用して、これを撃破した。その直前に、マジノの逆襲車輌がカルパッチョのセモヴェンテを打ち破ったが後の祭り。マジノは一回戦敗退に涙を隠せなかった。

なお、結果的には双方とも、撃破された車輌は1輌ずつ。戦況次第では、あわやアンツィオ&マジノのフラッグ車のみが倒されるという珍事が起こるところであった。ただし、どのような事態が起ころうとも、勝利は勝利。一回戦を突破したアンツィオは、次の二回戦に備えて、ある戦車を導入する。それは、大洗女子との戦いで、秘密のベールを脱ぐのであった。

両校の戦力分析

アンツィオ高校

8ミリ機関銃を2丁しか持たないCV33は、大会参加車輌のなかでも最弱である。だが、他の追随を許さない機動力は、注目に値する。またセモヴェンテの火力も侮れない。戦術次第では、良い結果が得られるだろう





マジノ女学院

参加車輌で比較的優秀なのは、B1bisとルノーR35あたり。あとは、旧式の軽戦車のため性能不足は否めない。戦術も防御にこだわり柔軟性に欠け、機動力の高い部隊に戦線を突破されると、混乱する弱点を持つ

両校の参加車輌

アンツィオ高校 10輌

M41型 セモヴェンテ×3

CV33 ×7

マジノ女学院 10輌

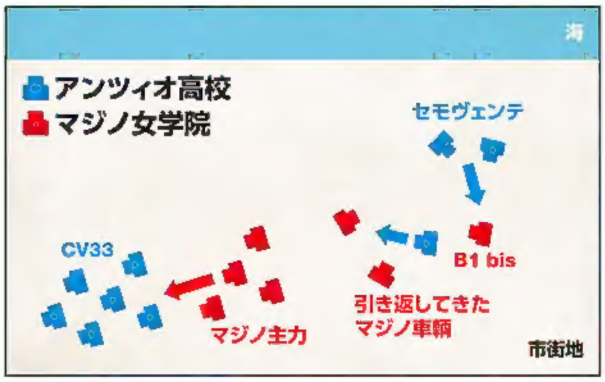
ソミュア S35×2

B1 bis ×2

ルノー FT-17×3

ルノー R35×3

ターニングポイント



一言でいうとCV33の快速性を活かした、アンツィオのかく乱戦法が決まった試合であった。また試合後半には、アンツィオのフラッグ車がマジノの逆襲部隊に狙われるというピンチもあったが、カルパッチョが驚異的な粘りを発揮。アンツィオの勝利につなげた。ノリと勢いに乗ると手強い同校だけに、大洗女子との二回戦が楽しみである

ルノーFT-17

1917年に生産が開始された、フランス製の軽戦車。当時としては画期的な、全周旋回式の砲塔を導入。機関室と乗員室も隔壁で隔離された。足回りも、コイルスプリングとリーフスプリングを組み合わせた独特の方式を採用。機動力が、これまでの戦車より大幅に改善した。この3点は、その後の戦車における基礎にもなっている。



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

一回戦 プラウダ高校 VS ボンプル高校

Pravda High School

Bonple Girls' High School

両校の戦力分析

プラウダ高校
走・攻・守のバランスが優れたT-34シリーズのほかに、「街道上の怪物」と言われるKV-2を保有。一回戦では122ミリ砲を搭載するIS-2を温存したが、それを割り引いても、すべての要素でボンプルを圧倒していた



ボンプル高校
軽戦車と豆戦車だけで構成されるボンプルは、まともな攻撃力や防御力を持っていなかった。機動力は若干優れているが、たとえ肉薄が成功していたとしても、ゼロ距離射撃でもプラウダの車輌を撃破することは不可能であろう



両校の参加車輌

プラウダ高校 10輌



T-34/85 ×5　T-34/76 ×4　KV-2 ×1

ボンプル高校　10輌

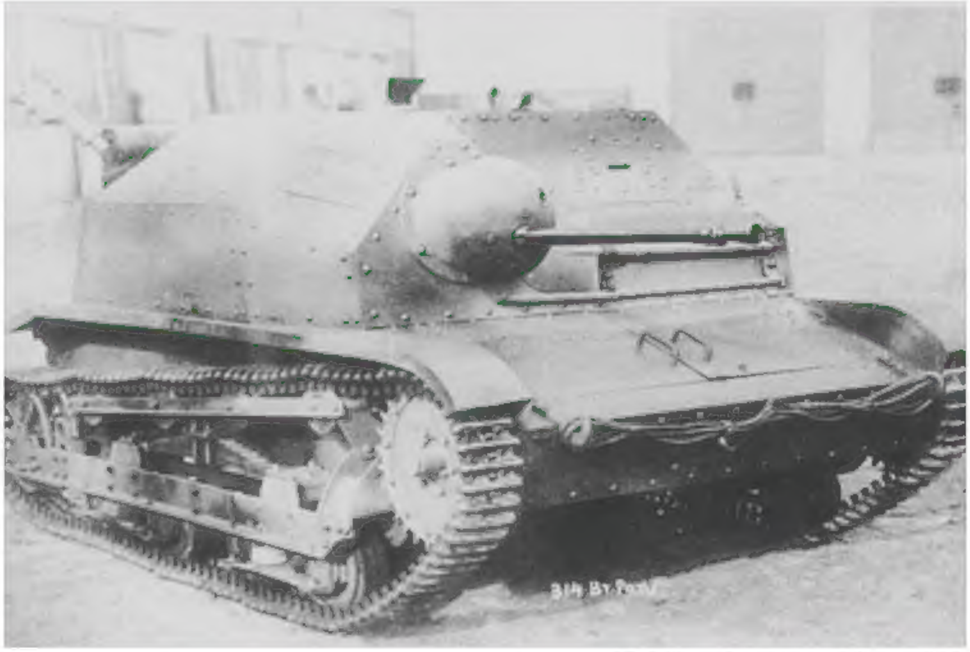


TKS ×2　7TP 双砲塔型 ×3　7TP 単砲塔型 ×4　9TP ×1

ターニングポイント



プラウダはボンプルと正面から撃ち合っても、勝利は間違いなかった。だが、わざとボンプルを油断させて一斉射撃で殲滅したのは、おそらく無傷で一回戦を突破したかったのだろう。プラウダの車輌整備能力は非常に高いが、やはり損害は少ないほうが良いはず。順当にいけば、決勝戦で黒森峰とぶつかるので、余裕を持って戦おうとしたのだ



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

TKS
　イギリスのカーデンロイド Mk. Ⅵに刺激を受けたポーランドは、TKシリーズと呼ばれる豆戦車を開発。TKSは、そのバリエーションのひとつである。1934年に量産されたTKSは、7.92ミリ機関銃を装備。1939年からは、20ミリ機関砲へと変更された。だがドイツの侵攻で、20ミリ機関砲搭載型は、20輌前後しか生産されなかった。

　第二次世界大戦時、ドイツに「T-34ショック」を与えた、T-34/76やT-34/85を始め、優秀なソ連製戦車を使用するプラウダ高校に、ウィークポイントはなかった。
　特に、有能な隊長に統率されたプラウダは、それにふさわしい結果を出す。過去には対戦校の単純な作戦にはまり、初戦で敗退したこともあるプラウダだが、今大会は隊長・カチューシャと副隊長・ノンナのコンビが、ボンプル高校につけ入るスキすら与えなかった。
　緩やかな丘陵地帯にひまわり畑が広がるステージで行なわれたプラウダ対ボンプルの試合。先手を取ったのは、プラウダであった。ステージ中央にある、盛り土をした街道をいち早く押さえたプラウダは、そのままのんびりと前進する。
　通常であれば各車輌が分担を決めて、四方に砲身を向けながら全周警戒を怠らずに、街道を進むのがセオリーである。だが、プラウダは警戒する素振りをまったく見せていなかった。これをチャンスと捉えたボンプルは、街道の左右に広がるひまわり畑に広く展開。徐々に速度を上げながら、プラウダに接近した。
　ボンプルが得意とする戦術は、横隊が前進しながら支援砲火を浴びせ、同時に散開した高速部隊が、目標に向かって突撃。最高速かつ最高密度の状態で、相手に突入するものである。実際にボンプルはプラウダに対しても、速度を活かした肉薄攻撃を選択。接近に気づかれていないと判断したボンプルは、包囲網を狭めていった。
　ところが距離300メートルを切ったとき、プラウダのフラッグ車がふいに砲塔を旋回させて、ボンプルに狙いを定める。ここから、ボンプルの悪夢が始まるのだった。
　プラウダは、完全にボンプルの戦術を読み切っていた。警戒を緩めた素振りも欺瞞作戦で、わざとボンプルの接近を許していた。その意図は、一斉射撃による殲滅にあった。充分にボンプルを引きつけたプラウダは、フラッグ車の砲撃を合図に、各戦車が射撃を開始。砲弾の嵐を、ボンプルに叩き込んだ。いかに快速を誇るボンプルとはいえ、目前に迫るプラウダの砲弾を避ける術はなかった。しかもプラウダの火力は、一撃でボンプルの軽戦車や豆戦車をやすやすと貫いていったのだ。
　プラウダの一斉射撃が終わったあとに残ったのは、美しいひまわり畑のなかで白旗を上げた、ボンプルの無残な全車輌……。前大会の決勝戦で、黒森峰の10連覇を阻んだプラウダは、その実力を遺憾なく発揮して、無傷で一回戦を終えた。これは「地吹雪のカチューシャ」と「ブリザードのノンナ」という異名を持つ、2人の作戦が完璧に決まった結果であり、格下相手でも容赦しない姿勢の現れでもあるのだろう。

全国大会ワンポイントコラム

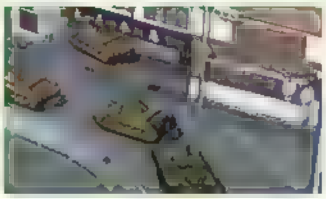
大洗女子快進撃のきっかけとなった聖グロリアーナとの親善試合

地の利を活かした奇抜な戦術

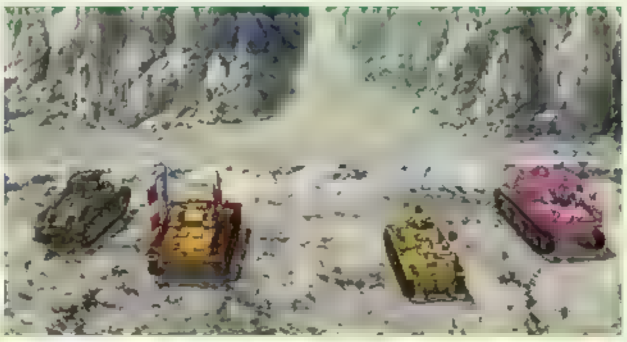
時として、初心者の発想はエキスパートの経験則や思考を越えることがある。III突の幟を使った都市型迷彩や、八九式による立体駐車場での待ち伏せは、その一例だろう。ただし、ツメの甘さは初心者ならではのもの。この点が大洗女子の課題ではあるが、大きな将来性を感じさせる試合であったと言えるだろう。

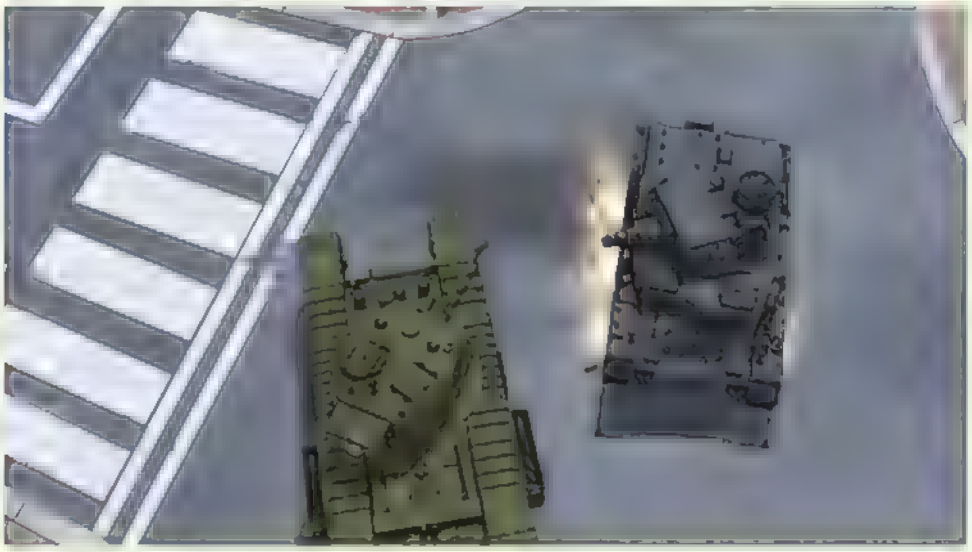






戦車道を再開したばかりの大洗女子は、西住みほ以外は未経験者ばかり。それでもみほは粘り強く戦い、試合終盤ではチャーチルの側面に回り込み、有効打にはならなかったが捨て身の一撃を放った





履帯が大地を踏む響きと砲の轟音が、大洗の地に甦る——。長らく休止していた戦車道を復活させた大洗女子学園が、強豪・聖グロリアーナ女学院と親善試合に挑むとの報を受け、取材班は現地に飛んだ。

試合は両校5輌ずつでの殲滅戦。開始の合図とともに動きを見せたのは大洗女子だった。小高い丘に布陣し、聖グロリアーナの車輌を誘引して集中砲火を浴びせる狙いが見える。偵察と囮は果敢にも大洗女子の隊長・西住みほのIV号戦車自らが務めている。対する聖グロリアーナは余裕の構え。ダージリン隊長が乗るチャーチルを先頭に4輌のマチルダIIが一糸乱れぬ見事な隊列で前進する。

戦端は大洗女子の誘引に、聖グロリアーナがあえて乗る形で開かれた。大洗女子が布陣する丘の前に、聖グロリアーナが押し寄せる。しかしここで、大洗女子の経験不足が露呈する。乱れた大洗女子の統率を突き、聖グロリアーナはその高い登坂能力を活かし、瞬く間に逆包囲を完成させる。猛攻にさらされる大洗女子の38(t)は履帯が外れ、M3は試合を放棄。大洗女子は大混乱に陥ってしまう。

ここで大洗女子の隊長・西住は、態勢を立て直すべく陣地の放棄を決断。行動可能なIII突と八九式を従え、市街地へと移動する。いまだ損失の無い聖グロリアーナは冷静に追撃を開始。戦いの舞台は大洗町での市街戦へと移行する。地元という地の利を活かした大洗女子の反撃は、大胆な偽装を施したIII突の鮮やかな待ち伏せ攻撃でその狼煙を上げる。続いて八九式も、立体駐車場を利用した奇想天外な戦術で、至近距離からマチルダIIに直撃弾を与えた。

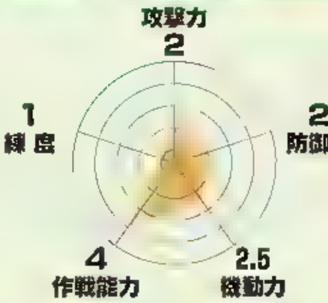
マチルダII2輌を撃破し、意気を上げる大洗女子。しかし好事魔多し。八九式の攻撃はマチルダIIの装甲を貫通しておらず、反撃によりあえなく撃破。III突も偽装用の幟が仇となり倒される。残ったIV号に殺到する、聖グロリアーナの4輌。大洗女子、もはやこれまでか。

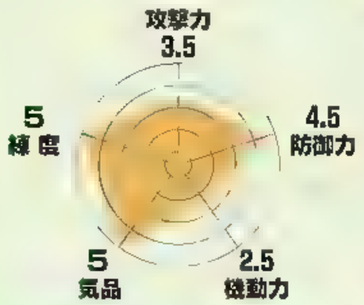
そこに颯爽と現れたのは、履帯を修理し駆けつけた38(t)。脇道からの奇襲は完璧に決まり、絶好の射撃位置につく。だが38(t)砲手・河嶋による乾坤一擲の砲撃は無情にも外れてしまう。それでも大洗隊長・西住は冷静だった。38(t)の稼いだ貴重な時間を活かし、1輌撃破。その隙に包囲より脱出を果たす。再び市街戦に持ち込んだ後は、相手の動きを完全に読み切っていた。彼我の速度差を最大限に活かした機動戦術で、続けざまに2輌を屠ったのは圧巻の一言につきる。ついには、聖グロリアーナ隊長車との一騎討ちに持ち込む、驚異的な粘りを見せるが——結果は聖グロリアーナの勝利。大洗女子は紙一重の差で敗北したものの、事前の予想を覆す非常に見応えのある試合となった。

両校の戦力分析

大洗女子

この時点の大洗女子は、戦力よりも経験不足が大きなネック。ただし隊長・西住みほは、戦車道の名門、西住流の出身で黒森峰女学園時代には副隊長を務めていた。みほの手腕と隊員の訓練次第では、有力校の一角を崩す可能性がある





聖グロリアーナ

大洗女子に比べて、大幅に戦力が凌駕している聖グロリアーナ。特に使用車輌の分厚い装甲は、大洗女子のIII突やIV号以外では貫通は難しい。ただし大洗女子の戦術には驚きを隠せなかったようで、今後の課題となるだろう

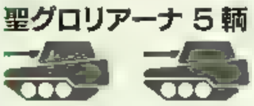
両校の参加車輌

大洗女子 5輌



IV号戦車 D型×1
III号突撃砲 F型×1
八九式 中戦車×1
38(t) 戦車 B/C×1
M3 中戦車 リー×1

聖グロリアーナ 5輌



チャーチル ×1
マチルダII ×4

一回戦

黒森峰女学園 VS 知波単学園

Kuromorimine Girls High School

Chihatan High School



全国大会の一回戦組み合わせ抽選会で、相手に黒森峰女学園を引き当てた知波単学園は万歳とともに歓声を上げた。これが他校であれば、連続優勝9回もの実績を誇る王者・黒森峰との対戦に意気消沈していただろう。だが日本式の戦車運用を学んでいる知波単は、勇猛果敢な戦術を得意としており、相手が強敵であるほど闘志を燃やす傾向にあった。実際に知波単は、全車輌による一斉突撃で過去にベスト4まで進出。近年は一回戦での敗退が続いていたが、かつての古豪が今大会でどのような戦いぶりを見せるのか注目を浴びていた。

そして迎えた一回戦目、得意の一斉突撃でカルデラステージ中央の高地を目指した知波単は、約1500メートルの距離から黒森峰の猛砲撃を浴びることとなった。

黒森峰の戦力は、パンターを中心にティーガーⅠやⅣ号駆逐戦車など、強力な車輌で構成。ヤークトティーガーなどの重量級戦車は、煩雑な整備が必要なため温存していたが、九七式中戦車が主体の知波単に比べて、機動力や攻撃力ではるかに凌駕していた。さらに、黒森峰は知波単に先んじて高地を確保。上部からの撃ち下ろしが可能だった。これだけでも黒森峰の優位は確実だったが、彼女たちは確実に知波単を仕留めるべく、約1500メートルに近づくまで待っていたのだ。

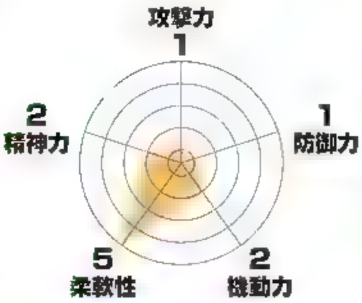
黒森峰の正確な射撃もあり、知波単側の戦車は次々と撃破された。一方、地形的にも劣勢を強いられた知波単は、ここでさらなる突撃を敢行する。この選択は、一見すると無謀にも思えた。なぜなら、一度退却して

両校の戦力分析

黒森峰女学園

戦車道の名門、西住流の後継者である西住まほが率いるチームとあって、作戦遂行能力は抜群。保有車輌も、優秀なドイツ製戦車で編成されている。生徒たちの気質は責任感が強く、質実剛健。伝統を重んじる傾向にある





知波単学園

主力の九七式中戦車は、もともと歩兵支援用の車輌。大幅な改良を施しているが、戦力不足は否めない。戦法も突撃一辺倒で、柔軟性に欠けている。ただし生徒たちは、真面目で粘り強く、戦車道にも真剣に取り組んでいる

両校の参加車輌

黒森峰女学園 10輌



ティーガーⅠ ×1
ティーガーⅡ ×2
パンターG型×4
Ⅳ号駆逐戦車L70×2
Ⅲ号戦車J型×1

知波単学園 10輌



九七式中戦車(旧砲塔)×4
九七式中戦車(新砲塔)×5
九五式軽戦車 ×1

ターニングポイント



知波単との戦力差を比べたら、正面から撃ち合っても黒森峰は負けなかっただろう。だが黒森峰は、より確実な勝利を得るため、いち早く高地を確保する。この時点で知波単の敗退は決定したと言っても過言ではないだろう。格下相手でも、全力で試合に臨む姿勢は西住流そのもの。黒森峰が持つ、王者の風格が窺える試合運びであった



態勢を立て直したうえで黒森峰の後方を狙うなり、岩などの遮蔽物を利用して近づくなりと、慎重な判断が求められる場面であったからだ。しかし圧倒的な戦力と知略を持つ黒森峰に、小細工が通じないのも事実。そこで知波単は死中に活を求めて、黒森峰への肉薄攻撃を選択した。

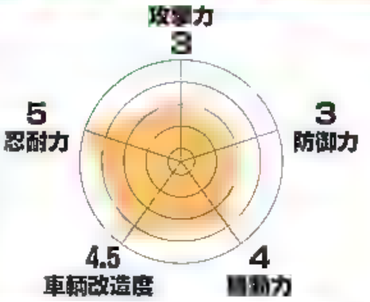
知波単の狙いは、黒森峰の車輌にぴったりと引っ付いて混乱を誘うことにあった。九七式中戦車に装備された短砲身の57ミリ砲(旧砲塔)や長砲身の47ミリ砲(新砲塔)では、パンターやティーガーの装甲を撃ち抜くことは不可能。そこで履帯などの弱い部分を攻撃して、できるだけ相手を行動不能に陥れようとした。ただし、黒森峰も知波単の意図をすばやく察知。さらなる猛攻撃を登攀する知波単に加えた。自陣に向かって一直線に進む知波単の車輌は、黒森峰にとって照準がつけやすい、楽な標的でしかなかった。知波単も、数輌が黒森峰のフラッグ車に接近したが、すべてが撃破された。

こうして知波単の一回戦は、参加全車輌が全滅。黒森峰のワンサイドゲームとなった。この結果にさすがに意気消沈する知波単の面々。無理もない。お家芸ともいえる勇猛果敢な突撃が黒森峰にはまったく通用しなかったのだ。しかしひとり、凛と背筋を伸ばし、黒森峰を見つめる隊員の姿があった。西絹代である。次期隊長と目される彼女の表情は敗北の悔しさがにじむ、というよりは何かを考えているように見えた。その表情の意味するものは何か。西絹代が来年、いかに知波単学園を率いるのかに注目したい。

両校の戦力分析

継続高校

ソ連製からドイツ製まで、多様な戦車を保有しており、そのすべてが完璧に整備されている。さらに各種改造も加えられており、本来のスペック以上の性能を発揮。生徒の能力も高く、特に雪上での戦いを得意としている



青師団高校

戦力の中心は、Ⅲ号突撃砲やⅣ号戦車。Ⅲ突は待ち伏せ攻撃に使用せず、正面装甲の厚さと火力の高さを活かして、突破戦力の中心に据えている。だが、突破を阻まれたり粘り強い相手にぶつかると、もろさが露呈する



両校の参加車輌

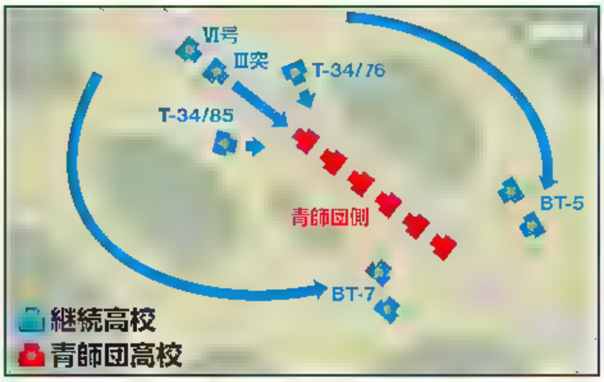
継続高校 10輌

Ⅲ号突撃砲G型×1、Ⅳ号戦車J型×1、BT-42×1、T-34/76×1、T-34/85×1、T-26×1、BT-5×2、BT-7×2

青師団高校 10輌

T-26×2、BT-5×2、ヴェルデハⅠ×1、Ⅱ号戦車E型×1、Ⅲ号戦車J型×2、Ⅲ号突撃砲G型×1、Ⅳ号戦車H型×1

ターニングポイント



両校とも似たような戦車で構成されていたが、ステージの地形が勝敗を分けた。雪原と湖沼で構成された試合会場は、快速を武器とする青師団にとって不利な場所。対して継続は地の利もあり、つねに戦況を有利に運んでいた。また泥濘地に強いソ連製戦車の存在も、迂回作戦を敢行した継続の勝利に大きく貢献した



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

ヴェルデハⅠ

スペイン・国民戦線の戦車整備部隊長、ヴェルデハが開発に着手し、生産が承認された軽戦車。スペイン内戦の戦訓を元に、人民戦線のBT-5に国民戦線が使用したⅠ号戦車の砲塔を組み合わせた。さらに車体は、避弾経始を重視した丸みのあるデザインを採用。ただし予算不足のため、生産数は100輌にも満たなかった。

継続高校 VS 青師団高校

かつてフィンランドに物資輸送を行っていた砕氷船「白山丸」を、初代学園艦としていた継続高校は、フィンランドとの関係が深い学校である。そのため、フィンランドがソビエトと互角に戦い、当時「雪中の奇跡」と称される冬戦争（1939年11月～40年3月）や「継続戦争」（1941年6月～44年9月）での戦訓と戦術を学んでいた。

そんな継続高校と青師団高校による一回戦の試合会場は、雪原と湖沼で構成されたステージ——。これは「冬戦争」でフィンランドとソビエトが、激戦を繰り広げてきた地形と似ていた。

自校に有利な地形を引き当てた継続は、雪原や湖沼に足を取られる青師団の車輌を尻目に行動を開始。湖沼の間にある隘路に布陣して、待ち伏せの構えを見せる。そこで青師団は、雪に足を取られながらも前進。速度は上がらないものの、得意の機動突破戦術で継続を蹴散らそうと目論んだ。だが継続の待ち伏せ部隊は見せかけで、BT-5やBT-7が、湖沼地帯を大きく迂回して、青師団の後方へと進出する。それは「冬戦争」の再現でもあった。

「冬戦争」では、国内の南方地域から寄せ集められた兵士ばかりで雪に慣れていないソビエト軍を森林の奥へと誘い込み、細長く伸びきった戦線の後方からフィンランド軍が攻撃。さらに、フィンランドのスキー兵部隊が数十キロ以上移動して、ソビエトの補給部隊を襲撃した。

補給と連絡を絶たれたソビエト軍は、その後、猛烈な寒波で次々と倒れていった。この史実にならった継続は、フィンランド軍の戦術を応用。後方へ回り込んだBT部隊は、青師団に奇襲攻撃を加えた。

後方からの攻撃に、青師団は混乱状態に陥った。そして隘路に布陣していたⅢ突やⅣ号が、青師団の前衛に猛烈な砲撃を浴びせると同時に、T-34/76とT-34/85が隘路を外れて左右へと展開。幅の広い履帯を持つT-34シリーズは、ぬかるんだ湖沼地帯をものとせず、細長く伸びた青師団の車輌に襲いかかった。さらに、継続生徒のドライビング能力は極めて高く、悪路ほどその力を発揮した。

こうして先頭と最後尾が撃破された青師団は、隘路上で身動きが取れず、フラッグ車が立ち往生してしまう。青師団は、何とか生き残った車輌でフラッグ車を守ろうと四方から迫る継続車輌に砲撃を加えるが、時すでに遅し。湖沼地帯を軽快に進撃する継続の車輌に、フラッグ車を撃ち抜かれてしまうのであった。

黒森峰ほか四強の影に隠れているとはいえ、継続はその実力を発揮。見ごたえのある試合となった。二回戦では黒森峰とぶつかるが、ステージ次第では、「雪中の奇跡」以上の番狂わせが期待できるだろう。

一回戦

ヴァイキング水産高校 VS コアラの森学園

Viking Fisheries High School

Koala Forest High School

自然を愛するヴァイキング水産高校は、学園艦の甲板上が広大な森林に覆われており、そのなかでさまざまな訓練を重ねてきた。また戦車道を履修する生徒は連帯感が強く、あうんの呼吸を必要とする奇襲作戦を好んで行っている。

一方、コアラの森学園は勇猛果敢で、マチルダⅡが主体となって立ちふさがる部隊を蹂躙して前進する、強攻策を得意としている。そんな両校が対決したステージは、河川が流れる森林地帯。戦力的にはコアラの森が有利だが、地形はヴァイキング水産に味方した。

河川の向こう側に展開したコアラの森に対して、ヴァイキング水産は居場所を察知されないよう、森林内を移動。そしてコアラの森の目の前で、Ⅰ号とⅡ号が渡河を敢行した。ヴァイキング水産の大胆な行動に触発されたコアラの森は、前面で渡河するⅠ号&Ⅱ号部隊に殺到。猛攻撃で出迎えた。だが、コアラの森の注意をⅠ号&Ⅱ号部隊に引くことが、ヴァイキング水産の作戦であった。

コアラの森が、渡河したⅠ号&Ⅱ号部隊を攻撃する間、ヴァイキング水産の本隊は森林を利用して、密かに相手の側面へと進出する。しかもコアラの森は、Ⅰ号&Ⅱ号部隊への攻撃に夢中になりすぎて、周囲の警戒を怠っていた。

そこでヴァイキング水産は、タイミングを見て奇襲作戦を発動。Ⅰ号&Ⅱ号部隊が壊滅すると同時に、主力であるⅢ号が森林から躍り出て、コアラの森の側面を突いたのだ。

奇襲に成功したヴァイキング水産は、Ⅲ号が相手のM3軽戦車2輌とM3中戦車1輌を立て続けに撃破。混乱したコアラの森は、あわててフラッグ車である、センチネルを後退させようとした。ところがヴァイキング水産の奇襲は、二段構えであった。なんとⅢ号の後ろに控えていたソミュアS35とオチキスH35の部隊が快速をもって、センチネルの退路を塞いでしまったのだ。

もし、ここでコアラの森が落ち着いて行動すれば、マチルダⅡやセンチネルでS35やH35を蹂躙することも可能であっただろう。なぜならS35の47ミリ砲やH35の37ミリ砲では、マチルダⅡを倒すことは、困難であったからだ。

だが、完全に浮き足立ったコアラの森に、ヴァイキング水産は立ち直る時間を与えなかった。軽快なフットワークでS35やH35がセンチネルを足止めしつつ、急速にヴァイキング水産の本隊が接近。最後は集中砲火で、フラッグ車のセンチネルを仕留めるのであった。

コアラの森と戦力差があっても、相手の心理と特性を読みきった作戦で、二回戦へと進出したヴァイキング水産。調和の取れた各戦車の動きと高い練度、そして優れた計画性でもぎ取った貴重な勝利であった。

両校の戦力分析

ヴァイキング水産

各国の戦車を幅広く導入しており、フランスのソミュアやオチキス、ドイツのⅠ号～Ⅲ号を所有する。主力はおもにⅢ号で、試合は計画通りに動くことを重視している。そのため、臨機応変に対応する相手には苦戦する





コアラの森

普段はフレンドリーな生徒たちだが、試合では高い士気を発揮。相手に突撃を仕掛ける。戦車はマチルダⅡや、M3軽戦車などを保有。試合には出ないが、センチネルAC Ⅲに25ポンド連装砲を搭載した試験車輌がある

両校の参加車輌

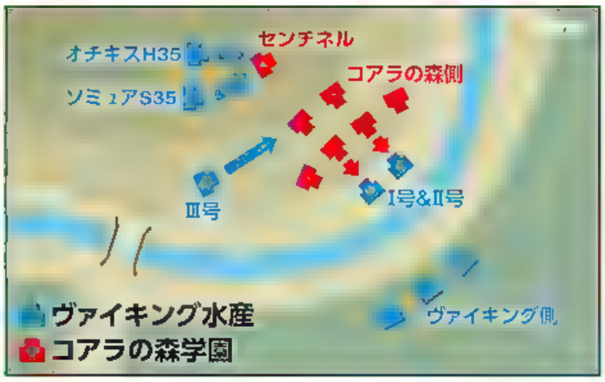
ヴァイキング水産高校 10輌

ソミュア S35×2　オチキス H35×2　Ⅰ号戦車 B型×1　Ⅱ号戦車 B型×2　Ⅲ号戦車 N型×2　NbFz×1

コアラの森学園 10輌

マチルダⅡ ×2　M3 軽戦車 ×4　M3 中戦車 ×2　センチネル 巡航戦車 AC Ⅰ×2

ターニングポイント



やはり、Ⅰ号&Ⅱ号による渡河作戦の対応に、気を取られすぎたことがコアラの森の敗因。全車輌で対処するのではなく適した戦力を投入すれば、ヴァイキング水産の奇襲も防げたであろう。また丘陵地を押さえ、登ってくるヴァイキング水産を狙っても良かったはず。戦術のバリエーションを増やすことが、コアラの森の課題であろう

センチネル巡航戦車

南半球のオーストラリアは第二次世界大戦時、戦争の脅威を感じていなかった。だが日本の参戦により事態は一変。そこで開発されたのが、センチネルである。ただしノウハウがなく、開発・生産ともに難航。AC Ⅰが約60輌、生産されただけに留まった。なお開発は継続され、試験的に25ポンド連装砲を搭載した車輌が作られた。



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

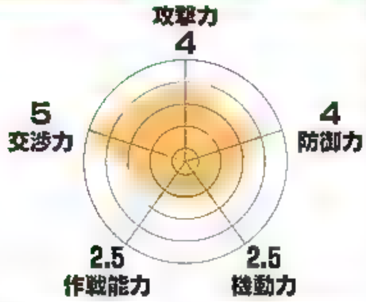
ヨーグルト学園 VS ワッフル学院

一回戦

Yogurt academy

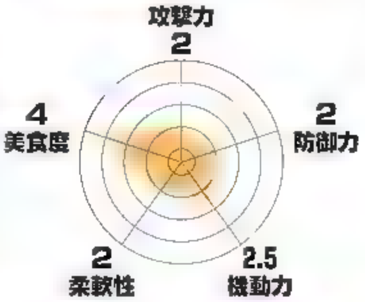
Waffle High School

両校の戦力分析



ヨーグルト学園

今回導入したドイツ製戦車は、スクラップから流用したパーツを組み合わせた再生車輌。形状は、オリジナルの戦車と微妙に異なっていた。だが、部品は戦車道連盟の基準を満たしたものを使用。性能自体はオリジナルと遜色ない



ワッフル学院

シャーマンの105ミリ榴弾砲は、射程が長く支援火器としては優秀だが、パンターなどとの対戦車戦には適さない兵器である。したがって攻撃の主力はルノーAMC35となったが、火力不足でパンターなど対抗できなかった

両校の参加車輌

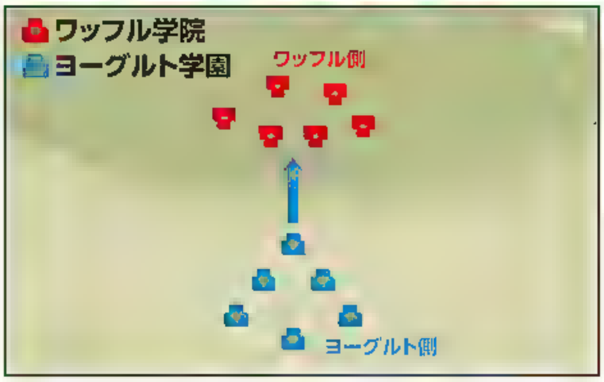
ヨーグルト学園 10輌

CV33 ×2
38(t)戦車G型×1
オチキスH-39×2
Ⅲ号突撃砲F/G型×1
Ⅳ号戦車G/H型×1
Ⅳ号駆逐戦車L70×1
ヘッツァー×1
パンターD/G型×1

ワッフル学院 10輌

ルノーAMC35改造型×4
ヴィッカーズT-15×4
M4中戦車(105ミリ榴弾砲)×2

ターニングポイント



戦術うんぬんよりも、ドイツ製戦車を揃えたヨーグルトの交渉術が光った試合。ステージの地形もヨーグルト側に有利で、ほぼ試合前から結果は見えていた。ただし、ヨーグルトの射撃精度には改善の余地がある。一方ワッフルも戦車道を再開したばかりとはいえ、機動力を発揮しないまま撃ち合いに付き合ったところも、少し残念な点である



写真提供 グランドパワー(ガリレオ出版)

ヴィッカーズT-15軽戦車

ベルギーがイギリスのヴィッカーズ社に依頼して、Mk.Ⅵ軽戦車にホチキス13.2ミリ機関砲を搭載させた軽戦車。1935年より使用されたT-15は、当時としては格段に早い、最高時速約60キロメートルを記録。そこでベルギー軍は騎兵部隊に配属した。だが第二次世界大戦では、ドイツの戦車にまったく歯がたたなかった。

これまでヨーグルト学園は、CV33や38(t)などの豆戦車や軽戦車を組み合わせた編成で、全国大会に出場していた。また戦術も防御中心で、タイミングを見て軽戦車がスピードを活かして反撃するパターンを得意としている。

だが、今年のヨーグルトは、戦車の陣容を一新。なんとパンターやⅣ号戦車G型、Ⅳ号駆逐戦車などの強力な車輌を揃えていた。入手ルートは不明だが、急激な戦力アップは、各校生徒だけでなく、報道関係者もあっと驚かせた。

対するワッフル学院は、生徒不足で戦車道を休止していたが、調理科の成功で生徒数が増加した。それにともない農業科や畜産科、水産科などを新設。学院の拡大が功を奏して、戦車道も再開された。

ただし保有する戦車は、独自の砲塔を搭載したルノーAMC35や、105ミリ榴弾砲に換装したシャーマンが主力。ほかには、ヴィッカーズT-15が数輌だけである。

このように以前と比べて圧倒的な火力と装甲を持つ戦車を揃えたヨーグルトは、一回戦の対戦相手であるワッフルを、正攻法で蹂躙しようと行動を開始。装甲の厚い新車輌を正面に配置した隊列で、ワッフルが布陣するスタート地点へと進撃した。一方ワッフルは、ステージのわずかな高低差を利用した防御陣を構築して、ヨーグルトを迎え撃つ。そして、双方が有効射程内に入ったとき、壮絶な撃ち合いが開始された。

ワッフル側は、ルノーAMC35や、シャーマンの105ミリ榴弾砲で果敢に応戦。その後方ではヴィッカーズT-15が、スキあらばヨーグルトをかく乱しようと、チャンスを窺っていた。ただしワッフルの戦力は、地形効果もありヨーグルトと比較して明らかに不利。ヨーグルトの新車輌に、なすすべがないと思われた。

ところがヨーグルトは、新車輌の扱いに慣れていないのか、命中率が悪くなかなかワッフルの車輌を撃ち抜けない。それでも、双方が停車したまま砲撃戦を繰り広げたため、ワッフルの戦力は次第に減少していく。ワッフルのシャーマン105ミリ榴弾砲も、発射速度の遅さと威力不足が原因で、パンターやⅣ号、Ⅳ号駆逐戦車の撃破にはいたらなかった。

こうして激しい砲撃戦の末、ワッフルの車輌は次々と撃破され、ヨーグルトが一回戦を制した。ただし、ヨーグルトが二回戦で当たるのは、優勝常連校の黒森峰。大幅な戦力アップがあったとはいえ、ヨーグルトにとっては最大の難関と言えるだろう。ただ黒森峰を破れば、一気に優勝候補へと躍り出るのも事実である。

ヨーグルトが二回戦までの短い期間で、どれだけ訓練で射撃精度を上げられるかが、大きな勝負の分かれ目となるだろう。

全国大会ワンポイントコラム

一回戦を終えて 審判員・蝶野亜美が語る各校の見どころ



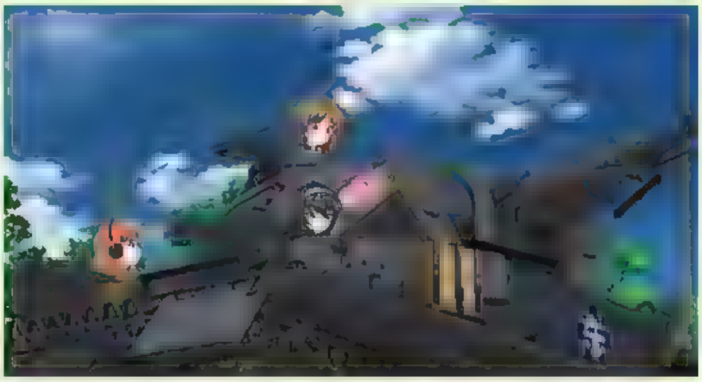
一回戦全試合の見どころを、パンパン紹介するわね。

大洗女子対サンダース大附属は、一回戦屈指の楽しい試合だったわ。サンダース大附属と大洗女子のクルクルっとした裏のかきあいから、最後は稜線射撃っていうバクチに出た大洗女子が、ギリギリの差でフラッグ車をバーンと撃破！　でも一番おもしろかったのは、逃げるサンダース大附属のフラッグ車と追いかける大洗女子、さらに追いかけるサンダース大附属の援軍ねー　鬼ごっこみたいで、あんなおもしろい展開はそう見られるものじゃないわね。

聖グロリアーナとBC自由学園の試合は市街戦。歩兵戦車を使う聖グロリアーナは不整地だとグイグイ進めて有利なんだけど、舗装路なら速度の点でBC自由の戦車に分があるのよね。ところがBC自由が最初に採った作戦は待ち伏せ。新戦力のM4A1を活かそうとしたんでしょうけど、その隙にズバっと踏み込んだ、聖グロリアーナの方が一枚上手だったわ。勝機を逃さない、聖グロリアーナ隊長の冷静さが光った試合だったわね。

アンツィオ高校とマジノ女学院の試合も、かなりおもしろかったわ。開幕早々、アンツィオのCV33が全車輌総掛かりで突っ込んでいくっていう、思い切った作戦がズバーン！と当たって、マジノ側はガチャガチャになっちゃったわね。今年のアンツィオは自分たちの特色を良く分かっているみたい。二回戦は大洗女子と当たるから、とても楽しみね。

プラウダ高校対ボンプル高校は、プラウダの注文試合になっちゃったわね。一見隙のある陣形で静かに押すプラウダに、ボンプルが痺れを切らしちゃったの。こうなったらもうどうしようもないわね。口火を切ってからはあっという間に決着したわ。



優勝常連校の黒森峰と知波単の試合は、あまりにも一方的すぎてあんまり話すこと無いわね……。結果は変わらないかもしれないけど、知波単はもう少し工夫して欲しかったかな。戦車道は細かいこと考えずにバーッと動かしてドーンと撃てばいいけど、あまりに単純すぎるのは問題ね。

継続高校対青師団高校は戦車の力が拮抗してていい勝負になるかと思ってたんだけど、雪と湖沼っていう試合会場がかなり継続に有利に働いたみたいね。終始、継続の作戦の上に青師団が乗せられてたわ。地形をビシッと活かしたかどうかで、大きな差がついた試合だったわね。

ヴァイキング水産対コアラの森は、戦車道のおもしろさを見せてくれた試合。戦車の力はコアラが優勢だったんだけど、ヴァイキングがなんと相手の目の前で渡河っていう、ビビッとシビれるような囮作戦をやってのけたのよね。これが功を奏して、戦力差を覆してヴァイキングの勝利。いやー、おもしろかったわ。

ワッフル学院対ヨーグルト学園はさっさとまったく逆で、戦車の差が露骨に出ちゃったかなー。強い戦車を持ってるヨーグルトが、ドーンと真っ直ぐ攻めてバーンと真っ直ぐ勝ったっていう試合。地形も平地だったから、ワッフルとしては工夫しようにも限界があるわね。

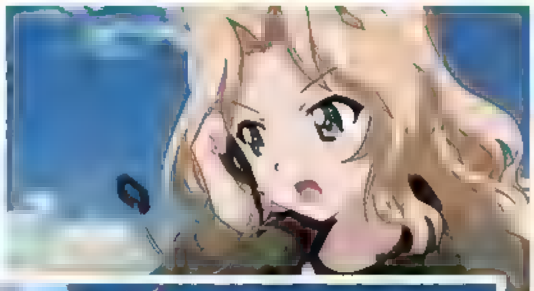
さて、一回戦はこんな感じだったけど、私の見たところ二回戦でおもしろい試合をしてくれそうなのは、大洗女子・アンツィオ・ヴァイキングかな。大洗女子とアンツィオが当たる試合は、かなり楽しめそうね！

勝敗だけでない戦車道の神髄

相手の健闘を称え合う礼節

戦車道は試合であって、戦争ではない。ライバル同士であっても、健闘を称え合うのがマナー。その点、サンダース大附属や大洗女子は、戦車道にふさわしい態度を見せた



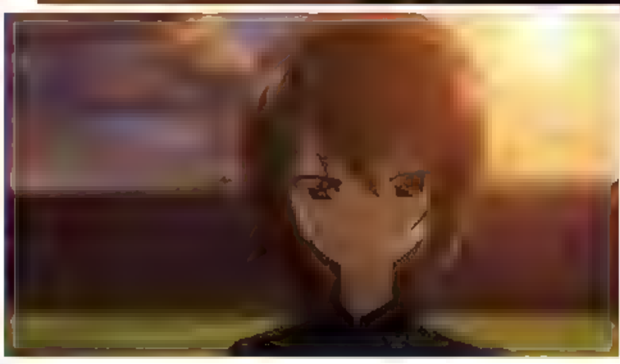






困った時には率先して協力

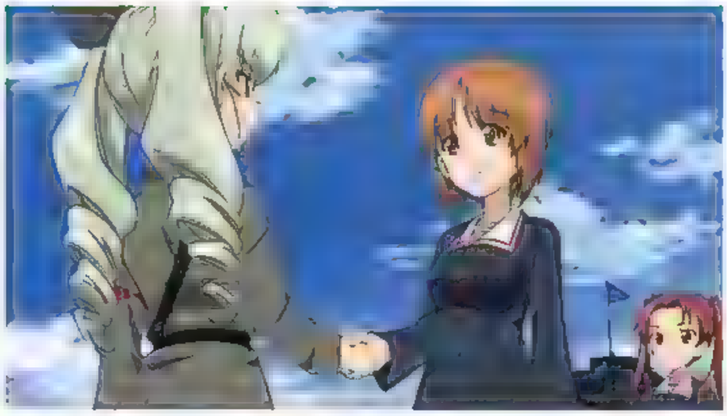
大洗女子の一回戦終了後、Ⅳ号の操縦手・冷泉麻子の祖母が入院するというアクシデントがあった。その際、協力を申し出たのが黒森峰の西住まほ。このような助け合いの精神が、戦車道にとって何よりも大切なのだ



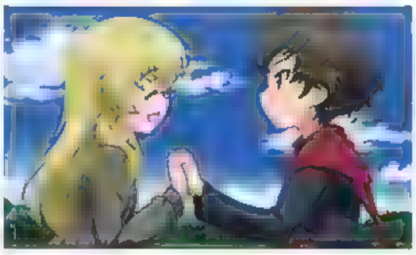
大洗女子学園 VS アンツィオ高校

Oarai girls high school

Anzio Girls High School





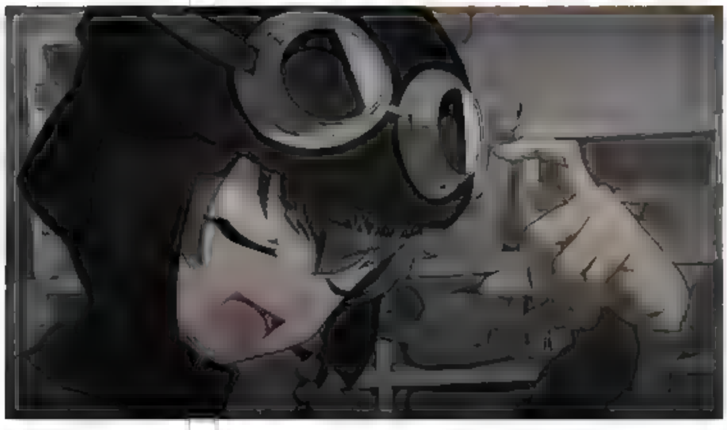


アンツィオのカルパッチョと、大洗女子のカエサルは幼なじみ同士。試合前にはお互いに健闘を誓い合った









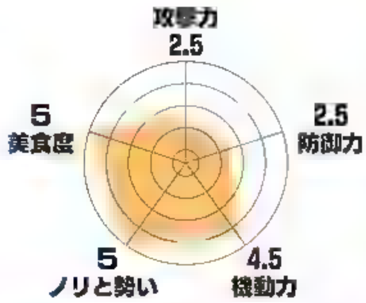
大洗女子に堅実な作戦を瓦解させ、みほに「ある意味予想外」と言わせたアンツィオ。しかしペパロニが、うっかり予備のデコイまで設置したため「マカロニ作戦」は失敗する

両校の戦力分析

大洗女子

戦力は一回戦と変わらないが、練習によりチーム全体の機動力は増していた。特に八九式は見事なフットワークと射撃精度で、走行中のCV33を行進間射撃で撃破した。火力は低いが、今後は八九式の活躍にも注目したい





アンツィオ高校

P40の導入で攻撃力と防御力がアップ。さらにアンツィオの特徴である「ノリと勢い」も、戦力向上に役立っている。ただしツメが甘く、せっかく作戦を立ててもミスを犯すことも多い。やはり、注意力も身につけたいところだ

両校の参加車輌

大洗女子 5輌



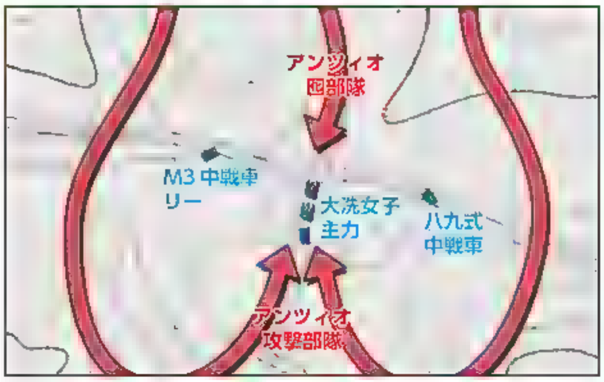
Ⅳ号戦車D型×1 / Ⅲ号突撃砲F型×1 / 八九式中戦車×1 / 38(t)戦車B/C×1 / M3中戦車リー×1

アンツィオ高校 10輌



P40重戦車×1 / M41セモヴェンテ×3 / CV33×6

ターニングポイント



やはりアンツィオ側が、デコイの数を間違えて置いてしまったのが大きな転機。これさえなければ、本隊の迂回は成功したかもしれない。ただし大洗女子のみほは、何よりも偵察を重視するタイプ。たとえアンツィオの迂回が成功しても、基本に忠実な手堅い戦術と大胆な攻勢を取り混ぜて、アンツィオの目論見を打ち破ってしまっただろう

一回戦で、優勝候補にも挙げられるサンダース大附属と善戦した大洗女子学園に対するのは、マジノ女学院を破り「ノリと勢い」が最高潮のアンツィオ高校。特にアンツィオは念願の新車輌、P40の導入でチーム全体が盛り上がっていた。

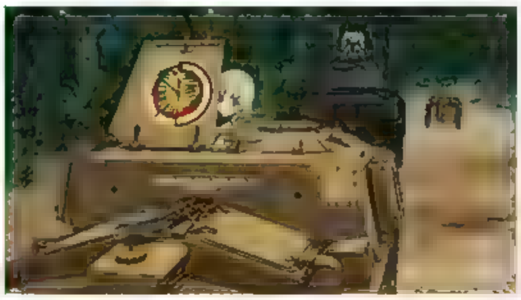
一方の大洗女子も、学園内の探索で新車輌を発見していた。ただし二回戦には間に合わなかったが、準決勝進出をかけた試合に向けて、猛練習を重ねてきた。

そして始まった二回戦。まずアンツィオ側のCV33が、十字路があるステージ中央付近へと進出。興味深い作戦を展開した。その作戦名は「マカロニ作戦」。アンツィオはリアルに描かれた戦車のデコイを十字路付近に設置して大洗女子をおびき出し、背後から襲いかかる計画を立てていたのだ。実際に大洗女子は、デコイをアンツィオの戦車と勘違いして慎重に行動。十字路付近に布陣したまま、動けなかった。

ところが、この「マカロニ作戦」でアンツィオ側は、致命的なミスを犯す。デコイの設置を担当した副隊長・ペパロニが、予備の分まで使用したため、合計で11輌もの囮を配置してしまったのだ。アンツィオの車輌数に疑問を持ったみほは、偵察に出ていたM3と八九式に攻撃を指示。結果、十字路沿いの車輌がすべてデコイだと判明した。さらに先行するM3が、本物のアンツィオ車輌を発見。報告する間もなく攻撃して交戦状態に入ったが、そのおかげでみほは、アンツィオが包囲戦を仕掛けてくると察知するのだった。

M3にアンツィオの車輌を引き付け

フラッグ車同士が、十字路に通じる街道で遭遇。カルパッチョはP40を守るため、カエサルが装填手を務めるⅢ突と対峙する

















崖の上にいるⅣ号に気づいたアンチョビの射撃は外れ、Ⅳ号の砲弾が直撃。アンツィオのベスト4進出は、ここで阻まれた

ながら、本隊への合流を阻止するよう指示を出すみほ。そのころ八九式は、アンツィオの迂回部隊であるCV33を発見して追撃へと移った。

この時点での戦況を整理すると、大洗女子のM3が、本隊との合流を図ろうとするセモヴェンテ2輌を誘引。八九式が、大洗女子の後方へと迂回するCV33 5輌を追跡中。そしてⅣ号、Ⅲ突、フラッグ車の38(t)は、相手に包囲される前に直進して、アンツィオのフラッグ車であるP40を叩こうとしていた。

ところが偶然にもみほは、移動中アンツィオの隊長・アンチョビが搭乗するP40を含む、セモヴェンテ1輌やCV33 1輌とすれ違う。こうして、大洗女子とアンツィオの試合は、前半の静かな展開とは打って変わって、壮絶な超接近戦へと移行するのだった。

P40を護衛していた副隊長・カルパッチョのセモヴェンテは、Ⅲ突とゼロ距離による一騎打ちへと突入。Ⅳ号と38(t)は、逃走するP40に接近戦を仕掛け、随伴するCV33を撃破する。丸裸になったP40のアンチョビは部隊の集結を指示するが、八九式やM3は、アンツィオ側の車輌を次々と撃破していった。最後にみほは、アンツィオの援軍が来る前に勝負を決めようと、38(t)を囮にしてP40を崖の下へと誘導。みほ自身は崖の上へと移動して、キルゾーンに誘い込まれたP40へ、必殺の一撃を放った。

緩急の激しい試合を制したのは、終始落ち着いた行動でアンツィオの奇策に対応した大洗女子。試合後は、アンチョビたちが用意した食事に舌鼓を打ちながら、お互いに友好を深め合うのだった。

二回戦

聖グロリアーナ女学院 VS ヨーグルト学園

St. Gloriana Girls High School

Yogurt academy

大幅な戦力アップを図り、一回戦のワッフル学院を一斉射撃で破ったヨーグルト学園。そんな彼女たちが、伝統と格式のある聖グロリアーナ女学院と、どのように戦うのか、試合前から注目を集めていた。しかも試合会場は、丘陵地帯が続くステージ。地形をいかに利用するかが、勝敗を決めるといっても過言ではなかった。だが聖グロリアーナは危険を顧みず、華麗かつ果敢な戦いを見せた。

試合開始早々、高地の稜線に陣取ったヨーグルトは3000メートル以上離れた距離から、整然とした隊列で進む聖グロリアーナに砲撃を加えてきた。ただしヨーグルトの命中率は一回戦と同様に低く、聖グロリアーナの車輌を捉えられなかった。

そこで聖グロリアーナは、相手が装填に要するわずかな時間を利用して一気に前進。訓練で培った無駄のない隊列行進で、ヨーグルトが布陣する高地からは死角となる、低い丘の後ろへと回り込んだ。さらに彼女たちは、偵察に出たマチルダⅡが撃破されたにも関わらず、ヨーグルトが布陣する高地への登攀ルートに全速力で突進。聖グロリアーナの隊長・ダージリンの指示で美しい逆V字型の隊形である「ヘリンボーンフォーメーション」を展開した。

その瞬間、ヨーグルトの猛砲撃にさらされる聖グロリアーナの車輌。ヨーグルトはダージリンが乗るフラッグ車に、集中砲火を浴びせてきたのだ。だがダージリンは慌てずに、さらなる前進を指示。自身は車体を横滑りさせて、ヨーグルトの砲撃をかわした。この鮮やかなテクニックと大胆な行動は、食い入るように戦況を見守る観客たちを、大いに沸かせたのであった。

一方、高地の稜線に隠れて攻撃するヨーグルトは、射撃で巻き起こる土煙に視界が遮られがちだった。それを見逃すダージリンではなかった。

自慢の登攀力を発揮した聖グロリアーナのチャーチルとマチルダⅡが、次々と高地の頂上へとなだれ込む。もちろんヨーグルトの車輌は目の前にあり、稜線を越えたマチルダⅡは至近距離からの攻撃で白旗を上げていた。

それでもダージリンはひるまずに、さらに速度を上げて稜線を突破。続くマチルダⅡも、ヨーグルト側の車輌へと肉薄し、相手を混乱状態に陥れた。

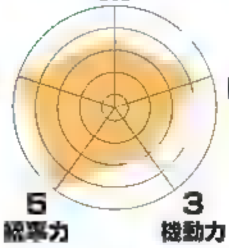
そして最後は、各車輌の報告を受けて正確に状況を把握したダージリンが、相手フラッグ車を捕捉。チャーチル前方にいたⅣ号駆逐戦車と稜線に挟まれるアクシデントがあったものの、相手フラッグ車の側面を撃ち抜いたのだった。

試合終了後、ダージリンはヨーグルトの副隊長に、機会があったらと練習試合を申し出る。たとえ未熟であっても、勝つための努力を賞賛する。そんなダージリンの大きな度量が、聖グロリアーナの強さに繋がっていると感じさせる試合であった。

両校の戦力分析

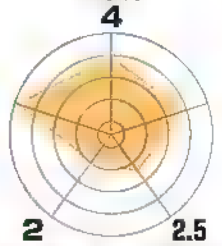
聖グロリアーナ

チャーチルやマチルダⅡの最高時速は約20キロメートル前後だが、幅の広い履帯により走破性が高かった。またダージリンの統率力も高く、スピードの遅さを戦術で克服。大胆な行動で、ヨーグルトを圧倒した



ヨーグルト学園

強力なドイツ製戦車を多数導入したが、防御中心の戦術を変えられず、射撃精度も改善が見られなかった。戦車の特性を活かしきれなかったことが、大きな敗因と言えるだろう



両校の参加車輌

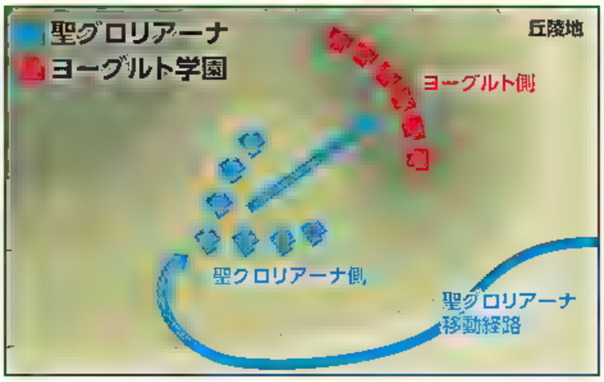
聖グロリアーナ 10輌

チャーチル ×1
マチルダⅡ ×9

ヨーグルト学園 10輌

CV33 ×2
38(t)戦車 G型×1
オチキス H-39×2
Ⅲ号突撃砲 F/G型×1
Ⅳ号戦車 G/H型×1
Ⅳ号駆逐戦車 L70×1
ヘッツァー×1
パンターD/G型×1

ターニングポイント



本来であれば高地を先に占拠した、ヨーグルトが有利な試合だったが、足を止めて一斉砲撃を仕掛けるばかり。また練度も低いため、スキも多かった。対して聖グロリアーナは、車輌の登攀力を活かして高地を強襲。見事な操縦技術と隊列で、ヨーグルトの砲撃をしのいだ。チーム全体の練度と隊長の作戦能力が、勝敗を分けた試合であった

パンターD型

ソ連のT-34シリーズに対抗するため、1943年初頭より生産が開始されたドイツの中戦車。D型はその初期型である。東部戦線での戦訓を取り入れた同戦車は傾斜装甲を多用し、貫通力の強い75ミリを搭載した。だが性急な開発と生産のため、さまざまな不備が発生。1943年9月には、改良したA型へと生産は移行した。



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

両校の戦力分析

プラウダ高校

一回戦には温存していた、IS-2を投入したことで攻撃力がアップ。市街地に立てこもるヴァイキング水産に、決定的な一撃を与えた。また、T-34シリーズも泥濘地をものともせずに進軍。抜群の機動力と攻撃力を発揮した



ヴァイキング水産

Ⅲ号N型以外にプラウダの戦車に対抗できる車輌を保有していないヴァイキング水産は、プラウダに比べて戦力的に劣勢であった。また、臨機応変な対応ができなかったところも、プラウダに敗北した要因にもなっている



両校の参加車輌

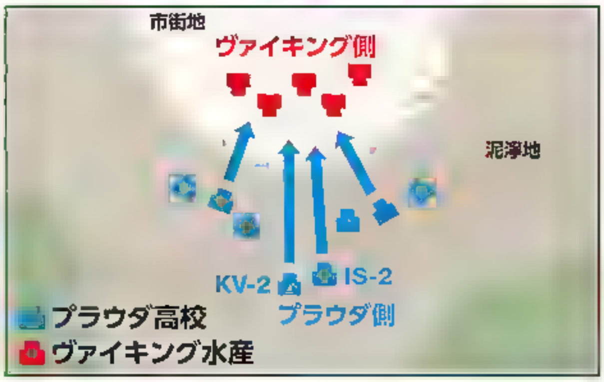
プラウダ高校 10輌

T-34/85 ×4　T-34/76 ×4　KV-2 ×1　IS-2 ×1

ヴァイキング水産高校 10輌

ソミュアS35×2　オチキスH35×2　Ⅰ号戦車B型×1　Ⅱ号戦車B型×2　Ⅲ号戦車N型×2　NbFz×1

ターニングポイント



ステージが泥濘地という時点で、T-34シリーズを持つプラウダの優勢が確定した試合。プラウダは火力支援にKV-2、ここぞという勝負どころでIS-2を投入するなど、各戦車の特性を熟知した戦いを展開した。さらに市街地での消耗戦を防いだ、プラウダの隊長・カチューシャと副隊長・ノンナの指揮能力も光った試合でもあった



※この車輌はドイツのものです　　写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

Ⅲ号戦車N型

第二次世界大戦で、ドイツ機甲師団の中核となる戦車として開発された車輌。このN型は、その最終生産型である。1942年、連合軍の新型戦車に対抗するため、従来の50ミリ砲から75ミリ砲へと換装。火力の強化を図り、火力支援車輌として使用された。だが対戦車能力は限界に達し、パンターの配備が始まると生産は中止された。

二回戦

プラウダ高校 VS ヴァイキング水産高校

Pravda High School　Viking Fisheries High School

地形をうまく利用して奇襲するヴァイキング水産高校が二回戦で直面した問題は、雪が溶けた泥濘地に囲まれた市街地のステージにあった。ヴァイキング水産が使用する車輌は、Ⅰ号からⅢ号といったドイツ製戦車のほか、ソミュアS35やオチキスH35などのフランス製戦車。これらの車輌は、泥濘地での移動に不向きで著しく機動力が低下した。

それに比べてプラウダ高校のソ連製戦車は、もともと泥濘地で行動することを前提に開発された車輌。履帯の幅も広く、二回戦のステージでも問題なく移動できた。両校とも北国を母校にしており雪中での戦いを得意としていたが、戦車の性能差が試合の明暗を分けた。

ヴァイキング水産は泥濘地での不利を悟り、最初から足場が良く行動しやすい市街地へと立てこもった。建築物を防壁にした市街戦で、チャンスがあればプラウダの戦車を倒し、消耗戦へと持ち込むのがヴァイキング水産の作戦だった。

ところがプラウダは、152ミリという巨大な榴弾砲を持つKV-2で攻撃。建築物を次々と爆砕して、ヴァイキング水産の目論見を文字通り破壊した。

このKV-2による攻撃は、ヴァイキング水産にとって想定外の事態であった。しかもヴァイキング水産は、作戦が計画通りに進んでいるときには好調だが、急激な状況変化が苦手という弱点を持っていた。さらに泥濘地を気にせず移動できるT-34シリーズが、KV-2が作った突破口から次々に市街地へと突入。がれきの山を乗り越えて、ヴァイキング水産の車輌へと殺到してきたのだ。

ヴァイキング水産も激しく抵抗するが、同チームの戦車でT-34シリーズに対抗できるのはⅢ号N型の75ミリ砲のみ。しかもT-34シリーズの側面や後方を、近距離から狙った場合だけであった。

この時点で、プラウダの勝利はほぼ確定していた。ところがプラウダは、完勝を目指し、一回戦には投入しなかった虎の子戦車を投入した。その戦車の名は、IS-2。別名で「スターリン」と呼ばれた85ミリ砲を持つIS-1を改良し、122ミリ砲を搭載した、プラウダ最強の戦車である。その攻撃力はすさまじく、建築物ごとヴァイキング水産のⅢ号を撃ち抜いた。それと同時に、市街地の中心部へとT-34シリーズが一斉になだれ込み、ヴァイキング水産を蹂躙した。

こうして、プラウダに抵抗する術を失ったヴァイキング水産は、全車輌を撃破されて敗北。改めてプラウダがその強さを見せつけた。特にKV-2とIS-2の威力は絶大で、ヴァイキング水産に奇襲するスキを与えなかった。まずは実力を遺憾なく発揮したプラウダの、順当な準決勝進出であろう。

黒森峰

二回戦

黒森峰女学園 VS 継続高校

Kuromorimine Girls' High School

Keizoku High School

継

寒冷地や湖沼地帯での戦いを得意とする継続高校は、練習試合とはいえ黒森峰女学園を苦しめた経歴を持つ、隠れた実力校である。そこで、黒森峰と当たる二回戦には各関係者の注目が集まっていたが、ルーレットの針が示した試合会場は、継続が苦手とする砂漠ステージ……。

北国育ちで寒さには強いが、暑さに弱い継続選手にとって、最悪の試合会場となった。

一方の黒森峰は、試合会場を問わないオールマイティーなチーム。砂漠戦も熟知としており、各選手の士気も高かった。こうして始まった黒森峰と継続の二回戦は、予想通り継続が不利な状態で序盤を迎える。

寒冷地仕様の継続車輛は、砂漠の暑さで不調をきたしており、砂地での挙動もぎこちなかった。これは、継続が雪面や凍結した路面での走行には慣れていたが、流動的な砂上では足を取られて、機動力を低下させていたからだ。

それに対して黒森峰は、あらゆる試合会場を想定した訓練の賜物か、砂上でも問題なく移動できた。そして黒森峰はⅢ号を偵察に出しつつ、パンターを先頭にしたパンツァーカイルと呼ばれるくさび型陣形を形成。継続から約2000メートル以上離れた地点から、走行中に照準を定めて停車と同時に発砲する、難易度の高い躍進射撃を開始した。

ただし継続も、黙って砲撃を受けるだけではなかった。

元来、継続選手のドライビングテクニックには定評があり、慣れない砂上に少しずつ対応。凄まじい回避行動で黒森峰の猛烈な攻撃を躱わしていた。さらに粘り強い各選手の性格もあり、暑さを気力で克服していた。そこで継続は、黒森峰に肉薄して、混戦に持ち込もうとする。もし、継続に勝機があるとすれば、黒森峰に同士討ちする危険性を与えて、機動力でかき回すしか方法がなかったからである。

さらにスピートを上げた継続は、黒森峰の前面へと取り付き、偵察に出ていたⅢ号や、パンター2輛を撃破。なんとか反撃のきっかけをつかもうとした。しかし黒森峰の車輛との性能差や高い統率力はいかんともしがたく、隊長・西住まほが搭乗するティーガーⅠとティーガーⅡの連携砲撃を前に、少しずつ戦力が削られていった。そして継続は、フラッグ車だけになるまで勇戦したが、ついには黒森峰にトドメを刺されてしまったのだった。

各関係者が、番狂わせがあるかもと期待していた試合は、フタを開けてみると順当に黒森峰が勝利した。ただ不利な条件下でも、パンター2輛を叩いた継続の健闘は、称えられるべきである。

今後も黒森峰と継続は良きライバルとして、試合を見せてくれるに違いないだろう。

BT-7

もともとは、ソビエトで開発された快速戦車で、BTシリーズの集大成である。ベースとなったBT-5のリベット接合式装甲を、電気溶接式へと変更。さらに燃料タンクの拡大と予備タンクの増設で、行動範囲も広げた。またフィンランドは、大量に鹵獲したBT-7を改造。114ミリ榴弾砲を搭載したBT-42を開発した。



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

両校の戦力分析

黒森峰女学園

車体が重いティーガーシリーズは砂漠戦に不向きと思われがちだが、先進的な足回りと幅が広い履帯で、開けた場所だと本来の機動力を発揮した。さらにパンターはT-34を上回る戦闘力で、次々と継続の戦車を撃破した



継続高校

Ⅲ突やⅣ号、T-34シリーズを主力としていたが、見晴らしのいい砂漠戦では、機動力を活かした迂回作戦が取れなかった。ただし、選手の対応能力は素晴らしく、砂漠での操縦方法を試合中に学習。黒森峰相手に健闘した



両校の参加車輛

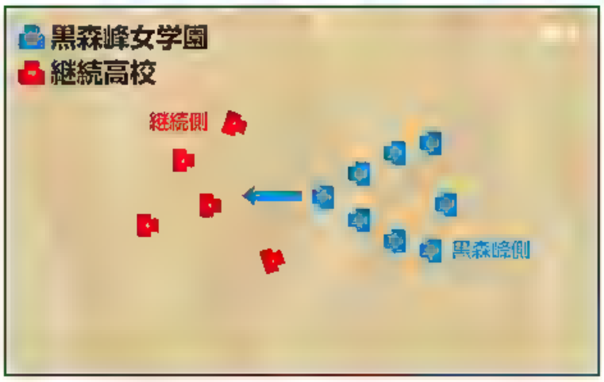
黒森峰女学園 10輛

ティーガーⅠ ×1
ティーガーⅡ ×2
パンターG型×4
Ⅳ号駆逐戦車L70×2
Ⅲ号戦車J型×1

継続高校 10輛

Ⅲ号突撃砲G型×1
Ⅳ号戦車J型×1
BT-42 ×1
T-34/76 ×1
T-34/85 ×1
T-26×1
BT-5×2
BT-7×2

ターニングポイント



苦手な砂漠ステージにあっても、継続は黒森峰のパンツァーカイルを崩そうと工夫を凝らしていた。だが、黒森峰は鉄壁の守りと連携砲撃で、継続の戦力をすり減らした。ただ継続の最後まであきらめない姿勢は、見習うべきものがある。負けたとはいえ継続は、戦車道の真価を発揮した戦いぶりで、各関係者や観客の賞賛を浴びるのだった

全国大会ワンポイントコラム

準決勝進出校の傾向と対策

大洗女子学園

今大会で選手が一気に成長！このまま大物食いを続けられるのか!?





大洗女子学園は、一回戦で優勝候補の一角であるサンダース大学附属高校、二回戦では新戦力P40を擁するアンツィオ高校を下し、準決勝に進出した今大会の台風の目。ほとんどの選手が初心者で、戦車も準決勝に登録されているのはわずか6輌と、他校に比べて戦力不足は否めない。各選手の成長は本大会を通して目覚ましいものがあるが、戦術理解度や練度においては、いまだ厳しいといわざるを得ない。

隊長の西住みほは戦車道・西住流の宗家出身。しかし西住流の特徴である重厚な戦術というよりは、状況に合わせた臨機応変で独創的な作戦展開を持ち味としている。

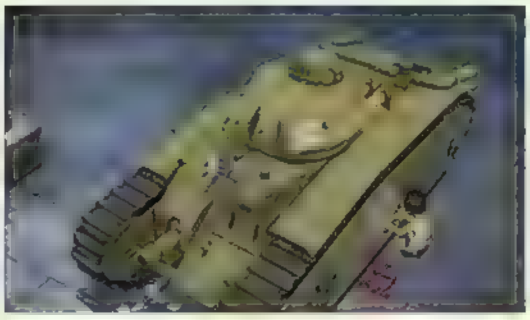
《準決勝に向けた意気込み》

「みんなで力を合わせてここまで来ることができました。戦車道を始めたばかりの人が多いですけど、試合のたびにどんどん成長していると思います。ベスト4に残っている学校はみんなとても強いですけど、私たちも一生懸命頑張ります」

【大洗女子学園隊長・西住みほ】

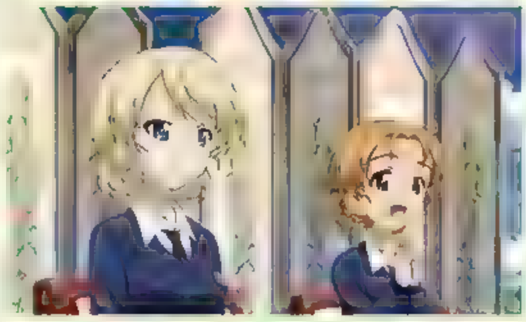






聖グロリアーナ女学院

伝統に裏打ちされた実力は本物！悲願の優勝を目指して突き進む!!





優勝の経験こそないものの、全国大会上位常連の実力は揺るぎない聖グロリアーナ女学院。各選手の技量は高く、いかなるときも、整然と乱れの無い隊列を維持することができる。チャーチルやマチルダIIといった主力となる戦車の装甲の厚さと、選手の高い練度に基づいた同校伝統の浸透強襲戦術を、止められる学校はそう多くはない。

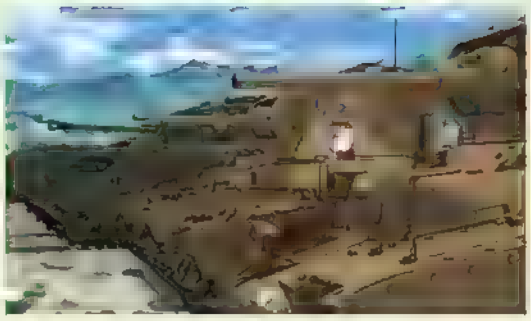
隊長のダージリンは、優雅で高貴な品格の持ち主。隊員たちに慕われており、まさにチームの核として連携機動を華麗に操る。また、古今東西の格言にも通じている。

一回戦や二回戦を順当に勝ち抜き、準決勝ではいよいよ、覇権奪回に燃える黒森峰女学園と対戦する。

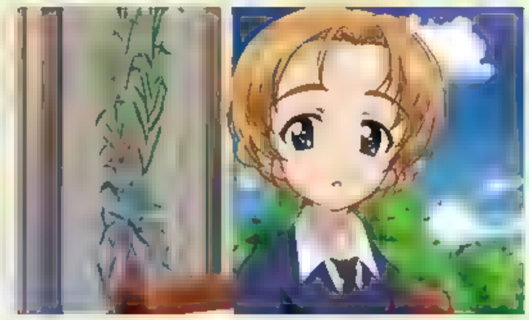
《準決勝に向けた意気込み》

「こんな格言をご存じ？　戦いでの成功を保障できる者などいない……。ですが、わたくしたちは正々堂々、騎士道精神に則ってベストを尽くしますわ」

【聖グロリアーナ女学院隊長・ダージリン】







準決勝進出校の傾向と対策

全国大会ワンポイントコラム

プラウダ高校

二連覇を狙う前大会の優勝校！今大会でも、嵐を巻き起こせるのか！？





前年度大会優勝校。10連覇目前の黒森峰女学園にストップをかけたのは、彼女たちプラウダ高校だった。

KV-2、IS-2といった強力な戦車をポイントゲッターにしつつ、ほかをT-34で固めるという堅実な編成で、誘引戦を得意とするチーム。一・二回戦では前評判通り相手校を圧倒し、今年度も優勝候補の一角と目されている。

隊長のカチューシャ選手は強力な指導力を発揮し、隊員を力強く牽引するタイプに属する。

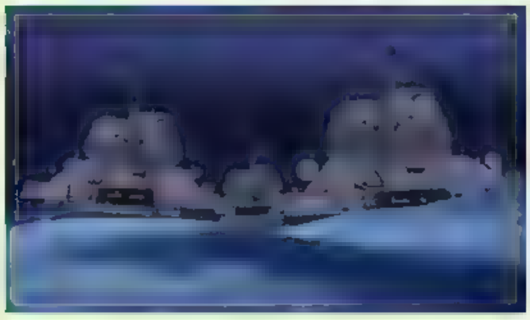
また「小さな暴君」とあだ名されているが、意外にもその指揮は重厚かつ堅実。チームに勝利をもたらす原動力となっている。

さらに副隊長・ノンナ選手の砲撃技術も今大会屈指のものであり、大洗女子と対戦する準決勝での活躍が期待されている。

《準決勝に向けた意気込み》

「今年も優勝して、プラウダとカチューシャが、最強ってことをみんなに教えてあげるわ！」

【プラウダ高校隊長・カチューシャ】







黒森峰女学園

絶対王者の返り咲きはあるのか！？優勝にもっとも近い最強校!!





前年度は惜しくも10連覇を逃したとはいえ、9連覇は絶対的な強さの証。黒森峰女学園は、やはり今大会における優勝候補の最右翼である。

ティーガーI、ティーガーIIなどの重戦車を中軸にしつつ多数の駆逐戦車も配し、まさに万全の編成で復権を狙う。

一・二回戦ではまさに蹂躙という言葉がふさわしい一方的な勝利を収め、準決勝では古豪、聖グロリアーナを迎え撃つ。

隊長・西住まほ選手は西住流宗家の長女で、その戦いぶりはまさに西住流を体現しているとの評価も多い。

さらに確固たる信念と厳格な作戦運用でチームを牽引し、隊員たちからの信望も厚い。

前年度の雪辱を果たし王者が王者であることを証明できるのか、今最も注目されているチーム。

《準決勝に向けた意気込み》

「西住流に後退はありません。どんな相手が来ようとも、必勝を期して戦うのみです」

【黒森峰女学園隊長・西住まほ】







準決勝

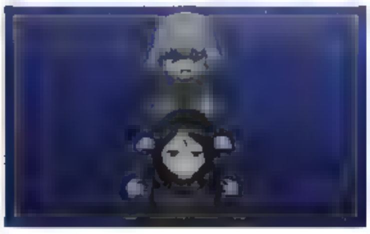
大洗女子学園 VS プラウダ高校

Oarai girls high school

Pravda High School



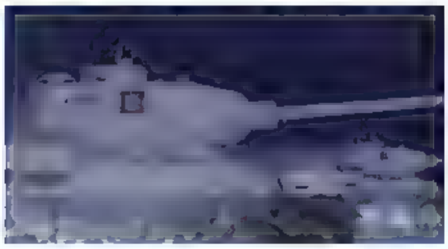
これまで相手校を、すべて殲滅してきた隊長のカチューシャと副隊長のノンナ。この準決勝でも、大洗女子を徹底的に叩こうと闘志を燃やす





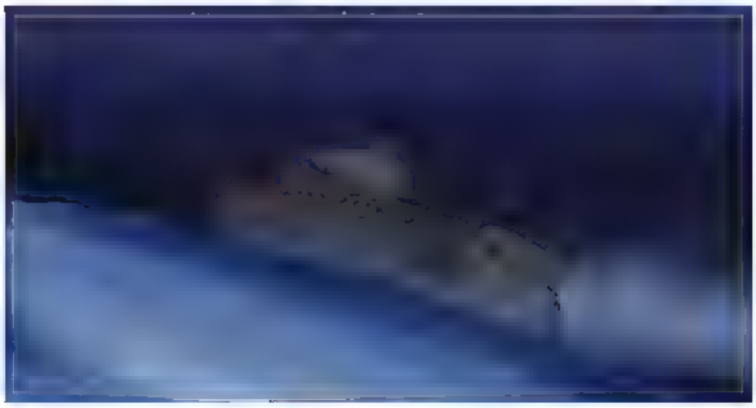








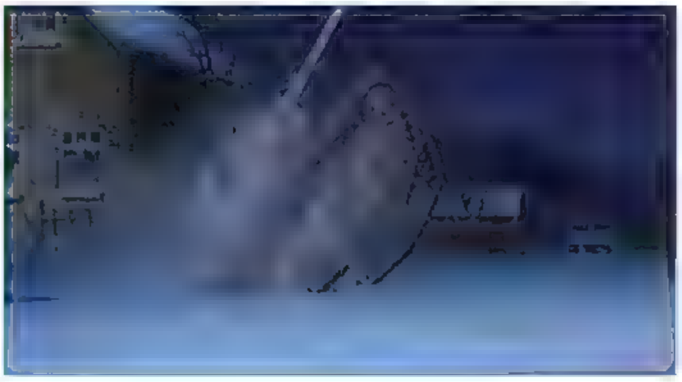
雪に覆われた丘を登りきれず、立ち往生するB1bis。それを助けたIV号の操縦手・冷泉麻子は、初めての車輌にも関わらず天才的な操縦技術を見せた









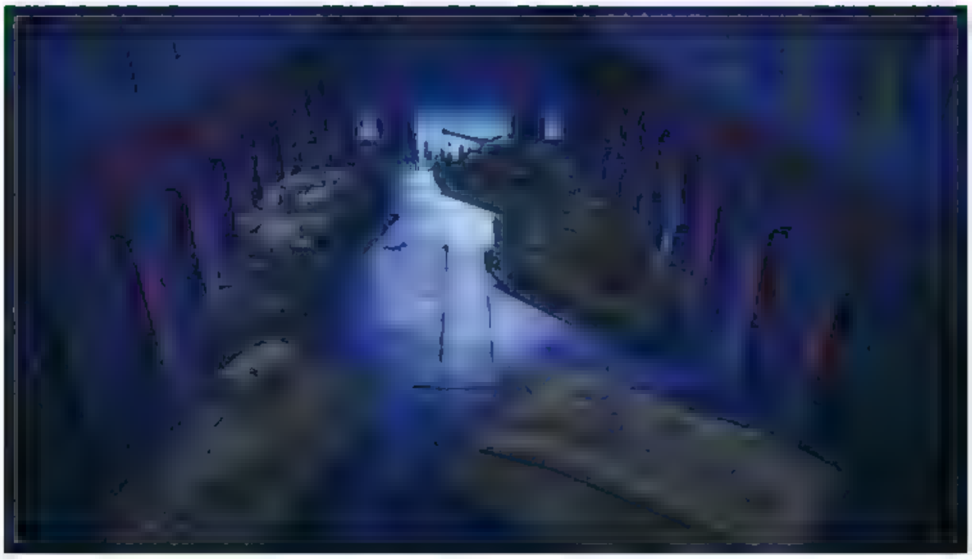




これまで、たった5輌の戦車で大会を戦い抜いてきた大洗女子学園に、待望の新車輌・ルノーB1bisが加わった。またIV号戦車は短砲身から、長砲身75ミリ砲のF2仕様へと改造。対戦車能力が大幅にアップした。だが準決勝から参加車輌は15輌へと増えるため、車輌性能を含めた総合力では、圧倒的に大洗女子がプラウダ高校より不利であった。ところが大洗女子の隊員は、サンダース大附属とアンツィオを立て続けに破ったこともあり、勢いに乗っていた。そこで大洗女子は、試合序盤から速攻でプラウダのフラッグ車を狙う作戦に出た。

最初に、プラウダの外郭防衛線と思われる3輌を発見した隊長・西住みほは、III突とともに2輌を撃破。後退する1輌を追撃し、プラウダのフラッグ車を含む5輌を発見した。しかしここで、大洗女子の統制がわずかに乱れ始める。フラッグ車の発見を千載一遇のチャンスと見たみほのIV号を除いた各車輌が、勝手に突撃を開始したのだ。これまでみほの指示に従い、慎重に行動してきた大洗女子とは思えない事態であった。そして、廃村へと逃げ込んだフラッグ車を追撃する大洗女子は、周囲に隠れていたプラウダの本隊に包囲されてしまう。そう、大洗女子はまんまと、プラウダが得意とする誘引作戦に引っかかってしまったのである。

一転して危機に陥った大洗女子は、プラウダの猛攻撃をかいくぐり、廃村の中央にある大きな廃屋へと撤退。プラウダは使者を送り、3時間の猶予を付けた降伏勧告を行う。このまま一斉攻撃を受ければ、負傷者が出る可能性を考えたみほは、この時点





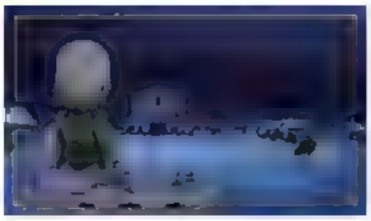
生徒会の河嶋桃は、廃校の事実を告げて徹底抗戦を主張する。それは彼女にとって母校は、思い出が詰まった大切な場所であるからだ。だが絶望的な状況に、チームの士気は下がる一方だった



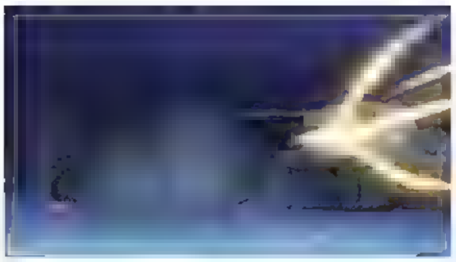








みほたちを逃がそうと、超接近戦を仕掛ける生徒会の38(t)。その獅子奮迅の活躍で、T-34/76を2輌撃破した。これは38(t)にしてみれば、驚くべき戦果である



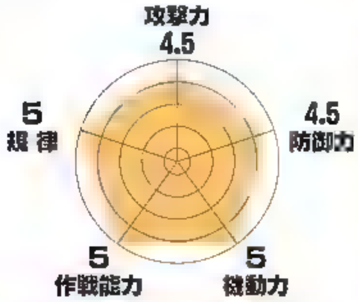


両校の戦力分析

大洗女子

B1 bisの導入とⅣ号の長砲身化により、大洗女子の戦力は確実に上がっていた。しかしプラウダのT-34シリーズと比べると、見劣りするのも事実。やはり西住みほの作戦能力が、もっとも大きな大洗女子の戦力であろう





プラウダ高校

作戦能力では大洗女子の西住みほと、ほぼ同格のカチューシャだが、多少油断してしまう一面を持っている。今大会を楽勝で準決勝まで勝ち上がっただけに、勝利におごることなく、大洗女子に立ち向かう必要があっただろう

両校の参加車輌

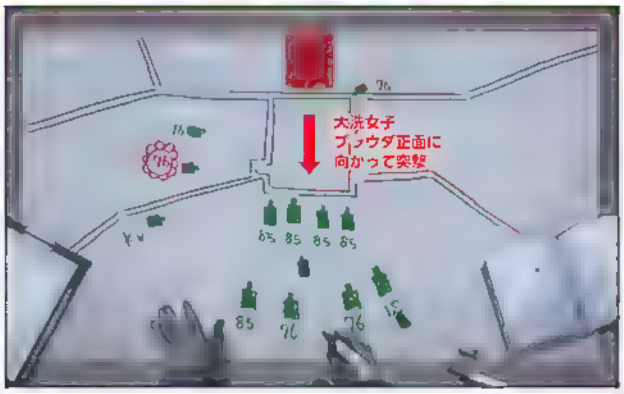
大洗女子 6輌

Ⅳ号戦車D型(F2仕様)×1　Ⅲ号突撃砲F型×1　八九式中戦車×1　38(t)戦車B/C×1　M3中戦車リー×1　B1 bis ×1

プラウダ高校 15輌

T34/85 ×6　T34/76 ×7　KV-2×1　IS-2×1

ターニングポイント



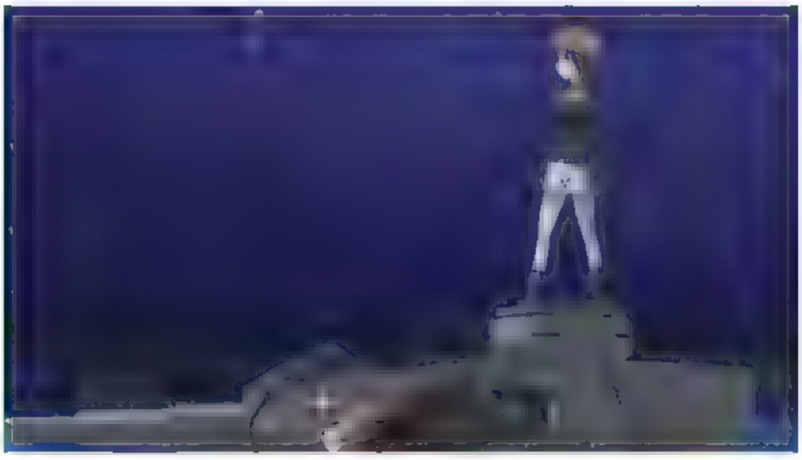
大洗女子の突撃に備えて、包囲が薄い部分を作り出して、誘引しようとしたカチューシャ。だが大洗女子は、あえて包囲の分厚い部分に突入した。これはカチューシャの作戦を逆手に取ったもので、勇気のある決断でもあった。さらに38(t)の奮闘や八九式の逃走劇が大きな勝因にもなっており、チームが一丸となった決勝進出であった

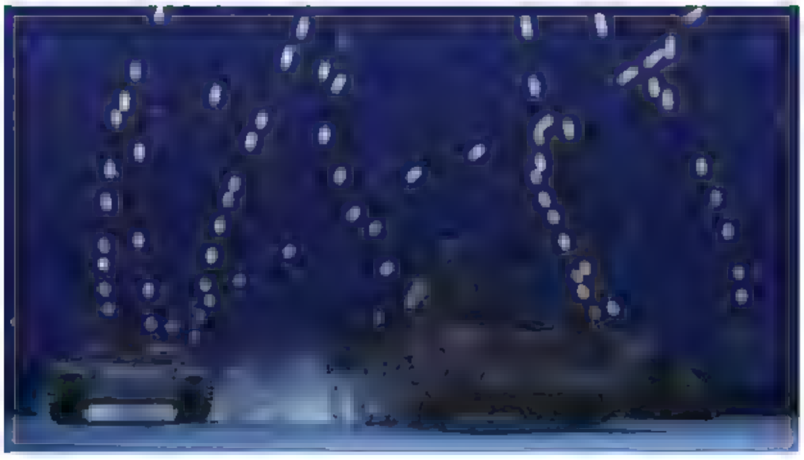
で降伏を考えた。だが大洗女子には、決して負けられない理由があった。

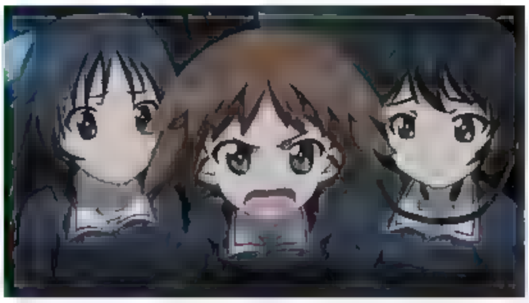
実はこの時、大洗女子は文科省の学園艦統廃合計画により、事実上の廃校宣言を受けていた。これを覆すには、何か輝かしい実績が必要――。そこで大洗女子の生徒会は、以前盛んだった戦車道を復活させ、全国大会で優勝を勝ち取ろうとしていたのだ。涙を堪えた生徒会広報・河嶋桃の訴えを聞いたみほは、大切な仲間と出会い、戦車道の楽しさを教えてくれた大洗女子を守ると決意。あきらめずに戦う道を選択するのだった。

ただし、絶望的な状況を打開するには、プラウダ側の正確な情報と車輌配置が必要。そこでみほは、偵察隊を出して、起死回生の作戦を練る。さらに、寒さと空腹で士気の落ちた隊員たちを励ましたのも、みほであった。彼女は、大洗町で踊られている「あんこう踊り」を隊員たちの前で披露。それに呼応して隊員たちも踊りだし、一気に士気を回復させた。

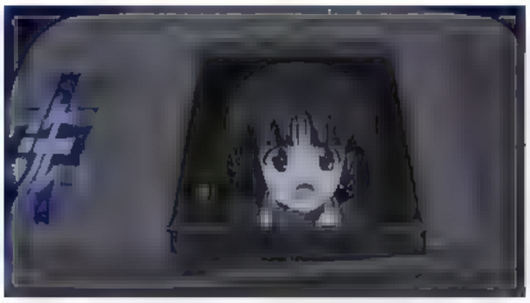
こうしてプラウダの降伏勧告を拒否した大洗女子は、決死の反攻作戦を発動。プラウダの隊長・カチューシャが待ち構える本隊の脇をすり抜けて、包囲網を突破する。その後みほは、チームをフラッグ車の八九式と護衛のM3やB1bis、かく乱を担当する38(t)、相手フラッグ車を狙うⅣ号とⅢ突の三つに分けて、プラウダに対抗。八九式や38(t)が時間を稼ぐなか、Ⅳ号がプラウダのフラッグ車を雪の中に埋めたⅢ突の前に誘導して、これを撃破するのだった。奇跡的な逆転で、ついに決勝へと登りつめた大洗女子。隊員たちの表情は、皆笑顔で溢れていた。

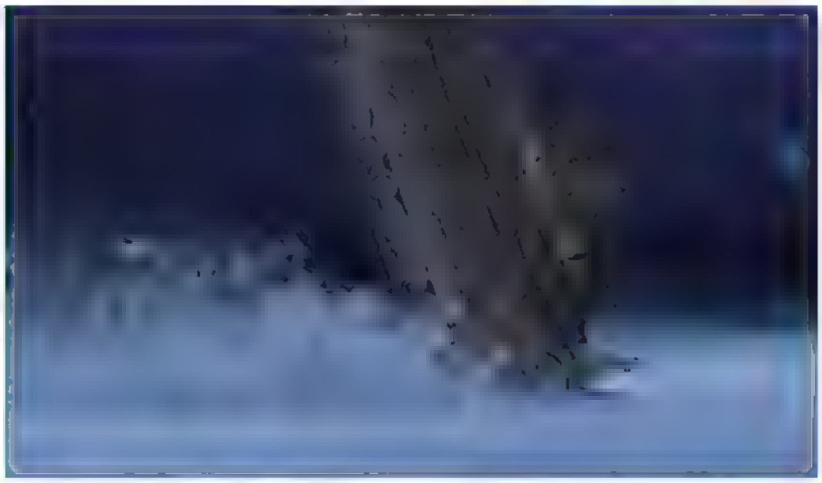




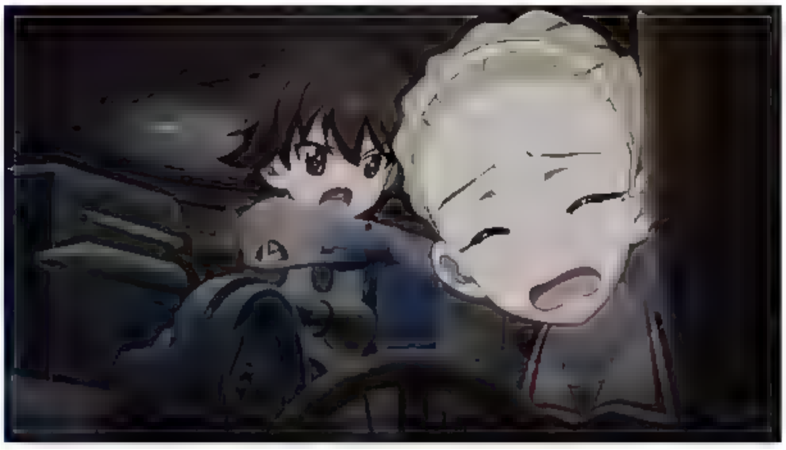


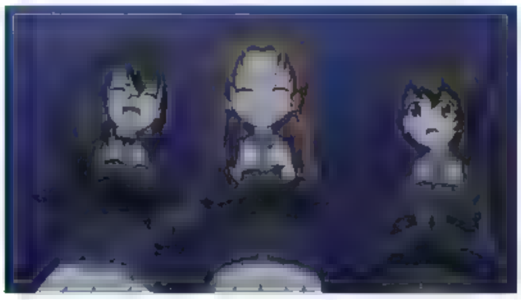






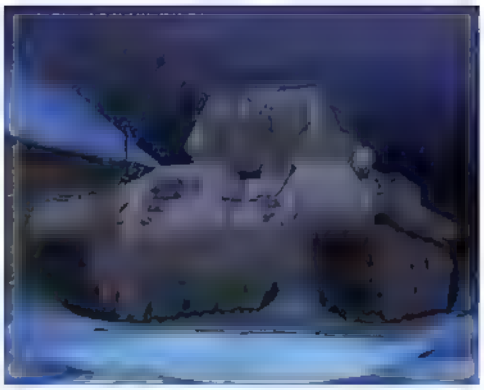
フラッグ車の八九式は自らを奮い立たせながら、恐るべき機動でプラウダの砲弾を回避し続けた







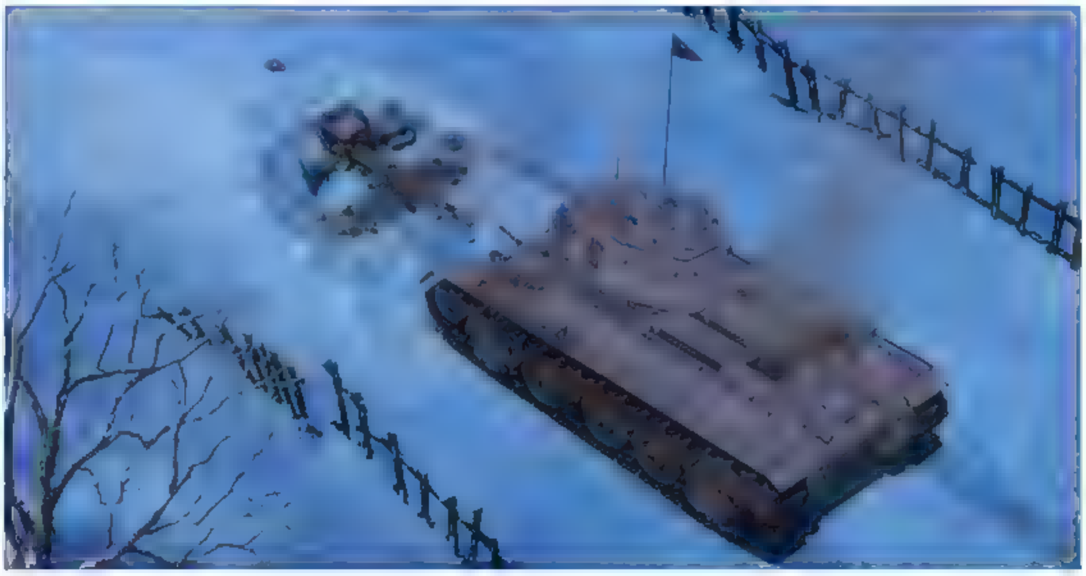
最後の局面で再び偵察に出たⅣ号の秋山優花里は、プラウダのフラッグ車を発見。彼女がもたらした情報は、敵フラッグ車の撃破に繋がった







プラウダのフラッグ車を倒し、大洗女子が勝利！ これで黒森峰が、準決勝で聖グロリアーナを破れば、夢の姉妹対決が実現する



黒森峰

準決勝

黒森峰女学園 VS 聖グロリアーナ女学院

Kuromorimine Girls' High School

St. Gloriana Girls' High School

ST·G·GC

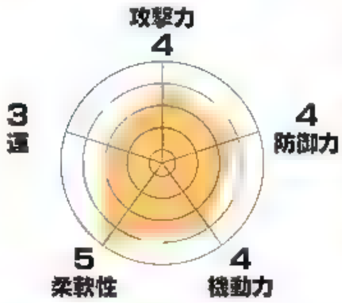


両校の戦力分析

黒森峰女学園

参加車輌が15輌と増え、ますます充実した黒森峰の戦力。唯一の弱点は、去年まで各隊員の連携を支えていた、副隊長・西住みほが転校したことにあった。だが黒森峰の車輌は、その弱点を克服するだけの性能を誇っている





聖グロリアーナ

聖グロリアーナの車輌は装甲こそ厚いが、黒森峰に比べて機動力が劣っていた。そこで準決勝では、クロムウェルやクルセイダーを投入。スピードを活かした陽動と入念な偵察で、黒森峰との戦力差を埋めようとした

両校の参加車輌

黒森峰女学園 15輌



ティーガーI ×1　ティーガーII ×2　パンターG型×8　IV号駆逐戦車L70×3　III号戦車J型×1

聖グロリアーナ 15輌



チャーチル ×1　マチルダII ×11　クルセイダー ×2　クロムウェル ×1

ターニングポイント



単独行動という危機的な状況にありながらも、臨機応変に対応した聖グロリアーナに勝機があった。またダージリンのチャーチルが17ポンド砲を搭載したブラックプリンスであれば、確実にティーガーIを撃破できただろう。だがティーガーIの厚い正面装甲は、聖グロリアーナの優勝を阻むとともに、ドイツ製戦車の優秀さを証明した

すでに全国大会では、おなじみの顔合わせとなっている黒森峰女学園と聖グロリアーナ女学院。これまで優勝を逃してきた聖グロリアーナにとって、黒森峰は最大のライバルである。片や黒森峰は、昨年優勝を逃した雪辱を果たすためにも、聖グロリアーナは絶対に負けられない相手であった。そして今回の試合会場は、エル・アラメインを模したような砂漠ステージ。かつてイギリス軍が一気に反攻に出て、ドイツ軍を破ったことから、イギリス製戦車を保有する聖グロリアーナにとって、縁起の良い試合会場と思われた。

ただし見晴らしの良い地形は、2000メートル以上の距離から有効弾を撃ち込む黒森峰に有利に働いた。試合開始後、黒森峰の車輌を発見した聖グロリアーナは、2400メートルの距離から先制攻撃を開始。しかし逆襲をくらい、多数のマチルダIIが撃破される。そこで聖グロリアーナの隊長・ダージリンは、この日に備えて導入した、クロムウェルを投入する。彼女は快速のクロムウェルで砂埃を巻き起こし、黒森峰の注意を逸らす作戦に出たのだ。さらにクルセイダーを偵察に出して、相手フラッグ車の位置を割り出そうとする。ダージリンの目標はただひとつ。相手フラッグ車を倒すことにあった。

ところが黒森峰も別動隊を編成して、低地から砂漠へと至る崖を登る聖グロリアーナの本隊を急襲。聖グロリアーナは、ダージリンの進路を切り開くべく、残りの車輌が別動隊へと突撃する。混乱のさなか別動隊を振り切ったのは、ダージリンのチャーチル1輌だけだった。



それでもダージリンは、ひるむ様子を見せなかった。その理由は黒森峰が、昨年まで副隊長だった西住みほの転校により、チームの意思疎通に支障をきたしていると、事前の調査で把握していたからだ。しかも、生き残ったチームの車輌を囮に使い、相手が気を取られているスキに黒森峰の本隊が布陣していると思われる高地を単身急襲しようと考えていたのだ。

こうして黒森峰をかく乱しつつ、勝負に出たダージリンは刻々と変化する状況と味方から入る報告を分析して、相手フラッグ車が高地に孤立していると確信。高地の頂上を目指して、搭乗するチャーチルを急がせる。そしてダージリンは、高地を登り切ったところで、黒森峰のフラッグ車であるティーガーⅠを発見。砲塔を回してチャーチルに狙いを付け、射撃態勢のティーガーⅠと同時に低抵抗被帽付徹甲弾を発射した。

最初の攻撃はお互いに有効打とならず、次弾の装填速度が勝負の分かれ目になるなか、チャーチルは装填手・オレンジペコが驚異的なスピードで装填を完了。車体の揺れが収まると同時に、勝利への一撃をティーガーⅠへと叩き込んだ。だが砲弾は無慈悲にも、相手の正面装甲を貫けず、チャーチルは直後に四方からの猛攻撃にさらされるのであった。

聖グロリアーナの悲願はあと一歩というところで、黒森峰の集中砲火に打ち砕かれた。結果としてほとんどの車輌が撃破され、ダージリンは完敗を期した。

しかしその表情に悔しさはなく、むしろ晴れ晴れとした気持ちで心は満たされていた。



決勝戦

大洗女子学園 VS 黒森峰女学園

Oarai girls high school

Kuromorimine Girls High School

黒森峰

ついに決勝まで登りつめた大洗女子学園と覇権奪回を狙う黒森峰女学園。奇しくも両校の隊長は西住流家元の娘で、姉の西住まほが黒森峰を、妹の西住みほが大洗女子を率いている。長い歴史を持つ全国大会決勝において、異例の姉妹対決が実現したのだ。

まず先手を取ったのは、温存していたヤークトティーガーやヤークトパンター、エレファントを投入した黒森峰。同校は森林を突破して、大洗女子に奇襲を仕掛ける。一方、三式中戦車やポルシェティーガーを加えたほか、Ⅳ号戦車をH型仕様、38(t)をヘッツァー仕様に改造した大洗女子は、ジグザグ走行をしながら砲撃を回避。三式がフラッグ車であるⅣ号の盾となって撃破されたが、大洗女子は最初の危機を乗り越えた。

そして八九式とB1bisが煙幕を張って黒森峰の視界を遮断する間、Ⅳ号を加えた3輌が、足の遅いポルシェティーガーをワイヤーで牽引して高地へと登攀。大洗女子本隊と別行動を取るヘッツァーが、待ち伏せ攻撃で黒森峰の足止めをする。その間に頂上へ到達した大洗女子の本隊は、すばやく防御陣地を築いた。

黒森峰は損害を出しながらも、装甲が厚いヤークトティーガーを正面に据えて前進する。そこに別動隊のヘッツァーが、黒森峰へ超肉薄攻撃を敢行。大洗女子の本隊は黒森峰が同士討ちを恐れて混乱するスキに、高地を放棄して坂道を一気に下った。対する黒森峰は副隊長のエリカが搭乗するティーガーⅡが追撃するも、途中で足回りが故障してしまう。ティーガーⅡはティーガーⅠを凌駕する火





両校の戦力分析

大洗女子学園



エンジンに不安があるとはいえ、ポルシェティーガーの加入は大幅な戦力アップ。また38(t)改のヘッツァー仕様も、大洗女子の戦術に幅を与えた。みほの作戦能力だけでなく、隊員の成長も、優勝に大きく貢献していた

黒森峰女学園



マウスの投入は、大洗女子に脅威を与えた。しかし重戦車に偏ったチーム編成は、機動力の低下と足回りの不安というリスクも抱えた。また大洗女子の奇策に対応できなかったことも、大きな弱点となっている

両校の参加車輌

大洗女子 8輌

- Ⅳ号戦車D型(H型仕様)×1
- Ⅲ号突撃砲F型×1
- 八九式中戦車×1
- 38(t)改 ヘッツァー仕様×1
- M3中戦車リー×1
- B1bis×1
- ポルシェティーガー×1
- 三式中戦車×1

黒森峰女学園 20輌

- ティーガーⅠ×1
- ティーガーⅡ×2
- パンターG型×6
- Ⅳ号駆逐戦車L70×6
- ヤークトティーガー×1
- ヤークトパンター×1
- エレファント×1
- Ⅲ号戦車J型×1
- マウス×1

力と装甲を備えていたが、約70トンもの重量が災いし、足回りに不安があった。みほはそれも計算に入れて、黒森峰を振り回していたのだ。

こうして再び危機を脱した大洗女子は、川を渡った先にある市街地を目指す。ところが渡河の途中で、M3がエンストするアクシデントに見舞われた。追手が迫るなか、M3の搭乗員である一年生チームは、みほに先へ行くようにと訴える。

実は昨年、みほが黒森峰のフラッグ車を任されて決勝戦に臨んだ際、目の前で仲間の車輌が河川に落下する事故が起きた。水没する車輌から隊員を助けようとしたみほは、フラッグ車を離れ、そのため黒森峰が10連覇を逃すという経緯があった。だがみほは、仲間たちの励ましもありM3と一年生チームの救出を決意。見事な跳躍で戦車から戦車へと飛び移り、牽引用ワイヤーをM3へと送り届けるのであった。

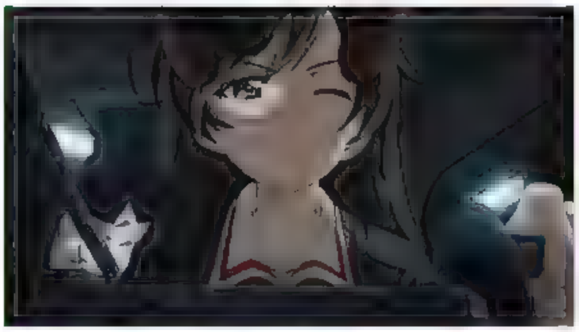
こうしてM3を助け出し、チーム全員で戦うことを選択したみほは、ヘッツァーと合流して市街地へと急いだ。しかし市街地で彼女たちを待ち構えていたのは、黒森峰が決勝戦用に用意していた最大の切り札　史上最大級の超重戦車・マウスだった。

分厚い装甲で、大洗女子の砲撃を跳ね返し、大口径砲でB1bisやⅢ突を吹き飛ばすマウス。このままでは、大洗女子の全滅は免れなかった。そこでみほはⅣ号の通信手・武部沙織の言葉をヒントに、奇想天外な策を思いつく。それはヘッツァーをマウス下部に潜り込ませて足止めすると共に足場を作り、車体上部へと登った八九式が相手の砲塔をブロッ


一年生チームを救出するみほの姿を見たチームメイトは、絶対に勝つと決意。気持ちをひとつにした大洗女子は、優勝に向かって奇跡を起こしていく










マウスの登場は、大洗女子に衝撃を与えた。だがみほの作戦により、この怪物を撃破。ヘッツァーの離脱を招いたが、大洗女子の士気は大いに上がった










大洗女子で、一番成長したのが一年生チーム。練習試合では逃げ出した彼女たちは、決勝戦でエレファントやヤークトティーガーを倒すという、ジャイアントキリングを連発した



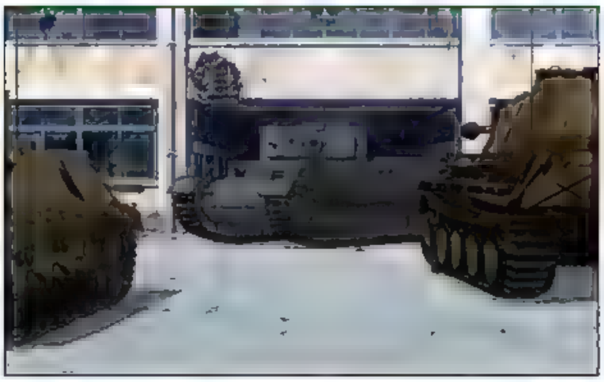







「西住流に逃げるという道はない」というまほの言葉通り、一騎打ちを制したのは、履帯の破損をかえりみず相手の後方に回り込んだみほであった

ターニングポイント


車輛数は、黒森峰20輛に対して大洗女子は8輛と、明らかに差があった。だが大洗女子は、相手の部隊を分断することで、戦力差を埋めていた。特にポルシェティーガーは、たった1輛でフラッグ車であるティーガーⅠと黒森峰本隊の合流を阻止。みほに一騎打ちの機会を与えることに成功した。まさに、チームワークによる勝利と言えるだろう



ク。露出した後部エンジングリルのスリットに、Ⅳ号が攻撃を加えるというものだった。ヘッツァーが行動不能になったものの、この作戦で見事にマウスを倒したみほは、仲間たちが黒森峰の戦力を分断する間にフラッグ車同士の一騎打ちへと持ち込んだ。

仲間たちがそれぞれの役目を果たして次々と脱落するなか、みほはまほと対峙。壮絶な追走劇の末、みほはⅣ号を相手フラッグ車であるティーガーⅠの後方に回り込ませてチーム全員の想いを込めた一発を発射。ティーガーⅠの後部を貫き、ついに優勝を果たすのだった。

この結果を、誰が予想できたであろうか。だが目の前で起きたことは、すべて事実である。そして大洗女子の優勝は、チーム全員が知恵と勇気を振り絞って戦い抜いた結果でもある。この試合は日本の戦車道に、新たな光を与えるものになるだろう。

SENSYA-DO REAL VOICE

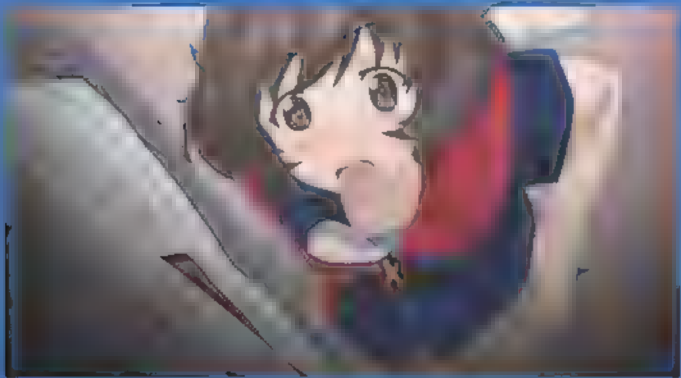


優勝校インタビュー

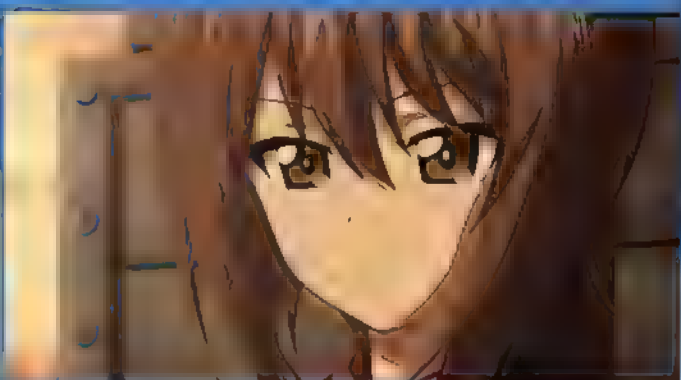
大洗女子学園 隊長・西住みほ選手に聞く 今大会での戦い



◀優勝旗とともに[illegible]
▼地元・大洗町[illegible]







例年を上回る熱気を帯びていた [illegible]

[illegible]

うれしいです

——一回戦、いきなり強豪校のサンダース大附属と当たりましたが、

一回戦から強い学校に当たってしまいましたが、みんな一生懸命練習や情報収集をしてくれていたので [illegible]

——序盤は苦戦していたようですが [illegible] くるとは思いませんでした

——中盤以降、打って変わって相手 [illegible]

はい。アヒルさんチームがサンダース大附属のフラッグ車を発見してくれたので、通信手の武部さんが頑 [illegible] できました

——試合をしたうえでのサンダース [illegible] 強いだけではなく、戦車道をとて [illegible] しょ」と言っていたのが、印象的で [illegible]

——続いての二回戦はアンツィオ高 [illegible]

「いえ、アンツィオ高校は自分たちの戦車の特徴を活かした戦術で、と [illegible] ら逆の結果に [illegible]

——試合後、ずいぶん盛り上がっていたようですね。

「アンチョビさんが [illegible] 敵味方関係なくみんなを [illegible] らうのがアンツィオの流儀だって。すごく本格的なイタリア料理を、ごちそうになりました」

——準決勝は、前年の優勝校・プラウダ高校との試合。途中、完全に追い詰められた状況になったとき、どう思いましたか

「あのときに負けたら廃校という話を聞いて、戦車道の楽しさを教えてくれたみんなとずっと一緒にいたい、勝ちたいって思いました」

——プラウダの包囲を突破し、見事な逆転劇になりましたね。

「本当にギリギリでした」

——そしてついに決勝戦。黒森峰女学園とは激闘でした。特にお姉さんの西住まほ選手との一騎打ちは見ごたえがありました。

「あの状況に持ち込めたのは、みんなの力があってこそです。最後は、紙一重でした。チームのみんなが勝たせてくれたんだと思います」

——しかし黒森峰はもともと、西住選手の出身校ですが、どうして転校されたんですか？

「あの…私、大洗[illegible]のは、戦車道をやめようと思ったんです。去年、私のせいで黒森峰は10連覇できませんでした。それが苦しくて、逃げちゃったんです」

——でも、また戦車道を始めた。

「大洗女子には戦車道の経験者がいなかったので、最初は無理や[illegible]はとて[illegible]いるん[illegible]

——楽しそう、ですか

「私は今まで『勝たなきゃ』って思って戦車道をやってきました。[illegible]大洗女子のみんなから『戦車道』って[illegible]いろいろあっていいんだって逆に教えてもらったような気がするんです」

——大洗女子に来てよかったですね。

「はい！　大洗女子のみんなと出会えて、戦車道をまた始められて、本当によかったです」

——改めて、全国大会通しての感想をお願いします

「はい。ずっと厳しい戦いでしたけど、みんなで乗り越えることができました。おかげで私自身も、もう一度戦車道と向き合うことができて、一生忘れることのできない、素晴らしい大会でした」

これが私たちの戦車道

THIS IS OUR TANK WAY

全国大会優勝校訪問・茨城県立大洗女子学園

戦車道では古い伝統を持ちながら、近年は休止が続いていた大洗女子学園。ここでは優勝に沸く学園の校風や、勝利の立役者である隊長・西住みほに、Ⅳ号戦車の特徴をお聞きしました。





Profile

西住みほ

大洗女子学園 普通科2年
隊長・IV号戦車 車長
好きな戦車／II号戦車 E/F 型

10月23日生まれの16歳。
血液型はA型。熊本県熊本市の出身で、現在は大洗女子学園の女子寮に寄宿する。
好きな科目は国語で、趣味はぬいぐるみ集め。マカロンとミルクティーを好んでいる。座右の銘は「友情は瞬間が咲かせる花であり、そして時間が実らせる果実である」

「Ⅳ号戦車は、突発的な状況の変化に対応しやすく、指揮をするのに向いていると思います」

自分たちの乗っていたⅣ号戦車につ [illegible] え、優花里さんは別のコーナーで解説しているんですか!? ……わ、わかりました。あまり自信はありませんがよろしくお願いします。

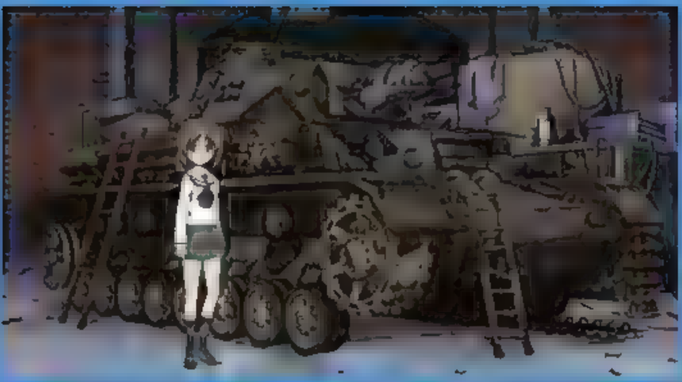
[illegible] から、D型のなかでも割と初期の頃だとは思いますが、あちこちにいろいろといじった跡があるので、シャーシ以外はひょっとするといろいろなタイプの寄せ集めかもしれません。ほ [illegible] 車倉庫のなかにちゃんとしまってありましたし、状態も悪くなかったのでし [illegible]

ストアの途中で予算不足とか、ひよっ [illegible] り揃っていましたし、内装のコーティングも下地はしっかりしていましたか [illegible] くようにしてくれました。

自動車部の皆さんは、ほかの車輌もすぐに直してくれて、そのうえあの扱いの難しいポルシェティーガーを運 [illegible] います。

Ⅳ号自体は戦車道では装甲も薄い [illegible] くありません。その代わり無理をして [illegible]

[illegible] やすく、指揮をするのに向いていると [illegible] 純正品やアフターマーケットを問わずにたくさんあります。修理やメンテナ [illegible] も付けてH型相当まで強化されてい [illegible] 皆さんに強化してもらっていたので、[illegible] ました。最後の一撃も足回りがしっかりしていたのと、主砲が長くなったにも関わらずフロントヘビーにならないように、重量バランスの調整をしてく [illegible] くれる麻子さん、正確な砲撃をして [illegible] をしてくれる優花里さん、つねに味 [illegible] ながいてこその大洗女子学園のⅣ号 [illegible]





チームとともに成長したあんこうチームの戦車

ドイツのⅣ号戦車は第二次世界大戦を通じて、つねに最前線で活躍した戦車である。もともとは火力支援用の戦車として開発されたが、3人が搭乗可能なバスケット式砲塔のターレットリング(砲塔回転部)が大きいため、拡張性に優れていた。そこで、より強力な主砲を搭載したさまざまなバージョンが開発され、終戦までドイツにおける主力戦車の一角を担った。



Ⅳ号戦車D型改(H型仕様)

全国大会の決勝戦に登場したH型仕様は、成形炸薬弾に効果があるとされる、シュルツェンを装着。砲身もF2型の43口径から、より長い48口径へと換装された。こうして改造を重ねられたⅣ号戦車は、全国大会を最後まで戦い抜いた



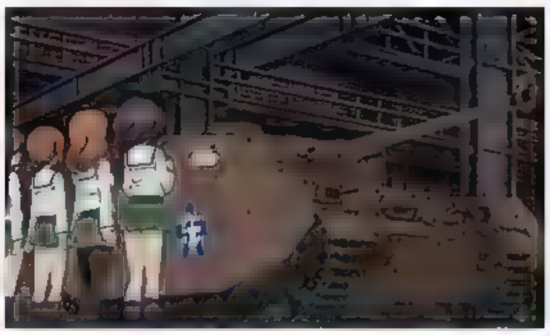
Ⅳ号戦車D型

Ⅳ号シリーズで、初となる本格量産型。榴弾による火力支援を念頭に置いた、短砲身75ミリ砲を搭載している。ただし短砲身の75ミリ砲は初速が遅く、装甲貫通力が弱かった。そこで対戦車戦は、成形炸薬弾を使用することでカバーした

Ⅳ号戦車D型改(F2型仕様)

一回戦後に発見した、長砲身75ミリ砲へと換装したタイプ。初速の速い長砲身化により、対戦車能力が向上。装甲もD型の最大35ミリから、50ミリへと強化されている。これによりⅣ号戦車は、対戦車用の車輌に生まれ変わった







大洗女子学園の歴史と校風

茨城県にある学校で、大洗町を母港としている。古い伝統と、生徒たちの自主独立精神を最大限まで尊重した校風と、それにもとづく多彩な授業が特色である。茶道、書道、華道、弓道、長刀道、戦車道などの一般的な選択科目以外に、仙道、忍道など一部の学校でしか行われていない珍しい授業まで存在。これらの授業を目的に、本校を選択する学生もいるほどである。こうしたユニークなカリキュラムから、過去には文武両道の学校として知られており、戦車道も活発であった。

しかし、どこの国とも協力関係に無い独立校であるため、戦車の維持管理に多大なコストと労力が必要となり、戦車道の人気衰退とともに履修者が激減。20年ほど前に、戦車道の授業自体が廃止となっている。その際、保有していた戦車の大多数は売却された。なお全国大会へ参加するにあたり、当時売れ残った戦車や、生徒が書類上は廃棄されたことにして隠した車輌をレストアしている。

保有車輌はⅣ号D型、八九式中戦車甲型、38(t)戦車B/C型、Ⅲ号突撃砲F型、M3中戦車リー、B1bis、三式中戦車、ポルシェティーガーと、国籍や形式が非常にバラエティーに富んでいる。それ以外にも、各タイプのⅣ号戦車があったことも分かっている。過去にはドイツの戦車が主力となり、それを日本戦車と少数の各国の戦車が支えていたと思われる。

現在は公立学園艦統廃合計画によって、大洗女子の学園艦は他校との統合や新型艦への移行リストの筆頭に挙げられている。

というのも、日本では明治維新後、坂本商会を中心に高等教育や専門教育を行うために、商船改造の学園艦が多数作られた。その後、学校の数が増えるに従って払下げの旧式軍艦なども使用されるようになったが、第二次世界大戦後、本格的な学園専用艦の建造が決定した。超大型な学園艦の新造で、それまであった多数の改造学園艦が統廃合となり、都道府県に最低で一隻、人口が多いところでは複数隻の公立新型学園艦が建造された。県立大洗女子学園も、このときに茨城県の中核となる女子高艦として建造された。だがその後、私立校が同様の大型学園艦を次々と建造。しかもより大きく、より設備が整った艦であること、学生数が増大から減少に転じたことで、公立の学園艦が余るようになった。特に、大洗女子の学園艦は建造以来、本格的な改修をされずに運用され続けている。そのため老朽化が進んでおり、廃校が検討され続けてきた。

大洗女子は多彩な授業だけではなく、過去に多数の学校を統合したこともあって学科が非常に多く、普通科だけでも第一から第三まである。それ以外にも商業科、情報科、被服科、栄養科、工学科、水産科、農業科、船舶科が存在している。特に水産科は魚類の養殖に力を入れており、ブリやマダイ、ヒラメなどがおもに育てられている。

さらに、母港となっている大洗町の名物である、キアンコウの完全養殖にも成功している。従来は、深海魚として考えられてきたアンコウだが、それほど深い場所でなくても生息しているのを確認。根気よく研究を重ねた成果だという。

これは学生の気質として、真面目で粘り強いうえに、へこたれずに結果が出るまで我慢して続ける面が強いためであろう。また水産科だけではなく、学園全体に共通した気質でもある。それが、戦車道全国大会を優勝に導いた原動力の、ひとつとも考えられる。

ほかに農業科における生産量の高さは全国的にも有名で、学園内の食糧を賄うだけではなく、外部への販売まで行っているほどである。

また納豆や干し芋などの加工食品も、積極的に作られている。その一方で、工学科と情報科は学科の垣根を越えて交流し、さまざまな勉強をともにすることをモットーにしている。前述の水産科によるキアンコウの養殖成功には、この両学科が積極的に協力した結果だといえる。

学園内の施設と生徒の生活ぶり

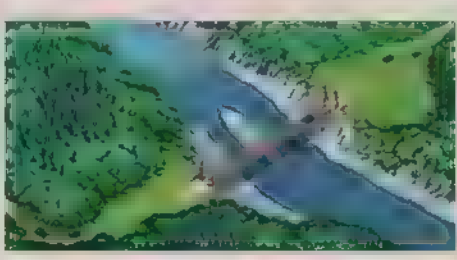
学園行事





行事は生徒会が中心となり、さまざまなイベントを催している。また大洗町の行事にも参加しており、あんこう踊りを披露している

戦車道の施設





過去に戦車道が盛んだっただけに、訓練施設や整備場などが意外と充実している。特に訓練場は、河川や森林を利用したフィールドが用意されている

艦内施設





艦内では農業科や水産科が、創意工夫を凝らして各種食材を生産。市場にも供給することで、プロとしての自覚と手腕が育てられている

学生寮





基本的に個室が完備されているが、生徒の希望によりルームシェアも可能となっている。また集合住宅から一戸建てまで、取り揃えている

大浴場



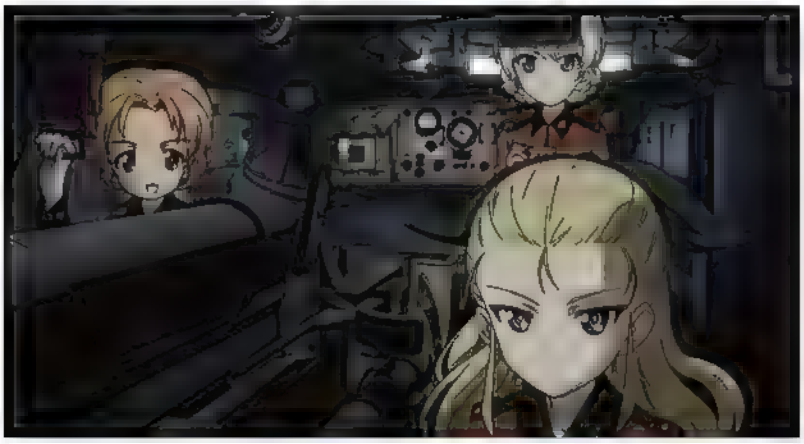
学園内には大浴場のほかに、露天風呂や生徒会専用の海水風呂を設置。生徒たちが憩いの場として利用している



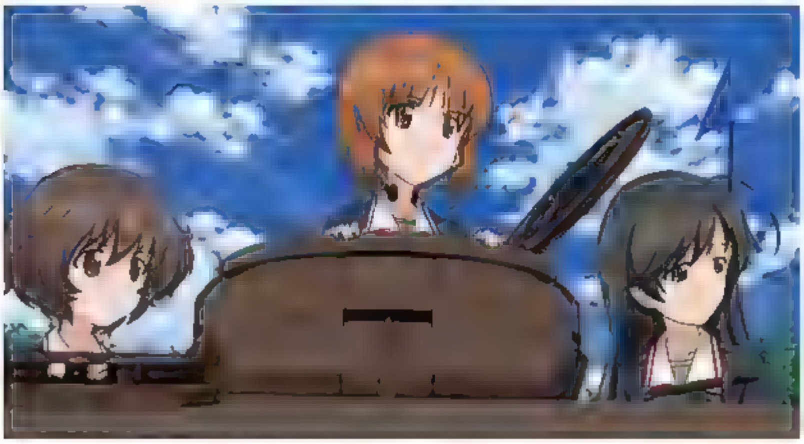
速報！大洗女子学園優勝記念エキシビションマッチ開催

見事な戦術とチームワークで、全国大会優勝を成し遂げた大洗女子学園。その地元・大洗町で、優勝を記念したエキシビションマッチが行われる。そこで取材班は、大洗町へ急行。その概要をお知らせしよう。

　全国大会で優勝を果たし、学園艦の母港である大洗町に凱旋した大洗女子学園の面々。しかし彼女たちには、まだ決着をつけなければならない相手が残っていた。
　それは、聖グロリアーナ女学院。全国大会前での親善試合では、大洗女子の隊長・西住みほの活躍もあり、聖グロリアーナの隊長・ダージリンとの一騎打ちに持ち込んだが、惜しくも敗北。全国大会では再戦の機会がなかったこともあり、今回のエキシビションマッチは因縁の対決となる。
　今回の戦いで注目すべき点は、その試合形式。大洗女子は知波単学園と、聖グロリアーナはプラウダ高校とタッグを組んだチーム対抗戦となる。普段は良きライバル同士である、パートナー校とのチームワークが勝敗を分けるポイントとなるだろう。
　特に、大洗女子と知波単による組み合わせの実力は未知数。勇猛果敢で知られる知波単と奇抜な作戦を繰り出す大洗女子が、どのような相乗効果を生み出すのか興味深い。
　一方、聖グロリアーナのダージリンはパートナーとなるプラウダの隊長・カチューシャと交流があり、お互いの意思疎通に問題はないと思われる。さらに、イギリス製戦車とソビエト製戦車の混成チームは、かなり強力な戦力になるはず。地の利は地元の大洗女子にあるが、決して油断することなく、猛然と立ち向かってくるに違いない。
　果たして、各チームはどのような試合展開を見せてくれるのか。また大洗女子は、親善試合での雪辱を果たすことができるのだろうか!? この模様は、次号にてお伝えしたい。

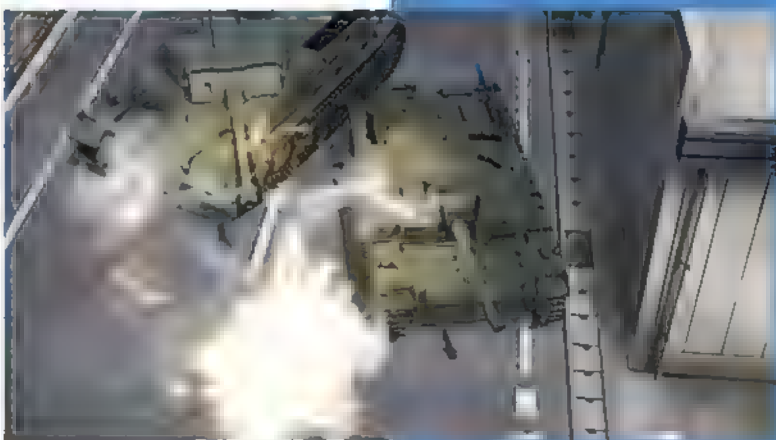






再び大洗の地に、履帯の軋む音や砲撃の轟音が甦る！　優勝した大洗女子は、聖グロリアーナ＆プラウダのチームに、知波単とどんな共同作戦を仕掛けるのだろうか!?　この戦いは、目が離せない！





不肖・秋山優花里の 第7回 戦車講座



見果てぬ夢か幻か? 無敵を目指した超巨大戦車たち

歴史に埋もれてしまった大きくて強い超巨大な戦車を、私こと秋山優花里がクローズアップ。新資料を元に、あの「オイ車」の正体にも迫ります!

超巨大戦車の始祖鳥

皆さんご無沙汰しておりました! うれしさいっぱいの秋山優花里です! 「戦車講座」が復活して、再び皆さんにご紹介できる機会をいただき、感謝感激です。さて復活を記念して今回は、大きな大きな戦車、総重量が100トンを超える「超重戦車」をご紹介いたします!

「超重戦車」といえば戦車道全国大会の決勝戦に登場した「マウス」が有名ですが、それ以外にもいろいろな戦車があったんですよ。ただ残念ですが、今回は実車が作られた戦車に限らせていただきます。まずご紹介するのは1917年、第一次世界大戦中のドイツで開発された重量なんと約150トンという巨大戦車、「Kワーゲン」であります! 第一次大戦のドイツ戦車といいますと、「A7V」が有名ですが、この「Kワーゲン」はイギリスの菱形戦車に外観が似ています。車体全体を取り巻く履帯(ただし上部は装甲カバー付き)、武装は車体両側の張り出し部に収納するなど、基本形態は菱形戦車そのもの。ただ、大きさが文字通り桁違い! 菱形戦車「マークⅣ」の全長 約8メートル、重さ約28トンに比べ、「Kワーゲン」の全長は約13メートル。重さも約150トン! しかも武装は機関銃が7挺! 時代を考えれば、まさに〝無敵〟の巨大戦車であります!

いや~「マウス」の25年以上前から、巨大な戦車を作ろうとしたドイツ人の情熱はすごいですね~。しかし、重さ約32トンの「A7V」が時速15キロメートルぐらいと鈍足だったことを考えますと、「Kワーゲン」の機動性には疑問も残ります。一応、4分割して鉄道で運ぶ予定だったそうですが。

この「Kワーゲン」は、大戦末期の資材欠乏などで生産が止まってしまい、1918年の休戦時に制作途中の2輌の車体が残っただけでした。戦後、イギリスが持ち帰ろうとしたそうですが、運べずに爆破処分!

あぁ、どんな手段を使ってでも持ち帰り、ボービントン博物館に展示して欲しかったのであります。

その後、本講座の第4回でもご紹介した巨大な「多砲塔戦車」がイギリスやソビエトで作られますが、成功作とは言い難く、無敵の巨大戦車の夢は消えかけてしまいました。

しかし、その夢を捨てきれなかった人物がドイツにいました。そう、アドルフ・ヒットラーであります。

独裁者の儚い夢?

ヒットラーの肝いりで作られたのが、決勝戦にも登場した〝戦車が上に乗っかった戦車〟「マウス」であります。登場したときは敵の戦車ながら、思わず感動で震えてしまいまし



マウス

史上最大級の戦車。最高速度は、時速約20キロとされるが、路上速度はだいたい時速13キロくらいである。また左右で12.5トンもある履帯交換には、6人の作業員と設備の整った工場内でも、約8時間かかった。第二次世界大戦の末期に2輌が製造され、1輌に武装が施された。だが戦闘に向かう途中にエンジンが故障し、爆破処分された

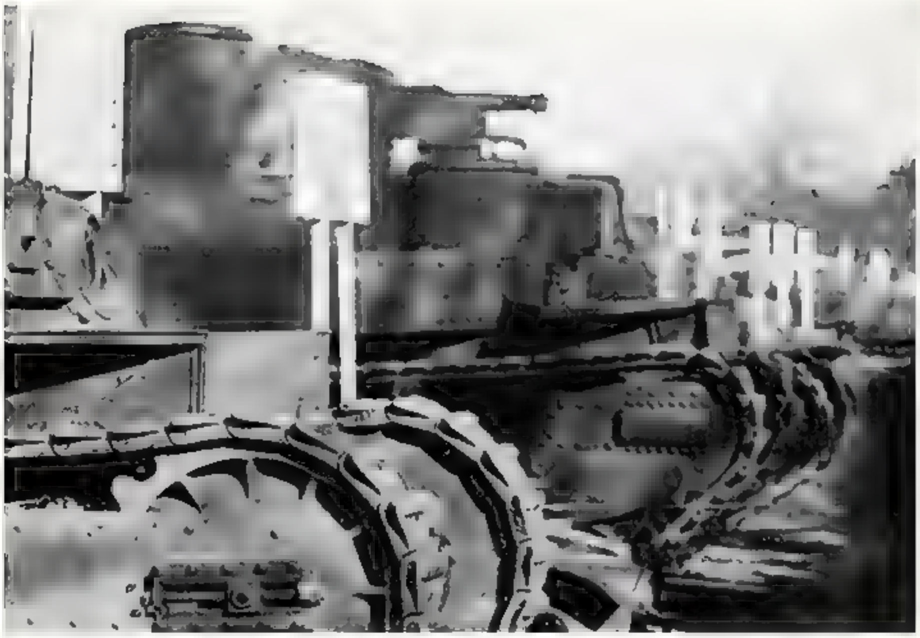
写真提供:グランドパワー(ガリレオ出版)

E100

車体はほぼ完成していたが、第二次世界大戦には間に合わなかった戦車。当時ドイツ戦車の足回りには、緩衝力に優れたトーションバー方式を採用していた。しかしトーションバー方式は、車体下部を緩衝装置となる捻り棒が貫通していた。そこでE100は、捻り棒を外装式へと変更。整備性を高めることに成功した。なお、実際の車輌は現存していない

写真提供:グランドパワー(ガリレオ出版)





九五式重戦車

1932年に完成した、日本の戦車。重量は約26トンで、主砲塔にはこの戦車のために開発された、短砲身70ミリ砲が搭載された。また前部副砲塔には37ミリ砲を備えており、日本としては強力な重戦車であった。しかし生産はわずか4輌だけであった

写真提供：吉川和篤氏

た。「マウス」は全長12・6メートル、高さ3・6メートル。重量は約190トン！ 砲塔だけで約50トンと「パンター」1輌分。まさに超巨大戦車であります。武装は主砲に128ミリ砲、その横に副砲の75ミリ砲を装備。副砲だけでⅣ号戦車F型と同等の火力と言われています。さて、当初は「マムート(マンモス)」と呼ばれたこの戦車のアイデアは、1941年に、あのポルシェ博士とヒットラーの雑談がきっかけだったと言われています。ところが、欧州を席巻したスピード重視の〝電撃戦〟とは真逆の巨大戦車の製造に、多くの関係者が反対！ 開発は進みませんでした。しかし、そんなことではめげないのがポルシェ博士。彼は地道に研究を続け、1943年、ついに実物大のモックアップを完成させたのであります！

これを見たヒットラーは、マウス開発計画を正式にスタートさせたのでした。

それでも関係者は、開発を中断させようと「火炎放射型」への改造を求めたり、エンジンを出し渋ったりと、アノ手コノ手の妨害を実施。軍としては、ただでさえ戦車数輌分の資材を使って「マウス」を1輌しか作れないのに、ポルシェ博士が「ポルシェティーガー」同様、〝電気駆動推進〟を採用したため、貴重な〝銅〟を大量に使うことが許せなかったそうです。今も昔も、電気を伝えるには銅線が最適。ですが当時のドイツ勢力圏内では鉄は充分にあったのですが、銅の産出は少なく、大砲の薬莢も連合軍の真鍮(黄銅)製に比べると、重たくて製造に手間がかかる鉄の薬莢を使っていたそうです。

いろいろ我慢して貴重な銅をレーダー等に回しているのに、なんで試作戦車が大量に使うんだ！ と文句のひとつも言いたかったのでしょう。

このように批判の多かった〝電気駆動推進〟ですが、導入してみると電気モーターで履帯を動かすので、滑らかな走行が可能になりました。

実際190トンの重さにも関わらず速度が遅い以外、機動力は「パンター戦車にできることは何でも可能」との高評価が出たぐらいでした。これには履帯幅を1・1メートルと非常に幅広にし、重量を分散できたことも役だったと思われます。

とはいえ、その重さを考えると移動はとても困難。まず「マウス」が渡れる橋がありません！ 川を渡るときは2輌でペアを組み、陸上の1輌がケーブルを使って電力を供給し、川底を走る予定でした。電気推進ならではのアイデアと言えるでしょう。

また、鉄道輸送のためには、専用の車輌やクレーンが開発される予定でした。想像ですが、ドイツでは総重量120トンを超える「カール自走臼砲」を鉄道輸送していたので、「マウス」もなんとかなる、と考えていたのかもしれません。そして戦局が不利に傾き、防戦一方のドイツでは長距離移動はあまり重視されなかったのかもしれません。確かに、あらゆる攻撃を跳ね返す205ミリの前部装甲は防御戦には最適！ 決勝戦の黒森峰のように、相手がどうしても通過する重要ポイントに「マウス」を配備しておけば、大活躍したことでしょう。しかし、あまりに製造の手間がかかる「マウス」は生産が進まず、150輌の予定が2輌完成したところで終戦。その活躍の舞台はついに現れませんでした。

ちなみに1輌は、ロシアのクビンカ博物館に展示中とのこと。一度は行ってみたいものであります！

先進的なE100

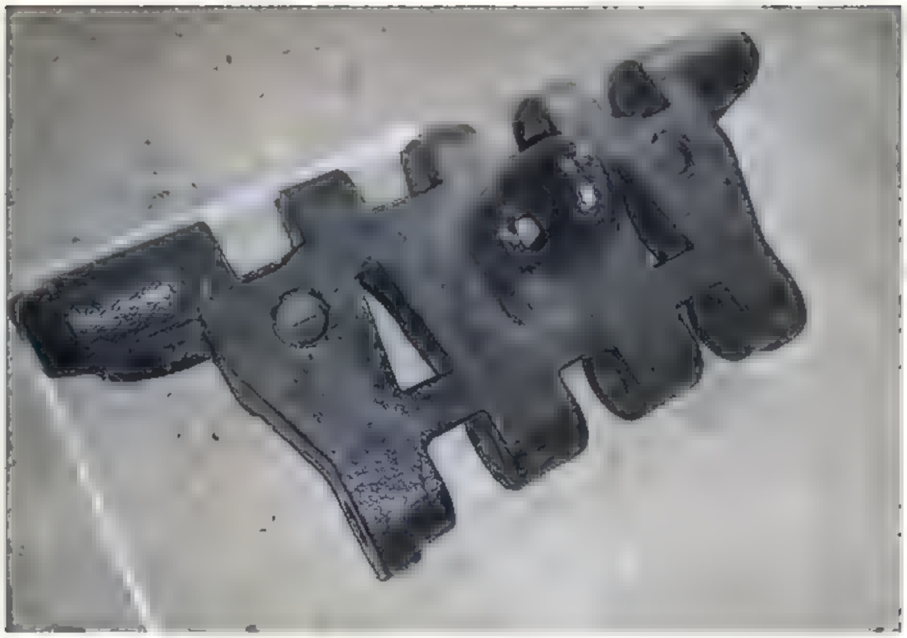
膨大なコストの割には、戦局に寄与せず終わった「マウス」を〝ヒットラーの妄想の産物〟とする意見は多いのですが、ドイツでは「Kワーゲン」のように、以前から「超巨大戦車」のアイデアがありました。そして「マウス」以外にも、同時期に「超巨大戦車」の計画が存在していました。それが総重量140トンの「E100」であります！ この戦車は1943年に始まった「Eシリーズ構想」の元に作られた戦車。その構想の狙いとは「車体合理化」です。「M4シャーマン」や「T-34」に生産を絞った連合国とは違い、ドイツは数多くの戦車や自走砲をバラバラに生産し、効率が悪かったことは有名です。もちろんドイツでもその不利益は認識されていて、基本車体を統一し生産効率を上げようと計画されたのが「Eシリーズ」であります。例えば「E10」は、10トン級の基本車体を設計し、装甲車や「ヘッツァー」のような小型車輌をまとめて生産する計画でした。ほかにも重量25トン級の「E25」、50トン級の「E50/75」などがあり、そのなかで最大の車輌が、「E100」であります！「E100」は、「マウス」並に前面200ミリの装甲を装備。主砲には150ミリ砲、もしくは174ミリ砲の搭載が計画されていました。これが実現していれば、最強の攻撃力を誇る超重戦車が誕生していたかもしれません！ しかし残念ながら、「E100」は車体がなんとか完成した時点で開発は中止。戦後、未完成の車体が、またもイギリスに押収されたと言われています。

未完に終わった「Eシリーズ」ですが、エンジンとトランスミッションを車体後部にまとめて搭載する、「パワーパック」方式を採用。ほかにも全車が共通の工具を使える予定だったりと、非常に先進的な設計でした。しかし1943年以降のドイツには、その構想を実現する時間も余裕もありませんでした。

事実、「Eシリーズ」は「E100」だけが開発され、ほかの戦車は図面段階で計画中止になっています。「E100」だけが開発されたのは、「マウス」の当て馬とも言われていますが、やはり起死回生を狙える、〝無敵戦車〟の夢を捨てきれなかったのではないでしょうか。

日本にもあった超重戦車

さて〝無敵巨大戦車〟の夢は、ドイツの専売特許ではありません。なんと、日本でも作られていたのであります！ まずは、これまで伝えられてきた「国産超重戦車」のお話をご紹介します。1939年、〝ノモンハン紛争〟で日本戦車はソビエト戦車に完敗してしまいます。特に防御力、戦車の装甲が難なく撃ち抜かれたことは衝撃的でした。この事実を憂いた陸軍省の某参謀が、秘密裏に巨大戦車の開発を命じた、とされています。なんでも「八九式中戦車を巨大にすれば良い」と言ったとか。事実とすれば、防御力重視という考えはすばらしいのですが、技術的には無茶苦茶です。こうして1940年に作られたのが「試作100トン戦車」。「大きいイ号(八九式)戦車」の意味で、「オイ車」と呼ばれたとか。アヒルさんチームが愛する、「八九式中戦車」が重さ約12トンですから、100トンというのは大きいにも程があります。しかもこの戦車、中央の主砲塔に100ミリ砲、その前には37ミリ砲の小型砲塔が、2つ並列に装備された多砲塔戦車でした。ただ「試作100トン戦車」はその大きさゆえ、まともに動くことができず倉庫にしまわれてしまい、1944年にスクラップになったと伝わっています。



オイ車（履帯）

若獅子神社にて保存されている、オイ車の履帯。唯一、現存するオイ車の部品と思われる。重量は、陸上自衛隊・富士学校で展示する際の計測によれば、約62キロを記録した。なお謎に包まれたオイ車の正体は、ファインモールド・鈴木邦宏社長が入手した新資料により、明らかにされつつある

写真提供：日向昭了氏

しかし、その1944年に重量120トンの超重戦車の開発が再開したとも伝わっています。ちなみに初の国産戦車「試作1号戦車」にも関わり“日本戦車の父”と呼ばれた原乙未生殿は、こちらを「オイ車」と紹介していました。

武装は、主砲塔は同じ100ミリ砲で、前面の小型砲塔は47ミリ砲にパワーアップされていたそうです。またこれとは別に「150トン戦車」も作られたのではないか？　と言った話も伝わってます。三菱重工で作られたので別名「ミト車（三菱・特殊の意味）」とも呼ばれていたとか。このように諸説入り乱れ、秘密裏に作られていたため、正確な姿がよく分からない日本の超重戦車。関係者の証言もバラバラ。写真も存在していないので、普通ならその存在自体が疑われてしまいます。

しかし、実在した証拠がただひとつ存在します！　なんと静岡県の若獅子神社に、「オイ車」部品と伝わる履帯が残っていたのであります！　その横幅約80センチ。「八九式中戦車」の履帯が32センチですから倍以上の大きさ！　やはり恐竜、じゃなかった「オイ車」は確実に存在したのであります!!

これが本当の超重戦車オイ車です！

これまで正確な姿が分からなかった「オイ車」ですが、このたび「八九式中戦車」のプラモデルも発売している“ファインモールド”の鈴木邦宏社長が、なんと新資料を発見！　ついに「オイ車」の全貌を明らかにしてくれたのであります！　ご提供いただいた資料によりますと、「オイ車」は総重量150トンの1輌のみが試作されただけで、100トンや120トン戦車は実在しなかった！　という、日本戦車界の定説を覆す、驚きの結果が導き出されたのであります！

まず「オイ車」、別名「ミト車」は1941年4月に試作命令が下され、翌42年2月に“車体”が完成したことが資料に書かれています。この重量が約98トン。おそらく「100トン戦車」の話は、ここが出発点だったのでしょう。

図面を見ますと車体の長さ10メートル、砲塔ぬきで高さが2・53メートル。こんな巨大なものが作られていれば、目立つのも当然。秘密だったとはいえ噂が噂を呼び、情報が混乱してしまったのでしょう。

さらに複数あった砲塔は完成しなかったようですが、これら砲塔などの重量が総計「50トン」だったようなので、合わせれば「150トン戦車」となります。あの「マウス」も、最初の走行試験では砲塔が完成せずに、コンクリートのダミーを乗せて試験。「E-100」も結局、砲塔が未完成だったので、回転砲塔の製造は本当に難しいのですね。「オイ車」の砲塔は全部で4つ。これまで伝わっていた主砲塔と前部の並列小型砲塔に加え、後部に機関銃を搭載した小型砲塔がひとつあったそうです。想像ですが、「120トン戦車」は、製造に手間のかかる主砲塔を除いた、小型砲塔だけを搭載した場合の重量なのかもしれません。

さて、大田区の多摩川沿いにあった丸子工場で建造された「オイ車」車体は、1943年、本格的な走行試験を行うため日本の戦車研究の中心地、神奈川県相模原の第4技術研究本部への輸送を命じられます。このとき、移動のための解体に13日間。輸送はトラック14輌を動員し3日間かけて輸送を行ったと記載されています。さらに、相模原での再組み立てに24日間もかけていますから、「マウス」同様に長距離輸送のことは、あまり考えていなかったのでしょうね。こうしてなんとか相模原に運んだ「オイ車」でしたが、同年8月に行われた走行試験では、畑のなかにあった道路を走ると、履帯が1メートルも沈下。しかも旋回するたびに車体が沈み込むため走行が困難に。あげくに下部転輪が走行中に次々と脱落し、とうとう走行試験は中止となってしまいました。「マウス」とは違い、非常に残念な結果となってしまいました。

その後の「オイ車」は満州へ送るためバラバラのまま船積みを待っていたとも、1944年にスクラップにされてしまったとも言われています。あぁ、悲しい限りであります。

超重戦車の運命

こうして実際に作られた「超重戦車」たちを見ると、いずれも劣勢側が開発し、しかも戦場には間に合いませんでした。まるでギャンブルで負けている人が、一発逆転の大穴を狙ったような感じです。そして、最初の「Kワーゲン」から「オイ車」まで、「マウス」以外はスクラップとなる運命を辿っています。やはり“無敵の巨大戦車”は見果てぬ夢だったのかもしれません。しかし「マウス」をはじめとする巨大戦車たちが、戦場で暴れ回る姿を想像すると、私はワクワク感が止まりません！

恐竜はその巨大さゆえに滅びましたが、多くの人々が今も恐竜たちの姿を想像し、夢を膨らませています。戦車好きにとって「超重戦車」とはそんな存在なのであります！　いかがだったでしょうか？　「超重戦車」の魅力、お分かりいただけましたでしょうか。それではまた次回の戦車講座でお会いいたしましょう！

超重戦車の先駆け・シャールC2



本車は1918年、フランスで開発された世界初の多砲塔戦車。75ミリ砲を備えた主砲塔と、8ミリ機関銃を装備した小型砲塔を持っている。なお重量は約70トンにもなり、当時の技術ではこの車輌に耐えられる変速機が開発できなかった。そこでガソリンエンジンで発電し、モーターで駆動するハイブリット方式が採用された。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）


大きいことはいいことだ
超重戦車あれこれ 絵と文/モリナガ・ヨウ
◎日本陸軍が誇る(?)超重戦車「オイ車」。永らくナゾでしたが、こんな形だったようです(ファインモールド史料を元に作画)
車体だけで高さ2.5メートル
全装備重量150トン!
後ろに銃塔があった模様。
静岡の神社に履帯が1コマだけ残っています。ずっとツメの化石だけで全体図を復元する恐竜みたいなことになっていました。
想像図
どんだけ大きかったんでしょう
とても一人では運べなさそうな巨大履帯
一応ちゃんと走ったらしい。が、長距離は分解輸送。…分解に13日間、再組立に24日間というのはどういうことだ!?
「100トン戦車」と言われていたのは車体が先にできたからの説。ドイツ軍のマウスもそうでしたものね。
マウス
180トン
コンクリのダミー砲塔つき
E100
製作途中で終戦となったE100超重戦車。
戦後の写真から。
地面に置いてあるんですが、自然に沈みはじめてるところが超重戦車。
モノの本によると試作途中で開発順位が下がり、メーカーで3人の作業員の手でコツコツ組み立てが続けられたそうです。…それでは完成しないのでは?
※戦後も米軍の指示で作業続行。どんな気分だったのか気になるところです。
☆ドイツ軍は第1次大戦中、英軍戦車を見て…いきなり超重戦車にチャレンジ! けっこう形にはなった。
Kワーゲン
電車みたい
使えたかどうかはナゾ。終戦後破壊される
ペーパープランは今回は略です
ざんねん



戦車道ヒストリア

ブリティッシュ・タンケッテスタイル編

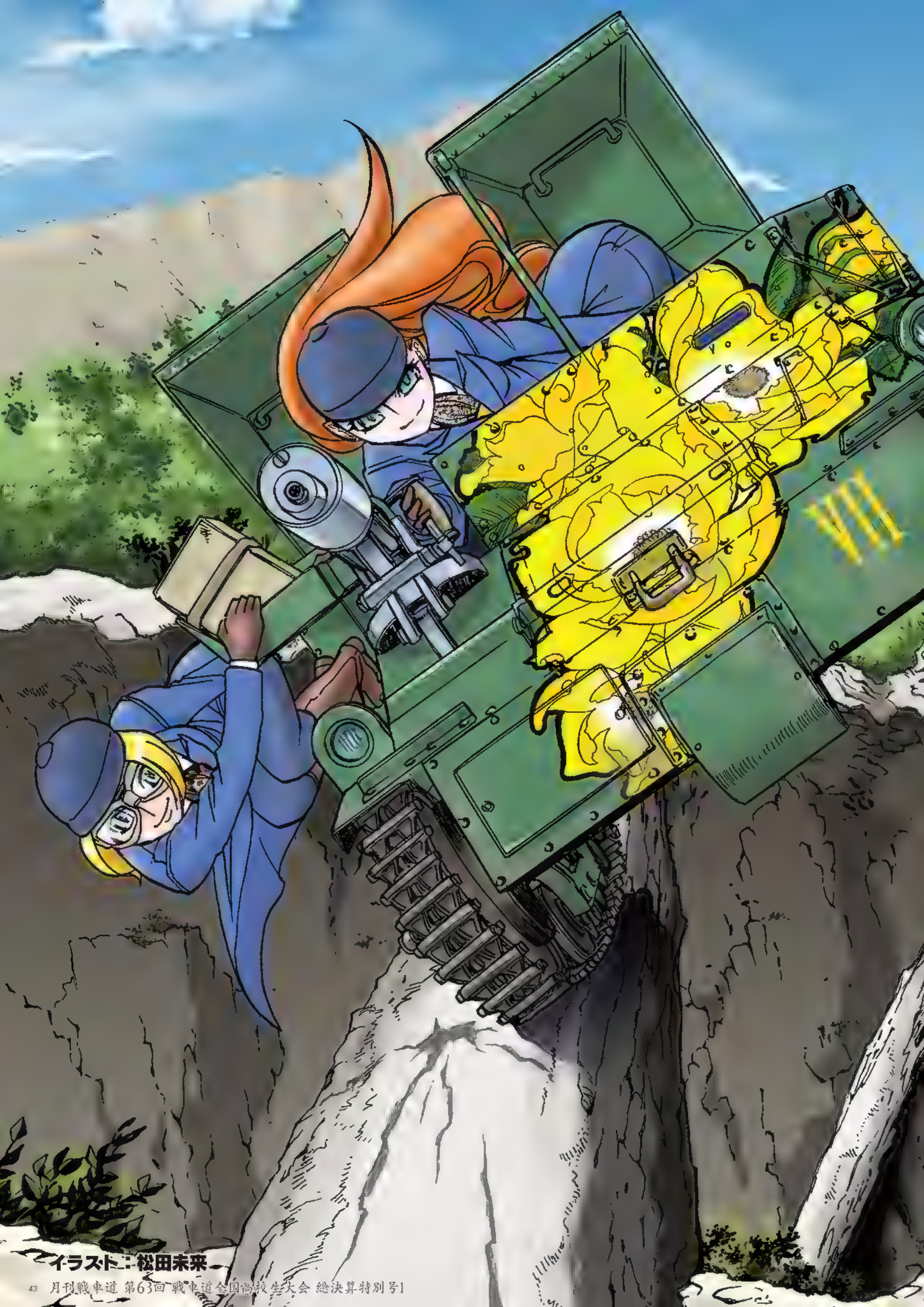
伝統ある戦車道競技のひとつ、「ブリティッシュ・タンケッテスタイル」とは、機乗の優雅さ・ダイナミズム・戦車との一体感など、観客を魅了する力が必要な試合である。

第一次世界大戦以降、女性のたしなみとして発展を始めた戦車道は、1920年代に開発されたタンケッテと呼ばれる豆戦車の普及により、数多くの競技が行われるようになった。特にイギリスでは、社交ダンスと戦車道を組み合わせたペアスケーティングが誕生。優雅な動きに魅せられたイギリス貴族は、ブリティッシュ馬術競技にも応用できないかと考えた。こうして生み出されたのが「ブリティッシュ・タンケッテスタイル」である。

もともとイギリスでは、馬術が上流階級の女性にも好まれていたこともあり、「ブリティッシュ・タンケッテスタイル」はすぐに普及。競技内容も通常の馬術と同じく、競技場内の障害を越えていく障害物飛越競技、優雅に豆戦車を走行させるドレッサージュ、3日間に渡って整備や耐久走行、障害物飛越を行うイベンティングが考案された。そのひとつである障害物飛越競技は、スピードや正確さだけでなく、芸術性も求められた。

また礼節に関しても厳格なルールがあり、マナー違反には競技中止や退場処分が課せられた。さらに公式の場では、各選手は胸に花を付けたロングドレスにつば付きの帽子の着用が義務づけられていた。

ただし観客たちは、やはりダイナミックな走行を賞賛する傾向にあった。ある試合では競技中に、2本の丸太で作られた簡易的な橋を渡る障害で、設置ミスにより片方の丸太が落下するアクシデントが発生した。しかし選手は、見事にバランスを取って走破。観客は人車一体となった走行に惜しみない拍手を贈っていた。


イラスト：松田未来

ガルパントピックス

GIRLS UND PANZER★TOPICS

気になる新キャラと戦車を大紹介！

公開まで、あとすこしとなった劇場版。TVシリーズのその後を描いたエピソードで気になるのは、新キャラたちの活躍だろう。なかでもエキシビションマッチにおける、聖グロリアーナのローズヒップやプラウダのクラーラの戦いぶりがポイントになるはずだ。

また試合を観戦していた継続高校のミカ&アキが、どのように大洗女子チームと関わってくるのか？ そして、いまだに名前すら明かされない女性の存在も要注意であろう。果たして大洗女子が、どのような試練に直面するのか。その物語はぜひ、劇場で直接確かめて欲しい。

知波単学園



九七式中戦車（旧砲塔）



九七式中戦車（新砲塔）



九五式軽戦車





西 絹代

隊員たちからの信望が厚い、知波単学園の隊長。エキシビションマッチでは、大洗女子チームとタッグを組む

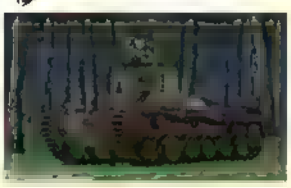


西絹代とともに戦うチームメイト。個性的な少女たちばかりだが、勇ましいところは共通している



玉田

九七式中戦車（新砲塔）の乗員。大洗女子チームと一緒に、ダージリンたちと戦う



そのほかの隊員たち



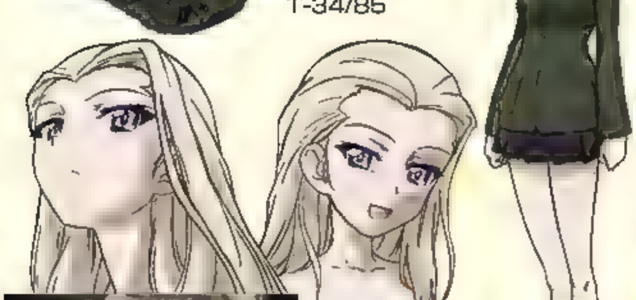
福田

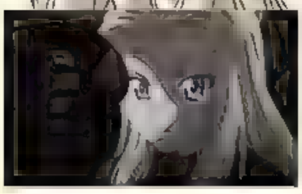
丸メガネと三つ編みおさげがかわいらしい、知波単学園の隊員。九五式軽戦車に搭乗している

プラウダ高校



T-34/85





クラーラ

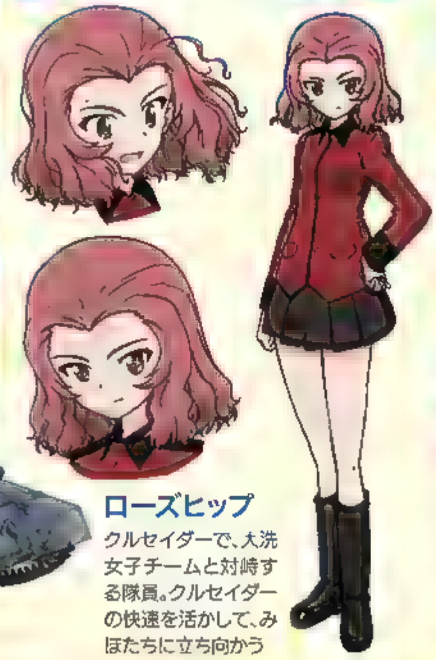
ロシア語が得意な隊員で、T-34シリーズの射撃手。試合中でもカチューシャに、ロシア語で話しかけている

聖グロリアーナ女学院





巡航戦車
Mk.VI クルセイダー



ローズヒップ

クルセイダーで、大洗女子チームと対峙する隊員。クルセイダーの快速を活かして、みほたちに立ち向かう

継続高校



ミカを補佐する、継続高校の隊員。明るい少女だが、意外と現実味を帯びた発言も多い



継続高校の隊長。とらえどころのない性格の持ち主で、思わせぶりな言動が特徴である



謎めいた人物の正体は!?

みほやまほの母である、西住しほと会見する女性。どんな意図があって、しほと話しているのだろうか

MOVIE ガールズ&パンツァー

アイテム情報



オリジナルウオッチ ガールズ&パンツァー仕様

●32,407円(税抜)　●学研パブリッシング
●11月未発売予定(9月末一部先行発売)
●発売HP https.//shop.gakken.co.jp/shop/order/k_ok/goodsdisp.asp?code=3200002585

裏蓋に刻印された大洗女子学園のマークや、Ⅳ号戦車の砲弾をイメージした長針&短針など、細部まで作りこんだ『ガルパン』限定生産ウオッチ

ガールズ&パンツァー ツールボックス 大洗女子学園/黒森峰女学園

●各1,500円(税抜)　●TCエンタテインメント(株)　●11月下旬発売予定



黒森峰女学園



大洗女子学園

ガールズ&パンツァー 劇場版 オリジナルサウンドトラック

●3,500円(税抜)　●ランティス　●11月18日発売予定

劇場用として録り下ろした楽曲を、公開に先駆けてすべて収録。大編成のホーン・セッション&ストリングスで、『ガルパン』の世界がよりきらびやかに生まれ変わります。また、既存のマーチ曲も収録。どの曲が作品に華をそえているか、聴いてみてのお楽しみ。劇場用にスケールアップした、超豪華サウンドをお楽しみください!

ガールズ&パンツァー 劇場版 主題歌

【歌】ChouCho
●1,300円(税抜)　●ランティス　●11月25日発売予定

TVシリーズに引き続き担当する、ChouChoの劇場版主題歌が登場

ガールズ&パンツァー タンソン ミニアルバム

【歌】影山ヒロノブ、遠藤正明、山形ユキオ、宮内タカユキ ほか
●2,200円(税抜)　●ランティス　●12月2日発売予定

なんと『ガルパン』に登場する5大戦車のテーマソングを、豪華なヒーロー&特撮ソングのレジェンドたちが熱唱。各戦車の史実に基づいた個性たっぷりな歌詞と、そこからイメージされるヒーロー&特撮ソング風な楽曲の数々は必聴です。「キャラクターソング」ならぬ、迫力ある「タンクソング」にご期待ください!



ガールズ&パンツァー ドラマCD4

●3,000円(税抜)　●ランティス　●発売中

「月刊戦車道」をドラマ化した意欲作。劇場版に向けた予習や復習ができる内容で盛りだくさんです。出演キャストも、豪華ラインナップでお贈りします!

ガールズ&パンツァー 劇場版 知波単学園 九五式軽戦車[ハ号]

●4,000円(税抜)　●ファインモールド　●11月上旬発売予定

劇場版の九五式軽戦車を、完全新金型で再現。組み立てやすさを重視した新設計で、初心者でも安心のモデルです

ガールズ&パンツァー 劇場版 知波単学園 九七式中戦車[新砲塔チハ]前期車台

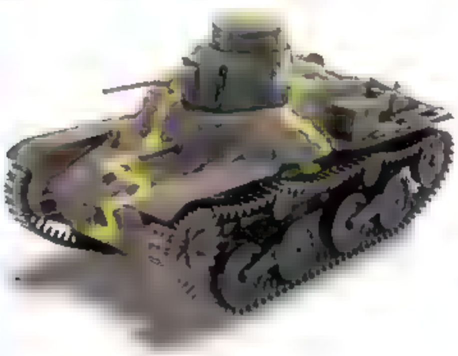
●4,300円(税抜)　●ファインモールド　●11月上旬発売予定

もうひとつの「チハ」である長砲身47mm砲を装備した劇中のモデルが、新設計のマフラーガード(エッチング製)で登場

ガールズ&パンツァー 劇場版 知波単学園 九七式中戦車[チハ]57mm砲・新車台

●4,300円(税抜)　●ファインモールド　●11月上旬発売予定

劇場版に登場する「チハ」をモデル化。マフラーメッシュ(エッチングパーツ)は、劇中の「チハ」に合わせて新規に作成







ガールズ&パンツァー 八九式中戦車甲型 エンディングVer.

●5,200円(税抜)　●ピットロード　●発売中



ガールズ&パンツァー Ⅳ号戦車D型改(F2型仕様)エンディングVer.

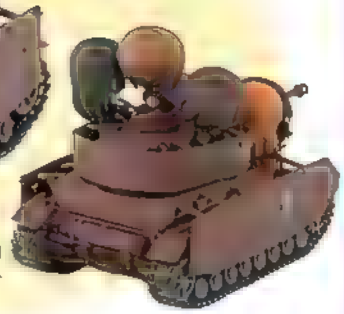
●5,600円(税抜)　●ピットロード　●発売中



ガールズ&パンツァー Ⅳ号戦車D型改(H型仕様)エンディングVer.

●5,600円(税抜)　●ピットロード
●12月発売予定





TVシリーズのEDで、かわいい姿を見せたⅣ号戦車改(H型仕様)を、塗装済みの完成品としてお届け。あんこうチーム5人のフィギュアも付属しています

ティーガーⅡ型戦車用 71口径88mm徹甲弾



●3,400円(税抜)　●ピットロード
●発売中

ティーガーⅠ型戦車用 56口径88mm徹甲弾



●3,000円(税抜)　●ピットロード
●発売中(市場在庫のみ)

Ⅳ号戦車D型改(H型仕様)用 43/48口径75mm徹甲弾



●2,700円(税抜)　●ピットロード
●発売中(市場在庫のみ)

Ⅳ号戦車D型用 24口径75mm徹甲弾



●2,300円(税抜)　●ピットロード
●発売中

八九式中戦車甲型用 57mm徹甲弾



●1,700円(税抜)　●ピットロード
●発売中

GIRLS UND PANZER EVENT REPORT

ガルパン・イベントレポート

この春、大勢のファンで会場が埋め尽くされた海楽フェスタや大洗「海の月間」イベントを始め、話題となったⅣ号戦車上陸作戦などをピックアップ。活気と熱気にあふれた各イベントの模様をお届けいたします。

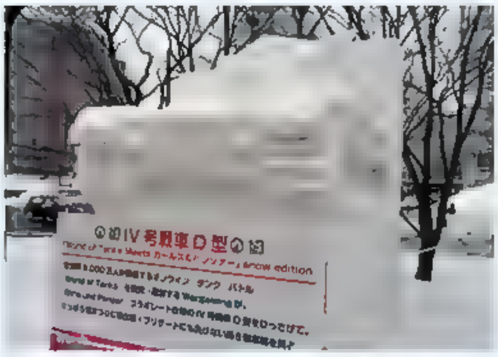
トランスシティ2015 別府

2015年1月9～12日、大分県別府市の別府国際コンベンションセンターにて、「トランスシティ2015 別府」が開催。11日にはステージイベントとして、西住みほ役 渕上舞さんのトークショーが行なわれた。福岡県出身の渕上さんにとって、九州凱旋となったステージでは、ご当地ネタを織り交ぜたトークを展開。大勢の観客を楽しませた。また同イベントでは、OVA「ガールズ&パンツァー これが本当のアンツィオ戦です！」を九州にて初上映。貴重な設定資料も展示され、イベントは大盛況のうちに幕を閉じた。



さっぽろ雪まつり スペシャルステージ

声優のプリドカットセーラ恵美さんと小松真奈さんが、「World of Tanks」（WoT）の魅力を紹介するインターネット番組「ぷりたん！」。その公開収録が2015年2月7日、さっぽろ雪まつり会場にて行なわれた。そのゲストとして招かれたのが、秋山優花里役の中上育実さんとバンダイビジュアルの杉山潔プロデューサー（杉山P）。中上さんが「雪の進軍」を歌いながら登壇すると、観客から大きな拍手が巻き起こった。また途中で、北海道の人気キャラクター・メロン熊も登場。中上さんにご当地メロンパンをプレゼントするサプライズもあった。



会場内には、Ⅳ号戦車D型の雪像も飾られた

大洗春祭り 海楽フェスタ2015







興奮の連続!!

今回も5万人（主催者発表）もの人出があった、大洗春祭り 海楽フェスタ2015」が、2015年3月15日に茨城県大洗町で開催。マリンタワー前広場のステージに、渕上舞さんや中上育実さん、五十鈴華役の尾崎真実さんが駆けつけた。

今にも小雨が振りそうな肌寒い気候のなか、中上さんによる「ヒャッホー、大洗最高だぜー」の掛け声で始まったトークでは、当時の最新情報が次々と発表された。特に観客から注目されたのは、やはり劇場版の情報。ここで初公開となったキービジュアルのキャッチコピー「取り戻せ——」を初めて知った声優陣は、さまざまな想像を巡らせた。また、大洗町の各所にて劇場版の予習PVを上映。知波単学園の新キャラクターやクルセイダー戦車の登場に、驚きの表情を見せていた。





壇上には、大洗町のイメージキャラクター・アライッペが登場。声優陣は、久々の再会となったアライッペとの交流を楽しんでいた

過去イベントカレンダー 2014年11月16日以降

2014年

11月29～30日 「かさま今昔映像祭」
「秋奈とABIのアニメ舞台めぐり番外編」ラジオ公開収録
【場所】茨城県笠間市・筑波海軍航空隊記念館
【出演】秋奈（大野あや役）・杉山潔（プロデューサー）

12月19～1月12日 「World of Tanks 第二次秋葉原上陸作戦です！」
キャラクターパネル展示、各種ノベルティー配布など
【場所】東京都秋葉原・対象店舗26店舗

2015年

1月11日 「トランスシティ2015 別府」
渕上舞&杉山Pによるトークショー
【場所】大分県別府市・別府国際コンベンションセンター
【出演】渕上舞（西住みほ役）・杉山P

1月30日 「ガールズ&パンツァーRADIO ウサギさんチーム、訓練中！」配信開始
ウサギさんチームによるトーク&劇場版情報のお知らせ
【出演】竹内仁美（澤梓役）・中里望（山郷あゆみ役）・多田このみ（阪口桂利奈役）・山岡ゆり（宇津木優季役）・秋奈（大野あや役）

2月7日 「さっぽろ雪まつり スペシャルステージ」
「ぷりたん！」のキャストと、中上育実&杉山Pのトークショー
【場所】北海道札幌市・さっぽろ雪まつり大通会場
【出演】ブッドカットセーラ恵美・小松真奈・中上育実（秋山優花里役）・杉山P・メロン熊

3月1日 「那珂湊ほのぼの作戦」開催
勝田～那珂湊～大洗～水戸の公共交通機関3路線を結んだ片道きっぷを発売
【場所】茨城県 勝田 那珂湊 大洗 水戸 ※現在、2016年3月31日まで「那珂湊ほのぼの作戦2」を実施中

3月15日 「大洗春祭り 大洗海楽フェスタ2015」
キャストによるガルパントークショー ほか
【場所】茨城県大洗町・大洗マリンタワー前広場
【出演】渕上舞（西住みほ役）・尾崎真実（五十鈴華役）・中上育実（秋山優花里役）

3月21日～22日 「アニメジャパン2015」
戦車型ティッシュケースを配布
【場所】東京都有明・東京ビッグサイト

3月21日 ガルパン喫茶「Panzer vor」開店
【場所】茨城県大洗町・大洗マリンタワー2F

4月25日～5月6日 「World of Tanks 大阪ぼちぼち作戦です！」
World of Tanks Meets ガールズ&パンツァーオリジナルシークレット缶バッチを配布
【場所】大阪府大阪市・なんば・日本橋周辺

4月29日 「ガールズ&パンツァーRADIO ウサギさんチーム、訓練中！」
CDミニミニセット発売 ※現在は発売終了

5月2日 「大洗ガルパンギャラリー」&「大洗町友好都市物産館」オープン
オープニングセレモニーにて小谷隆亮（大洗町・町長）よりあいさつ、杉山P・常盤良彦（まいわい市場&クックファン）のトーク
【場所】茨城県大洗町・大洗リゾートアウトレット内

5月5日 「とちてれ☆アニメフェスタ2015」
吉岡麻耶ほかによるスペシャルトークショー
【場所】栃木県宇都宮市・オリオンスクエア
【出演】吉岡麻耶（アンチョビ役）・杉山P・アライッペ・司会：廣岡
※ガールズ&パンツァー資料展&ミニショップが、宇都宮PARCO内にて4月25日～5月6日に開催

5月16日 「第54回 静岡ホビーショー」
桐村まりや中村桜ほかを迎えてのガルパントークショー
【場所】静岡県静岡市・ツインメッセ静岡
【出演】桐村まり（河西忍役）・中村桜（佐々木あけび役）・山田卓司（プロモデラー）鈴木邦宏（ファインモールド）・二神泰徳（プラッツ）・塚越由貴（ボークス造形村）・杉山P（司会）

6月6日 「劇場版前売鑑賞券&ムビチケカード第1弾発売」
描き下ろしイラストによる全13種のクリアファイル付き
※購入の際に1種類を選定

6月21日 「大洗ガルパンギャラリー World of Tanks 設置記念セレモニー&戦車トークショー」
宮永忠将と杉山Pの戦車トーク
【場所】茨城県大洗町・大洗リゾートアウトレット内
【出演】宮永忠将（ウォーゲーミングジャパン ミリタリーアドバイザー）・杉山P

6月28日 「D1グランプリRd.3 筑波サーキット」
トークショーのほか、ガルパンバスによるパレードランを実施
【場所】茨城県下妻市 筑波サーキット
【出演】渕上舞（西住みほ役）・谷口信輝（プロドライバー）・杉山P

夜空に咲くあんこう花火



事前に募集していた「花火大会一口カンパ」により、今回のあんこう花火は20発が用意された。また花火大会では、渕上さん・中上さん・尾崎さんが花火の紹介を担当。大会後にはステージに登壇し、最後まで残っていた観客の歓声を浴びていた

中村桜さんサイン会開催



まいわい市場2階の「モデルカステン」ブースでは、佐々木あけび役・中村桜さんがサイン会を実施。整理券をゲットしたファンが、長蛇の列を作った。また中村さんは、笑顔でファンとの交流を満喫。最後のひとりまで、ていねいに対応していた

とちてれ☆アニメフェスタ2015



2015年5月5日の「とちてれ☆アニメフェスタ2015」にて、アンチョビ&近藤妙子役・吉岡麻耶さんと杉山Pのトークショーが行なわれた。会場の栃木県宇都宮市・オリオンスクエアのステージに登壇した吉岡さんは、観客からの大きな「ドゥーチェ」コールに感激。10問の質問に答えるコーナーでは、「私生活でもノリと勢いを大事にしている」という質問に、イエスと答えていた。また劇場版への意気込みに対する質問では、杉山Pに「よろしくお願いします」と吉岡さんはアンチョビの登場を要望していた。

第54回 静岡ホビーショー

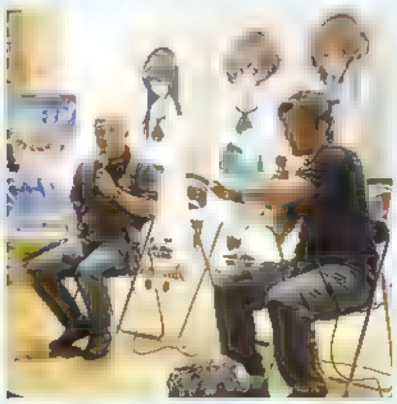
2015年5月14～17日、静岡県静岡市・ツインメッセ静岡で開催された「第54回 静岡ホビーショー」。その16日に、併設された「モデラーズminiフリマ」の会場にて、トークショーが行なわれた。出演者は、桐村まりさん（河西忍役）、中村桜さん（佐々木あけび役）、山田卓司さん（プロモデラー）、鈴木邦宏さん（ファインモールド）、二神泰徳さん（プラッツ）、塚越由貴さん（ボークス造形村）、杉山P。声優陣からは戦車模型の制作に関する話題が飛び出し、メーカー側からは模型の開発における苦労が話された。





「World of Tanks」設置記念戦車トークショー

2015年6月21日、茨城県大洗町の「大洗ガルパンギャラリー」に「WoT」の試遊台が設置された。その記念トークショーでは、ウォーゲーミングジャパンのミリタリーアドバイザー・宮永忠将さんと杉山Pが登壇。1時間にわたる熱い戦車トークが行なわれた。そのなかで2人は、劇場版特報に登場したクルセイダーやチハの開発経緯や、実際の運用方法をくわしく解説。興味深い話に、観客は熱心に耳を傾けていた。



D1グランプリRd.3 筑波サーキット

大迫力のドリフト

うなりを上げてコースを駆けるガルパンカー



村山悌啓(ともひろ)選手が運転するガルパンカー試乗に、初めは緊張していた渕上さん。人生初のドリフトを体験したあとは、意外にも笑顔を見せた









レースの合間にはガルパンカーを先頭に、ガルパンバスによるコースでのパレードランが実現した



前日の予選で、総合3位を獲得したガルパンカーは本選でも激走。息詰まるサドンデスの末にベスト8へ進出し、最終的には総合5位を獲得した

2015年6月28日、茨城県・筑波サーキットで開催されたドリフトレース「D1　GRANDPRIX」では、『ガルパン』とタイアップする「パシフィックレーシングチーム」を応援する企画が数多く実施。渕上舞さんによるトークショーや、ガルパンカーへの試乗などが行なわれた。特にガルパンカーの試乗では、ドリフトによる大きなGとうなるエンジン音に驚いた模様。それでも無事に帰還した渕上さんは「もう一周したかった」とコメントした。またレース中、渕上さんはスタンドで、ファンと一緒になってガルパンカーを応援。その熱い声援もあってか、ガルパンカーはベスト8にまで進出した。ベスト4を賭けたレースでは惜しくも敗退したが、渕上さんを始め観戦したファンは、その健闘を称えていた。

大洗「海の月間」イベント 艦艇公開in大洗

ステージから目が離せない

笑いにあふれた公開録音は大成功







夏らしく艶やかな浴衣姿を披露した、ウサギさんチーム(右)と、バレー部チーム(左)。着こなしやポーズに、両チームの個性が現れているようだ



告知コーナーではチーフプロデューサー湯川淳(写真中央)が、甚平とうちわをひとまとめにした「海開きセット」を紹介した

茨城県大洗町にて2015年7月11～12日に開催されたイベントでは、初日の11日に『ガルパン』が参加。午前にはバレー部チームの吉岡麻耶さん、中村桜さん、桐村まりさんが護衛艦「ちくま」の一日艦長に就任。午後から、ネットラジオ「ウサギさんチーム、訓練中!」の公開録音が行なわれた。そこでは、ウサギさんチームの5人(竹内仁美さん、中里望さん、多田このみさん、山岡ゆりさん、秋奈さん)と、ゲストのバレー部3人が浴衣姿で登壇。各対決コーナーでは、名勝負を繰り広げた。そして最後に、この公開録音のほか、新規録り下ろしを収録されたCDの発売を発表。9月30日に「ガールズ&パンツァーRADIO ウサギさんチームも、訓練中! Vol.1」のタイトルで発売された。

7月11日　「大洗「海の月間」イベント 艦艇公開in大洗」
「うさぎさんチーム、訓練中!」の公開録音ほか
【場所】茨城県大洗町・大洗港第4埠頭
【出演】竹内仁美(澤梓役)・中里望(山郷あゆみ役)・多田このみ(阪口桂利奈役)・山岡ゆり(宇津木優季役)・秋奈(大野あや役)
【ゲスト】吉岡麻耶(近藤妙子/アンチョビ役)・桐村まり(河西忍役)・中村桜(佐々木あけび役)

7月24日　「ガールズ＆パンツァー Blu-ray 特装限定版 第1巻〜第6巻 」発売

7月26日　「ワンダーフェスティバル2015夏」
"これが俺たちの模型戦車道!!"
【場所】千葉県千葉市・幕張メッセ
【出演】山田卓司(プロモデラー)・おっちょ(デジタル原型師、スタジオGS)・POOH熊谷(プロモデラー)・二神泰徳(プラッツ)・斎藤新(プラッツ)・杉山P

7月31日　「DSP版 Windows10発売記念 前夜祭」
World of TanksをWindows10でプレイしよう! ほか
【場所】東京都・秋葉原電気街周辺
【出演】川島康弘(ウォーゲーミングジャパン代表取締役社長)・高橋敏也(テクニカルライター)・杉山P

8月8日　劇場版前売鑑賞券＆ムビチケカード第2弾発売
大洗女子の戦車道メンバーを描いたB4サイズの5枚綴り

8月29日　「Ⅳ号戦車 日本上陸作戦です!」
実物大Ⅳ号戦車プロップ展示ほか、トーク＆ライブを開催
【場所】東京都秋葉原・ベルサール秋葉原
「戦車入門講座 スペシャルトーク＆ライブ」
【出演】宮永忠将(ウォーゲーミングジャパン ミリタリーアドバイザー)・佐咲紗花(あんこう音頭アーティスト)・杉山P
「戦車を愛した男たち 座談会」
【出演】スコット・ハーズ(ホビーリンク・ジャパン)・小林雅彦(株式会社カマド)・杉山P

8月30日　「茨城空港ガルパン応援計画2015」
中里望＆杉山Pによるガルパントークショー
【場所】茨城県小美玉市・茨城空港
【出演】中里望(山郷あゆみ役)・常盤良彦・杉山P

9月1日　「音楽から見るガールズ＆パンツァー」
音楽の視点から見た、ガルパントーク
【場所】茨城県大洗町・大洗ホテル
【出演】関根陽一(ランティス)・杉山P

9月17〜20日　「東京ゲームショウ2015」
ウォーゲーミングブースにて、各種トークステージを開催
【場所】千葉県千葉市・幕張メッセ
【出演】渕上舞(西住みほ役)・植田佳奈(河嶋桃役)・中村桜(佐々木あけび役)・吉岡麻耶(アンチョビ、近藤妙子役)・金元寿子(カチューシャ役)・南健(蒼き鋼のアルペジオ−アルス・ノヴァ−プロデューサー)・宮永忠将(ウォーゲーミングジャパン ミリタリーアドバイザー)・杉山P

9月26日　「全日本模型ホビーショー」
ガルパントークショー
【場所】東京都有明・東京ビッグサイト
【出演】中村桜(佐々木あけび役)・山田卓司(プロモデラー)・杉山P・二神泰徳(プラッツ/司会)

9月27日　「アニ×サカ!! 第5戦 水戸ホーリーホック×FC岐阜」
ガルパン出演キャストによるトークショー ほか
【場所】茨城県水戸市・ケーズデンキスタジアム水戸
【出演】渕上舞(西住みほ役)・尾崎真実(五十鈴華役)・司会 廣岡

9月30日　ラジオCD「ガールズ＆パンツァーRADIO　ウサギさんチーム、訓練中!」Vol.1 発売

10月4日　「サスガ☆カミスガ4周年大祭」
阪口桂利奈ちゃんのおかえり大作戦を決行
【場所】JR水郡線上菅谷駅前
【出演】多田このみ(阪口桂利奈役)

10月10日　劇場版前売鑑賞券＆ムビチケカード第3弾発売
吉田玲子書き下ろし小説付き(表紙・島田フミカネ 挿絵・杉本 功)

10月18日　「アニ×サカ!! 最終戦 水戸ホーリーホック×東京ヴェルディ」
「ウサギさんチーム、訓練中!」公開録音 ほか
【場所】茨城県水戸市・ケーズデンキスタジアム水戸
【出演】竹内仁美(澤梓役)・中里望(山郷あゆみ役)

10月23日　「ガールズ＆パンツァー 劇場版公開記念!
TVシリーズ+OVA一挙上映イベント」
新宿バルト9では、渕上舞さんと岩浪美和さんのトークショーを開催
【場所】東京・新宿バルト9　ほか
【出演】渕上舞(西住みほ役)、岩浪美和(音響監督)

11月3日　「ガールズ＆パンツァー　オーケストラ・コンサート
〜Herbst Musikfest 2015〜」
東京フィルハーモニー交響楽団による演奏会
【場所】神奈川県横須賀市・よこすか芸術劇場
【指揮】栗田博文
【管弦楽】東京フィルハーモニー交響楽団
【出演】渕上舞(西住みほ役)・ChouCho(OP主題歌アーティスト)

DSP版 Windows10 発売記念 前夜祭



2015年7月31日、秋葉原でのWindows10・DSP版の発売前夜祭で、ウォーゲーミングジャパン社長・川島康弘さんと杉山P、テクニカルライター・高橋敏也さんのトークショーが行なわれた。トークでは、川島社長が『ガルパン』への愛に満ちた思いを語った。さらに高橋さんはマイクロソフト社、DMM makeと共同で開発中の10式戦車型PCを披露。劇場版公開の11月21日には、発売したいと抱負を述べた。

Ⅳ号戦車 日本上陸作戦です!

大きさにびっくり!





この日は、サプライズとして『ガルパン』のパチスロ化を発表。今年秋には、導入予定とのことである



劇場版公開を記念した「Ⅳ号戦車日本上陸作戦です!」が、2015年8月29日、東京・秋葉原のベルサール秋葉原で開催。実物大のⅣ号戦車H型プロップが披露された。巨大な戦車の出現に、集まったファンだけでなく道行く人々からも注目を浴びていた。さらに特設ステージでは「戦車入門講座スペシャルトーク&ライブ」と、「戦車を愛した男たち座談会」と題したイベントを実施。「戦車入門講座」では、宮永忠将さんと杉山PがⅣ号戦車の歴史や、改良を重ねた経緯を解説。「戦車を愛した男たち」では、Ⅳ号戦車H型プロップの日本上陸に関わった、ホビーリンク・ジャパンのスコット・ハーズさんと株式会社カマドの小林雅彦社長が、杉山Pを交えてプロジェクトのプロセスや、輸送にまつわる苦労を語った。





ライブパートでは「あんこう音頭」を歌う佐咲紗花さんが、なんとあんこうスーツ姿で登場。観客の大歓声を浴びながら、「あんこう音頭 大洗盆踊りver.」をバックダンサーの踊りつきで歌った

茨城空港 ガルパン応援計画2015

2015年8月31日、「ガルパン応援計画2015」の一環として茨城県小美玉市の茨城空港で、山郷あゆみ役の中里望さんを招いたトークショーが開かれた。ステージでの中里さんは、脇に司会の常盤良彦さんや杉山Pが控えているとはいえ、初の単独トークでやや緊張した面持ち。しかも常盤さんが、昨年12月6日より中里さんが担当した、空港内アナウンス(日本語＆英語)を再現してとムチャぶりをしたが、中里さんは日本語と英語のアナウンスを見事に再現。観客から大きな拍手を受けていた。





「ガルパン応援計画2015」の期間中、空港内ではスタンプラリーを実施。また、あるキーワードを空港内のスカイレディに伝えると、特製の名刺がもらえた

『ガルパン』を盛り上げたキーパーソンに聞く

戦車人の肖像

写真左より、川島康弘さん、宮永忠将さん



川島康弘・宮永忠将

かわしま やすひろ●ウォーゲーミングジャパン代表取締役社長
みやなが ただまさ●ウォーゲーミングジャパン ミリタリーアドバイザー

1963年4月19日生まれ、長野県出身。ファミコン時代からのゲーム業界人。ミリタリーにも精通し「戦闘国家」シリーズの立案者。オンラインゲームビジネス経験も豊富。「ウォーゲーミングジャパン」代表取締役

1973年12月13日生まれ、群馬県出身。シミュレーション専門誌の編集を経て、おもにミリタリーやファンタジーを中心にフリーの立場で活躍。現在は「ウォーゲーミングジャパン」で、ミリタリーアドバイザーを務める

砲弾を装填するときは手を握ってグーの形！

――『ガルパン』とコラボをすることになった経緯を教えてください。

川島　これは、必然であったと思います。『World of Tanks(以下WoT)』の日本語版が、「ウォーゲーミングジャパン」から正式にリリースされたのが、2013年の9月。ユーザーさんから『ガルパン』とコラボするべき、という意見が数多く寄せられました。以前から英語版でプレイされている方々からも同様の要望があり、『ガルパン』ファンの皆さまからも『WoT』とコラボを求められました。ゲームとアニメファンの双方からのリクエストがあって、「これはもうやるしかない」ということで、コラボが実現しました。

宮永　私が入社したのが2013年の8月。当時『ガルパン』はもちろん知っていましたが、『WoT』とのコラボ交渉が始まっていたことは、社内でも極秘事項だったので知りませんでした。また自分自身ゲーム業界が初めてだったので、業界の「いろは」も知らずに眺めていました。ですがのちに水面下で動いていることが分かり、かなり大きなコラボになることを期待していました。

――『ガルパン』の第一印象は？

川島　実は最初に公式HPを拝見したとき、あまり大きな期待をかけていなかったんです(笑)。理由は戦車をメインで扱ったアニメはあまりなかったので、スタッフの方々が戦車を愛しているのか、よくご存じなのか、戦車を愛しているのかが、よく分からなかったからです。ただ「美少女と戦車」というコンセプトには、魅力を感じていましたが、第1話を観るまでは分からないと身構えていました。

しかし第1話を拝見して「これはすごい」と。戦車は細部まで描き込まれていますし、砲弾の装填もちゃんと拳を握って砲尾に押し込んでいる。拳を握らないと薬室の尾栓を閉めるとき、指を挟んでしまうことがあるんです。それらを全部、詳細に描いている。冒頭でⅣ号戦車の各ハッチから、あんこうチームの5人が顔を出したシーンでは、「ここまでアニメでやるんだ」と感極まって泣いてしまいました。

宮永　私はとてもマニアックな観点から観ていたので、第1話の印象は「なんじゃこりゃ」でした。それは、大洗女子が使用する戦車のカラーリングもハデだし、戦車戦を想定していない八九式中戦車がほかの戦車と戦っていたりしていたからでした。でも戦車のラインナップが非常にケレン味溢れるものだったので、これは相当な戦車マニアがスタッフさんにいるなと、想像していました。

また日本でのミリタリー物は航空関係が多くて、戦車の割合は低いんです。だから戦車を題材にして、どのようにおもしろく物語を描いていくのかが、気になっていました。というのも戦車は多くて5〜6人、少なくて3人くらいの人数で動かす車輌です。同じ車輌の戦車兵は、家族みたいな関係になっていくものなので、チームワーク上での個性も出てくるんです。そして個々の戦車が、各高校の特徴や思想を受けて競技をしていく。これは非常におもしろい視点だと感じました。物語と兵器の特徴、必修選択科目である「戦車道」という組み合わせが非常にうまく、次第に魅了されました。

さらに興味深かったのは、ヒロイン全員の成長物語だったことです。また、みほたちが搭乗するⅣ号戦車が、物語が進むにつれて強化・成長したので、出世魚みたいだなと感じました。振り返ってみると、あのチーム分けにもひとつひとつ意味があって、すごかったですね。徹頭徹尾マニアックな見方ができる作品でしたので、今ではいい意味で「なんじゃこりゃ」になりました(笑)。

海外スタッフも行ってみたい「あんこう祭」

――『ガルパン』と、コラボしたあとの反響はいかがでしたか？

川島　ヒロインの音声MODを始め、さまざまなコラボレーションを発表してきましたが、YouTube の紹介動画の再生数が良かったり、東京ゲームショウでの反響やユーザーさんのお問い合わせも含めて、各方面からの反応がすべて良かったんです。皆さんに好印象を持っていただいていて本当に良かったと思います。

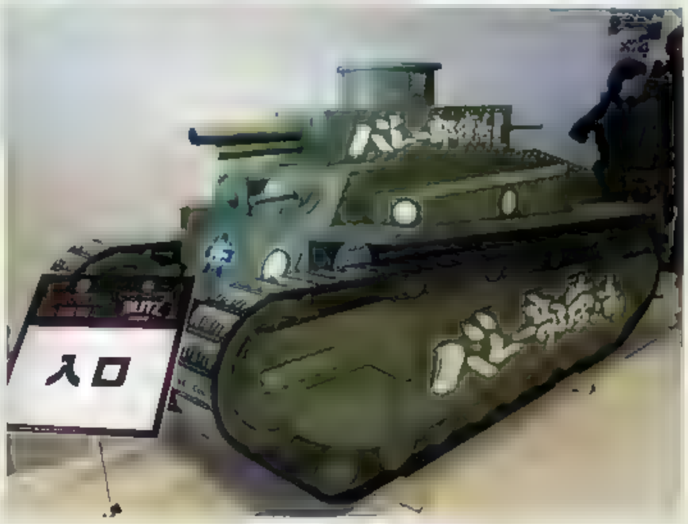
宮永　私の場合、海外のスタッフとやりとりすることが多いのですが、全世界で展開している『WoT』に日本独自のコンテンツを盛り込むことがどう受け止められるのか、非常に気になっていました。海外では、いわゆるマテリアルとして戦車を扱わず、ストーリーで見せることができる日本アニメのおもしろさに、感銘を受けたという話も聞きました。

――少女がメカに乗って物語を紡いでいくのは、日本アニメが持つ独特の論法だったりしますね。

**全世界で展開する、オンライン戦車ゲーム『World of Tanks』。
そこに『ガルパン』を参戦させた「ウォーゲーミングジャパン」の仕掛け人を直撃!
また海外での『ガルパン』事情を、北米スタッフにお聞きしました。**







2013年のあんこう祭より『WoT』の試遊コーナーを設置した「ウォーゲーミングジャパン」は、2014年の大洗町商工感謝祭で1/2八九式中戦車のモックアップを寄贈した

IV号からあんこうチームが顔を出す場面で、ここまでやるんだと感激しました(川島)

宮永 海外ですとメカに搭乗する主人公は、女性ではなく男性というシチュエーションが多いんです。実際に海外では、日本のアニメでなぜ女性が主人公なのに人気が出るのか、不思議がられることがあります。ただ逆に、そこが斬新だと捉えられると、海外での評価も高くなります。また最近、海外では女性兵の数が増えています。いい意味で、女性を尊重しているんですね。なので『ガルパン』のような設定が、おかしいという考えはありません。これまで発想として、あってもおかしくないのに、海外では作られてこなかった内容の作品だと思います。また海外ではリアルな作品を求めるので、若い女の子が戦車に乗るという発想が出てこなかった事情もありますね。

川島 もちろん『ガルパン』が『WoT』にいろいろな影響を与えたのは確かですし、私自身はウォーゲーミングという会社も、大きなインパクトを受けたと感じています。『ガルパン』以前は、弊社にアニメとコラボしてゲームを広めるという発想はありませんでした。でも女子高生と戦車という組み合わせが、弊社のスタッフにとっても新鮮だったらしく、新たな挑戦ができたと感じています。

そして結果論ではありますが、タイミングも良かった。大変幸運だったと思います。今では、海外のスタッフから個人的に販促物を送ってくれというリクエストが来るほどです。

――世界中の「ウォーゲーミング」関係者が、いつの間にか『ガルパン』のファンになっていたということですか?

川島 北米にある「ウォーゲーミングアメリカ」のミリタリーアドバイザーが、大洗町で開催された「あんこう祭」の映像を見て「オレは絶対、ココに行くぜ!」と言っていました(笑)。またロシアでも、日本のアニメが好きというムーブメントが密かに広がっている最中でもあったので、『ガルパン』が受け入れられる土壌があったことも良かったのかもしれません。とは言っても日本と違って、海外ではまだまだ日本のアニメは市民権を得ていない状況にあります。それでも、日本のアニメが持つ力をビジネス面から説明する際に、今回のコラボは良き先例となっています。

私の主観ではありますが、『WoT』ファンや『ガルパン』ファンの方々、双方に喜んでいただきたい、ということにこだわって、いろいろと考え抜いたことが、一番良かったのかなと思っています。

宮永 さらに『ガルパン』のおかげで、戦車戦以外に視野の広がった質問を受ける機会が増えました。たとえば「女の子の一挙手一投足には、どのような意味が込められているのでしょうか?」とか「アニメではデフォルメされていますが、あの戦車は本当に、あのような使い方をするのでしょうか?」など。このような深い質問をいただくことで『ガルパン』の視聴者が戦車に対してどのような興味を持っているかが分かってきました。私の仕事は単なるアドバイザーとしてスタッフに助言するだけではなく、ファンの皆さまにゲームに込めた想いを伝えていくことも大切だと考えています。「弊社のゲームでは、その点はこのように再現されております」と、ユーザーさんにしっかりと説明していく。『WoT』の世界観を守りながらも、『ガルパン』の世界を再現する素晴らしさと、プレイヤーがゲームやアニメの背景までも楽しめるようにと考えています。

川島 『ガルパン』ファンの方々は、『WoT』でアニメの世界を再現して楽しめる。また『WoT』ファンが、違和感を感じさせないように『ガルパン』をゲームのなかに溶け込ませる。現在は両方のファンそれぞれで、楽しんでいただいていると思います。

――「あんこう祭」では、ゲームの試遊コーナーを設置したり、2014年には八九式中戦車の1/2モックアップを大洗町に提供していました。大洗町との関係が深まった契機はどんなものでしたか?

川島 初めて大洗町に行かせていただいたのが、2013年の「あんこう祭」です。そのとき、町の方々や『ガ

ガルパンを盛り上げたキーパーソンに聞く

戦車人の肖像

大洗町は全体で、さまざまにお客さんをもてなしているところがすごいです(宮永)

ルパン』ファン、そして戦車ファンの皆さんが、ともに楽しんでいることが、すごいと感じました。こんな町は、世界中を探してもどこにもないですね。こういう祭もできるんだと、改めてアニメの力はすごい、と思いました。

宮永　私はこれまで、大洗町には5回ほど訪問させていただきました。最初の頃はアニメ特需ということでお客さんが増えたと思いますが、今はだんだん、大洗町自体の魅力でリピーターが来るという方向にうまくシフトしていると感じます。町全体で、さまざまにお客さんをもてなしているところがすごいですよね。それに「あんこう祭」のときには、『ガルパン』の痛車を見た地元の方が「それ○○の車だよね」と言いながら歩いているのを見て、ここまで『ガルパン』が浸透しているのかと驚きました。外から来るお客さんが楽しんでいるだけではなく、大洗町の方々も、一緒に『ガルパン』を楽しんでいる。本当に観光地として、ふところの深さを感じます。これも『ガルパン』が、それだけ魅力的で、多くの人々を楽しませる作品だからだと思いました。

日本初の描写がある？劇場版に大期待です！

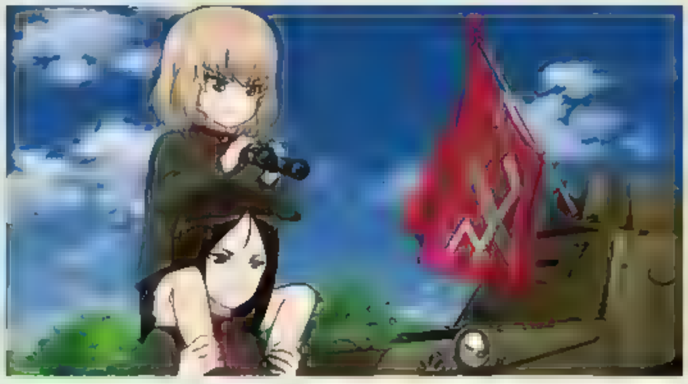
──劇場版への期待は？

川島　スタッフの皆さんには全幅の信頼を置いていますので、すばらしい物語を観せてくれると確信していますし、純粋に一ファンとして期待しています。自分の好きな戦車の活躍よりも、国や地域の特長を活かした戦車同士の、迫力ある対戦が観られたらうれしいですね。

宮永　実は小さい頃、『ウルトラマン』の劇場版を観ていまして、作品内でウルトラ兄弟全員が登場して強大な敵をやっつけるという、派手なストーリーが好きだったんです。これまで『ガルパン』は高校単位での戦いでしたが、そういう展開になったら楽しそうだと思います。その一方で、意外なキャラクターの意外な活躍というのが印象に残ることがありました。そこを押さえつつ、強敵に、致団結みたいな話だと、おもしろいかなと期待しています。

──好きなヒロインは？

川島　あまりひとりのヒロインを推すことはしたくないんですが、カチューシャとノンナのペアがいいですね(笑)。ほかの高校ではひとりの隊長がチームを引っぱっているイメージが強いのですが、プラウダ高校だけは小さなカチューシャと大きいノンナが組み合わさって、初めて有能な指揮官として機能していると感じるからです。ソビエトの雰囲気も良く出ていて、おもしろいですしね。



宮永　戦車が日本のミリタリー作品でメジャーではないなか、ヒロインたちがさまざまな思いを持ちながら戦車に搭乗する姿だけでも、すばらしいと思うんです。そんななかで、あえて好きなヒロイン……というよりチームは、性能があまり高くない戦車で、強豪校として活躍する聖グロリアーナ女学院ですね。劇場版で、その強さの秘密が暴かれるとうれしいですね。どんな隠し球を持っているのだろう、と想像するのが楽しいんです。

──劇場版へ向けてのコラボは？

川島　新しい戦車スキンを公開したり、さらなるクオリティーアップで、『ガルパン』の世界をパワーアップしていきます。単なるプロモーションではなく、一緒に作っているという感じですね。そういう意味ではコラボとして、すごく深化しています。

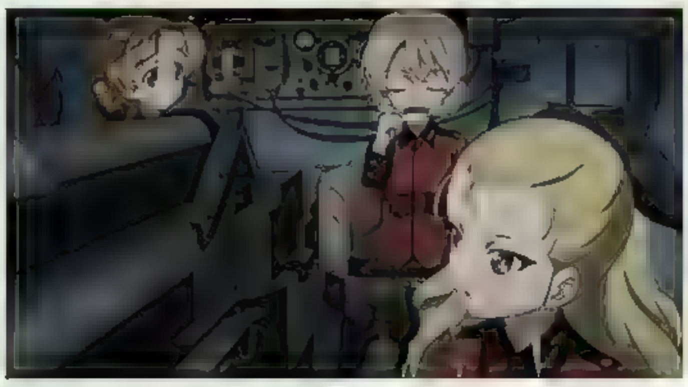


宮永　バンダイビジュアルの杉山潔プロデューサーに提供させていただいた劇場版用の資料には、日本のミリタリー業界の人が目にしたことのない資料が入っている可能性が高いんです。こだわりが積み重なってできた劇場版ですので、不意に映る戦車の一描写が、日本初の映像になっている可能性もあります。戦車にも気を配って観ると、作品の深化を感じていただけると思います。

──ファンの方々へメッセージを。

宮永　劇場版を、どうぞ楽しんでください。そして『WoT』もよろしくお願いします。

川島　これからも皆さんに楽しんでいけるよう、より努力していきます。私たちも楽しんでやっていますので、皆さんにも楽しんでもらえるよう、いろいろと展開していけたらいいと思っています。





ニコラス・モーラン

ウォーゲーミングアメリカ ミリタリーアドバイザー

幼い頃よりミリタリーに興味があり、1997年にはアイルランド軍騎兵部隊予備役に入隊。2000年にはアメリカ軍に参加する。過去に戦車小隊長としてイラク、騎兵中隊の指揮官としてアフガニスタンに配備された経験を持つ

正確なM3の操作に思わずびっくり！

―海外で『ガルパン』は、どのように受け止められていますか？

正直なところ、普段は戦車好きのコミュニティー以外の方々と接していないため、どのくらいの反響かは分かりません。しかし『WoT』のプレイヤーにはとても浸透しており、ゲーム内の名前をキャラクター名にする方をたくさん見かけます。さらに公式フォーラムでは、『ガルパン』専用のスレッドまであります。

―もともと海外には「美少女が戦車で戦う」という発想は、あったのでしょうか？

女性と戦車でいうと、過去に『タンク・ガール』という、イギリスのSFコミック作品がありました。ただ『ガルパン』とはまったく、似て非なるものです。それ以外では、聞いたことがありません。

―『ガルパン』を観たことがありますか？

もちろんです。TV版やOVA版も含めて、すべて拝見しました。なかでも物語序盤で描かれたM3中戦車のシーンで、操縦手がトランスミッションの操作を正確に行っていたことに、とても驚きました。ここまで細かいところまで戦車にこだわっている制作陣が手がける作品なら、観るしかない！と思いました。

また一番好きなエピソードは、OVA版です。なぜなら、イタリア戦車が登場したからです。イタリアは第二次世界大戦時、戦車には恵まれませんでしたが、歴史上で重要な逸話を残しているからです。もちろん、作品自体もすばらしく、観ていて楽しい試合でした。

より戦術的な戦車戦に期待する劇場版

―日本では2013年の東京ゲームショウで、『WoT』と『ガルパン』とのコラボが発表されました。以後、どんな反響がありましたか？

「ウォーゲーミング」では現在、『ガルパン』の公式MODを公開しています。また、ユーザーさんのなかには、MODを自作される方や、ゲーム内のクラン名に『ガルパン』にちなんだもの付ける方を見かけるようになりました。やはり、反響は大きいかと思います。

劇場版では、新戦車やより戦術的な要素が組み込まれた戦いを観たいです（モーラン）

―劇場版では、どんな物語を期待していますか？

正直なところ、どんな物語になるのか、見当もつきません。ただ多くの新戦車や、より戦術的な要素が組み込まれた戦車戦を観たいです。また個人的には、センチュリオンに登場して欲しいです。私はセンチュリオンが、第二次世界大戦中に開発された戦車のなかで、最高傑作だと信じています。また76ミリ砲を搭載したシャーマンももっと登場して欲しいです。この戦車も、大戦中に量産されたなかで最高の車輌だと思います。TV版のサンダース大附属戦では、ナオミを76ミリ砲のシャーマンに搭乗させていたら、サンダース大附属が勝てたかもしれませんね。

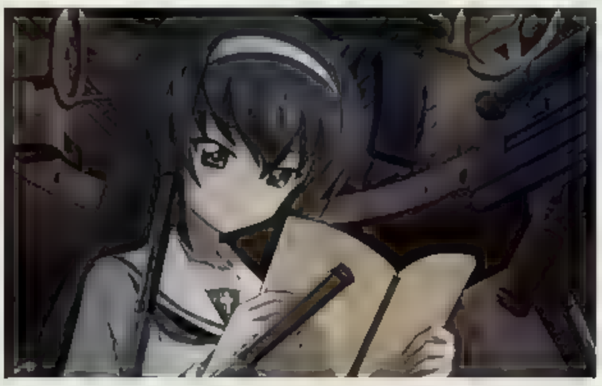
頭を使って活躍する麻子が好印象

―好きなヒロインは、誰ですか？

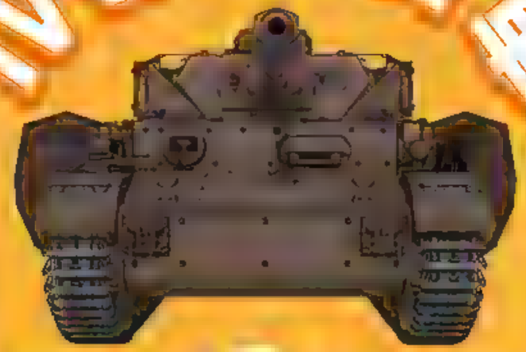
冷泉麻子が好きですね。軍では、「体力を使う前に、頭を使え」と教育しています。だから麻子の「頭を使う」キャラクター性にとても好感を持っています。さらに、サンダース大附属のナオミの活躍をもっと観たいですね。口数は少ないが、仕事をしっかりこなすところが私と似ていて、親近感を覚えています。

―最後に日本の『WoT』と『ガルパン』のファンに、メッセージをお願いします。

今回、各種コラボなどで『ガルパン』と関わることができて、非常に光栄です。これを機会に、日本の『ガルパン』ファンの皆さまに、『WoT』をもっと知っていただくチャンスを作っていきたいです。また、劇場版と『WoT』の両方を楽しんでいただけたらうれしいですね。私は、今後ともサンダース大附属を応援したいのですが、問題ないですよね？

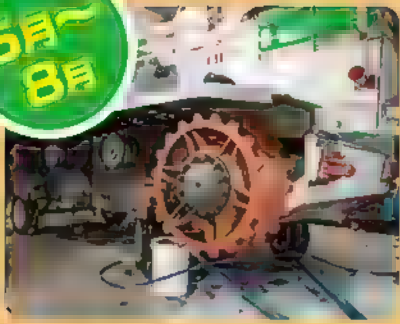


IV号戦車 輸送大作戦



単なる夢を、夢で終わらせなかったIV号戦車H型のプロップ展示。それは戦車が好きな大人たちが、仕事の枠を超えて協力した結果である。ここでは、展示までの舞台裏をご紹介しよう。

5月〜8月







プロップ製作中

今回、製作されたIV号の主要部分はFRP製である。もともとはIV号D型を製作する予定だったが、期間短縮のため以前手がけたIV号G型の型を流用。また移動を考慮して、車体下部に収納可能なタイヤが、Wetaのアイデアで取り付けられた。

8/21

御殿場に到着

Wetaのあるニュージーランドで完成したIV号は、コンテナ5つに分けて空輸。8月21日には、御殿場にあるカマドの工場へと運ばれた。そしてWetaは、3人の技術者を御殿場に派遣。来日した24日から、約2日半かけてIV号を組み上げた。





8/27



15:00〜17:00 輸送準備

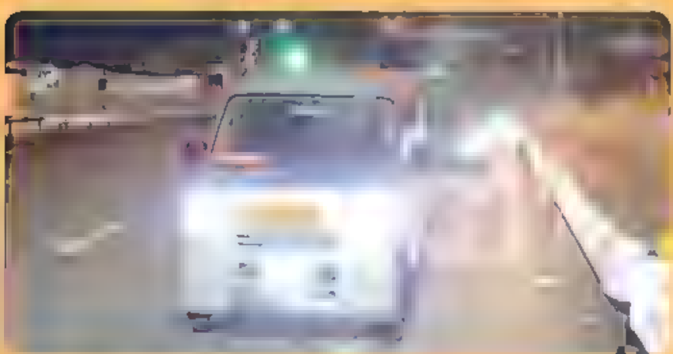
一度完成したIV号はカマドの小林雅彦社長が陣頭指揮を取るなか、砲身や転輪の一部を取り外して輸送しやすい形状にしてから、ウインチでトレーラーへと積載された。また、IV号の空輸手配や通関手続き、国内の輸送に必要な警察や陸運局への各種申請は、すべて小林社長が行った。





20:00 秋葉原へ輸送開始

輸送はトレーラーの前後に先導車をつけて、夜を待ってからスタート。これは危険を避けるため、法律で移動時間や方法が定められているからだ。また高速道路も使えないため、カマドのある御殿場から国道を通って秋葉原を目指した。





原寸のIV号戦車H型プロップ(IV号)を製作した「Weta Workshop Limited」(Weta)、そのWetaとのパイプ役を務めた「ホビーリンク・ジャパン」のスコット・ハーズさん、各種手続きや国内の輸送を担当した「株式会社カマド」の小林雅彦さん。これらの関係者がいなければ、秋葉原にIV号が展示されることはなかっただろう。実際に展示プロジェクトが本格的に動き出したのは、2015年5月下旬。本来IV号の製作には走行装置付きで5〜6ヶ月かかると、Wetaは見積もっていた。だが関係各位の熱意が、不可能を可能にした。その模様を、プロジェクトを推進した杉山潔プロデューサーが語る。

「Wetaは、走行装置をオミットするなど、いろいろな工夫で期間短縮に親身に対応してくれた。またWetaと懇意にしているスコットさんのおかげで、意思疎通も完璧だった。さらに輸入や輸送の手続きも、小林さんの尽力でスムーズにできた。戦車にかける、大人たちの本気を感じましたね」

人との縁と情熱で、展示にこぎつけたIV号。最後に今後の夢を、杉山Pにお聞きした。

「やはり動力を搭載して、大洗のサンビーチで走らせたいですね」

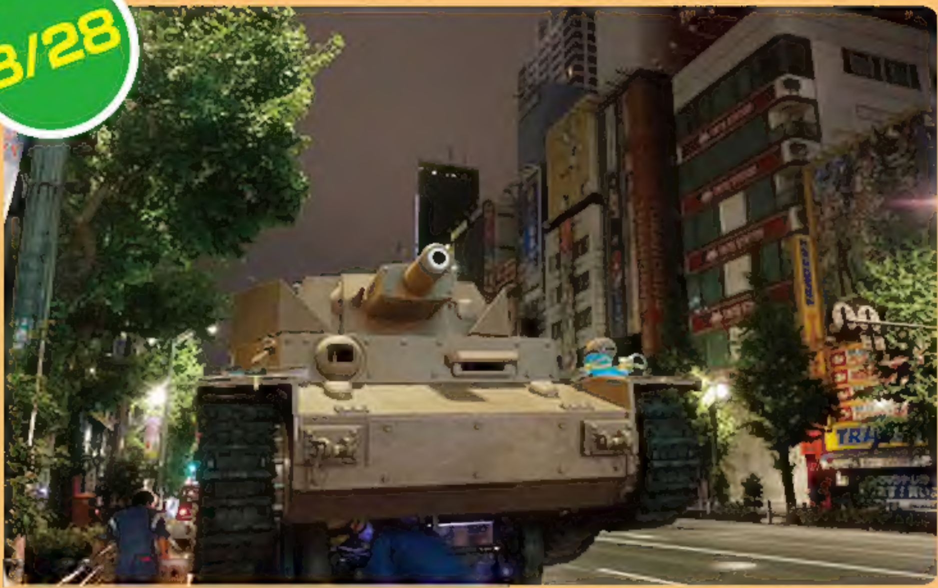


秋葉原のイベントに登壇したスコットさん(右)、小林さん(中央)、杉山P(左)。トークでは、IV号展示までの経緯やその苦労を語り合った

8/28

4:00 秋葉原に到着

途中で休憩を挟んだため、実質的な移動時間は4時間半でⅣ号は秋葉原に到着。ビニールシートを外して異常がないかを確認したのち、ウインチを使って慎重にトレーラーから降ろされ、会場設置に向けた準備に入る。





4:30〜6:00 会場へ搬入

重量約3トンもあるⅣ号だが、車体下部に設置されたタイヤにより、平地では男性3〜4人で移動が可能。それでもわずかな段差を気にしつつ、時間をかけて会場まで移動させた。ただし横断歩道を渡るⅣ号の姿は貴重な光景だが、かなりユニークでもあった。

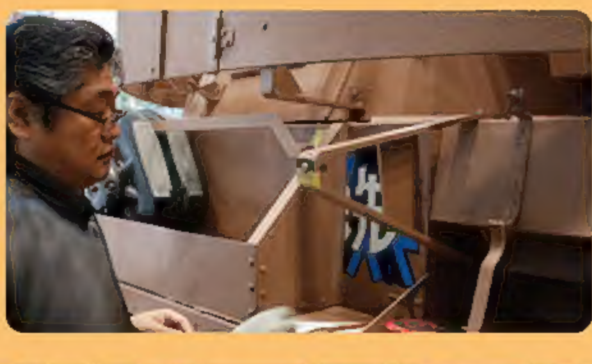












6:00〜7:30 最後の仕上げ

設置作業も、いよいよ佳境。早朝から待機していたガルパンバスなどのラッピング作業を手がける「フィールデザイン」さんのスタッフが、ていねいにマーキングを貼りこんでいく。また車体の細かいディテールを見せるため、シュルツェンの一部が外された。

7:45 設置完了！

ついに、会場への設置が完了したⅣ号。この後イベント開始までシートで覆われたが、近代的な秋葉原に突然現れたⅣ号に、道行く人々は驚きの表情を隠せなかったようだ。





次号予告

エキシビションマッチ特集
茨城 大洗女子 大ピンチ!?

次号では、聖グロリアーナ女学院とプラウダ高校の合同チームに挑む、大洗女子学園＆知波単学園の活躍を大特集。再び大洗町で繰り広げられる激闘と、全国大会を経て大きく成長した西住みほや大洗女子の活躍を、すべてお見せいたします。もちろん、新たに登場するヒロインや新戦車も徹底紹介。秘密のベールに包まれた彼女たちの意外な素顔や、新戦車によるド派手な戦闘シーンも、余すところなくお届けします！

また、新コーナーもぞくぞくと企画中。奥深い戦車道の世界を、さらに掘り下げていきます。各情報ページでは「大洗あんこう祭」を始め、11月以降に開催される各種イベントや各劇場での舞台あいさつの模様を追跡。インタビューコーナーでは、劇場版の主要スタッフを始めとした『ガルパン』のキーパーソンに、貴重なお話を伺う予定です。ぜひ、2016年春に発売予定の「月刊戦車道特別号2」にご期待ください!!







クルセイダーを駆り、大洗女子や知波単に挑む聖グロリアーナのローズヒップ。紅茶を片手に余裕そうだが、彼女はどう試合に関わっていくのだろうか

劇場版の見どころも総力特集

ストーリーや戦車だけでなく、ヒロインたちのくつろいだ表情や、各所に散りばめられたミリタリーネタも完全フォロー。『ガルパン』の集大成となる劇場版の魅力を、あらゆる角度から読み解きます





月刊戦車道 特別号2
2016年 春 発売予定
※内容は予告なく変更される場合がございます。

充実のラインナップで贈る特集記事!

ガルパン・イベントレポート
多くのファンが集まりヒートアップした、イベントの模様をレポート。その盛況ぶりをお届けします。

不肖・秋山優花里の戦車講座
戦車が大好きな秋山殿がマニアックな視点で、秘められた戦車の歴史を愛情たっぷりに語る第8弾。

これが私たちの戦車道
あんこうチームの武部沙織・五十鈴華・秋山優花里・冷泉麻子が、大会優勝までの想いを語る。

この他にも新企画が続々と登場予定! お楽しみに!!

戦車人の肖像
『ガルパン』に影響を与えた方々や、制作スタッフを直撃。戦車や作品への思い入れを伺います。

戦車道ヒストリア
次回はアメリカでの戦車道競技を紹介。ヨーロッパとは違う、陽気で豪快な競技の様子を解説します。

月刊戦車道
第63回 戦車道全国高校生大会 総決算 特別号1

企画・編集・執筆
長谷部大樹(バンダイビジュアル)
杉山潔(バンダイビジュアル)
小牧雅伸(スタジオ小牧)
千手創吾(スタジオ小牧)
鈴木貴昭
岡田邦彦
糟谷富美夫
モリナガ・ヨウ
松田未来

執筆・編集協力
塩田昌之

写真提供
グランドパワー(ガリレオ出版)
大塚正論
吉川和篤
日向昭了

カバー・本文デザイン
原田美穂(OverDriveDesign)
浜岡弘臣(OverDriveDesign)
中村浩樹(OverDriveDesign)
新保真澄(OverDriveDesign)

協力
バンダイビジュアル
アクタス
グラフィニカ
スタジオ・ちゅーりっぷ
ウォーゲーミング
ウォーゲーミングジャパン
株式会社PACIFIC REACING TEAM
株式会社かまど
株式会社フルハウス
茨城空港
大洗町の皆さま
ガリレオ出版
吉川和篤

発行日 2015年11月3日
発行人 前田明雄
発行所 バンダイビジュアル株式会社
〒150-0013 東京都渋谷区 恵比寿
1-18-14 恵比寿ファーストスクエア
http://www.bandaivisual.co.jp/
印刷所 株式会社テンプリント

実物大プロップ
Ⅳ号戦車H型 展示予定!





各イベントで話題のⅣ号戦車H型が展示される模様。日照プラントさんのⅣ号戦車やCV33との共演が見られるかも!?



11月15日(日) 大洗 あんこう祭開催!



※写真は2014年の模様です。

今年で19回目を迎える「大洗あんこう祭」が、茨城県大洗町でいよいよ開催。今回もあんこうチームのキャスト5人が、ステージに登場する。劇場版公開を直前に控えたキャスト陣が、何を語るのかが興味深い。また会場内には、『ガルパン』関連の特設ブースが開設される。注目の新グッズも販売されるので、この機会にぜひ、お求めいただきたい。

そして、会場内で販売される「あんこう汁」や「あんこう鍋」も絶品。ステージでは地元の方々による、あんこうの吊るし切りも披露されるので、その巧みな手さばきも堪能して欲しい。さらに大洗町商店街でも、各種イベントが盛りだくさん。お気に入りのお店でおいしいものを食べながら、にぎやかな商店街の雰囲気を楽しんでもらいたい。

新グッズを「バンダイビジュアルクラブ」ブースで数量限定発売!

ガールズ&パンツァー 日本戦車道連盟公認キャップ



日本戦車道連盟のロゴが刺繍された、キャップが登場。もちろん連盟公認! ぜひ「大洗あんこう祭」の会場で、かぶって欲しい!!

サイズ:フリーサイズ(55~60cm)
素　材:綿・ポリエステル・プラスチック
仕　様:立体刺繍仕様(正面・側面)

※会場で、スタッフジャンパーと一緒に購入すると特典付き!
●2,778円(税抜)

ガールズ&パンツァー茶器揃【Ⅳ号戦車砲塔急須セット】



Ⅳ号戦車D型が、なんと急須になって登場。戦車道&名言集の湯呑み(2個)と桐箱入りの豪華茶器セット!!

・Ⅳ号戦車D型急須
サイズ:縦約17cm×横約18cm×高さ約8.5cm
容量:約300cc
・湯呑み(2個)
高さ:83mm/口径:62mm/容量:約150cc

※会場で「スタッフジャンパー」と一緒に購入すると特典付き!
●11,111円(税抜)

ガールズ&パンツァー ダージリン様の格言Tシャツ
(3種類/ブラック、グリーン、ロイヤルブルー)



作中で披露されたダージリン様の名言が、燦然と胸に輝くTシャツ!

サ イ ズ:M(身丈:70cm/身巾:52cm
肩巾:47cm/袖丈:20cm)
L(身丈:74cm/身巾:55cm
肩巾:50cm/袖丈:22cm)
LL(身丈:82cm/身巾:61cm
肩巾:56cm/袖丈:26cm)
生地素材:綿100%　●2,778円(税抜)

ガールズ&パンツァー スタッフジャンパー

大洗女子学園全メンバーと各ライバル校の、かわいいSDキャラクターたち総勢43人で彩る、スタッフジャンパーが登場!



サ イ ズ:L(着丈:73cm/身巾:59cm/裄丈:89cm)
XL(着丈:76cm/身巾:63cm/裄丈:92.5cm)
生地素材:表 ナイロン100%
裏 ポリエステル100%
生 地 色:ネイビー

※会場で「日本戦車道連盟キャップ」or「Ⅳ号戦車砲塔急須セット」のいずれかと一緒に購入すると特典付き!
●6,482円(税抜)

ガールズ&パンツァー GIRLS und PANZER

月刊 戦車道 特別編集

第63回 戦車道全国高校生大会 総決算特別号1

●発行：財団法人 日本戦車道連盟 Tel.1000-100-5050
●編集：月刊戦車道編集部
●発売・販売元：バンダイビジュアル株式会社 TU-0500